特265
579

博文館文庫

—(33)—

夏の盆栽

農業世界編輯局編

始

#265
579

博文館文庫

—33—

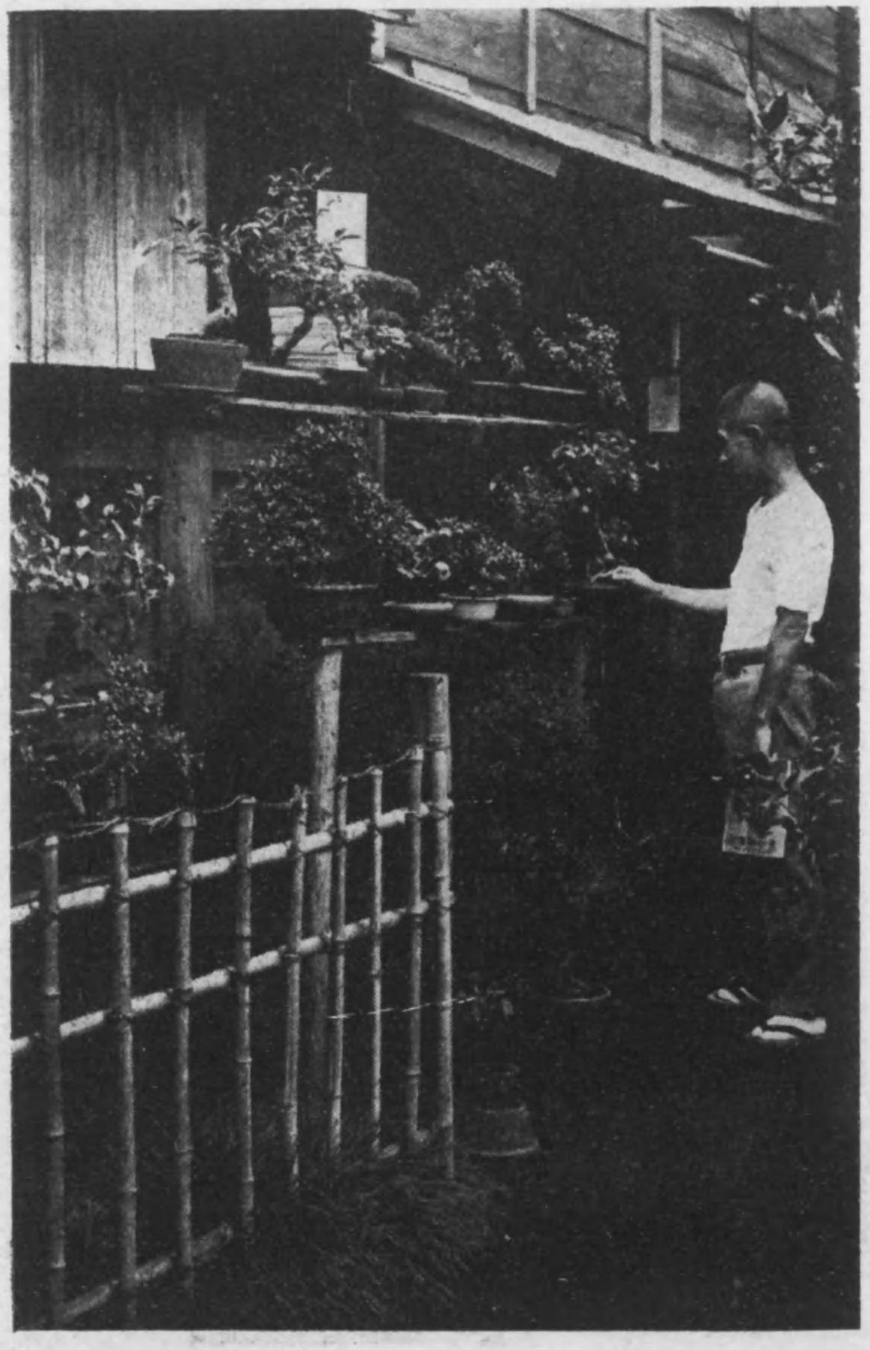
栽盆の夏

栽盆秘訣

農業世界編輯局編

昭和十四年
帝國小學校

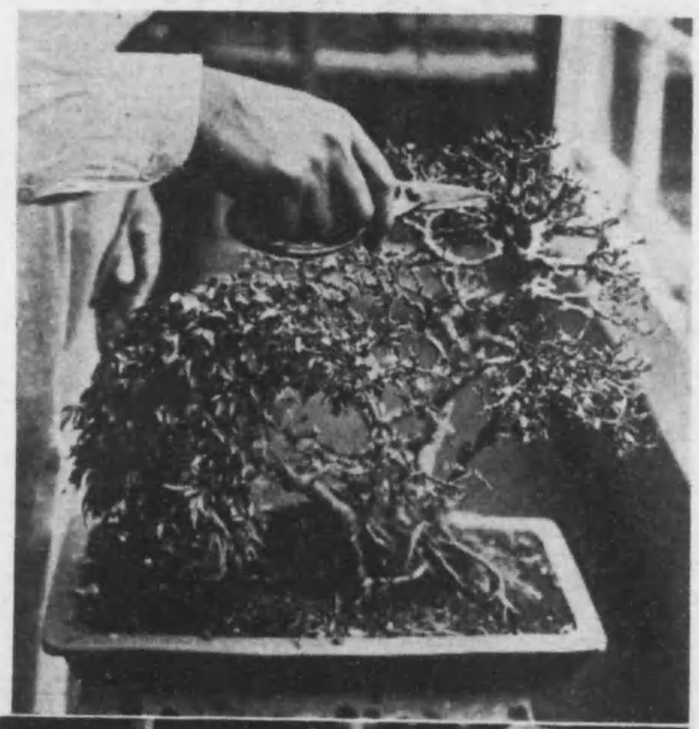
吾家の盆栽



夏の盆栽手入(其の一)

上は五葉松の綿蟲取り
下は石榴の新梢の摘込み

夏の盆栽手入(其の二)

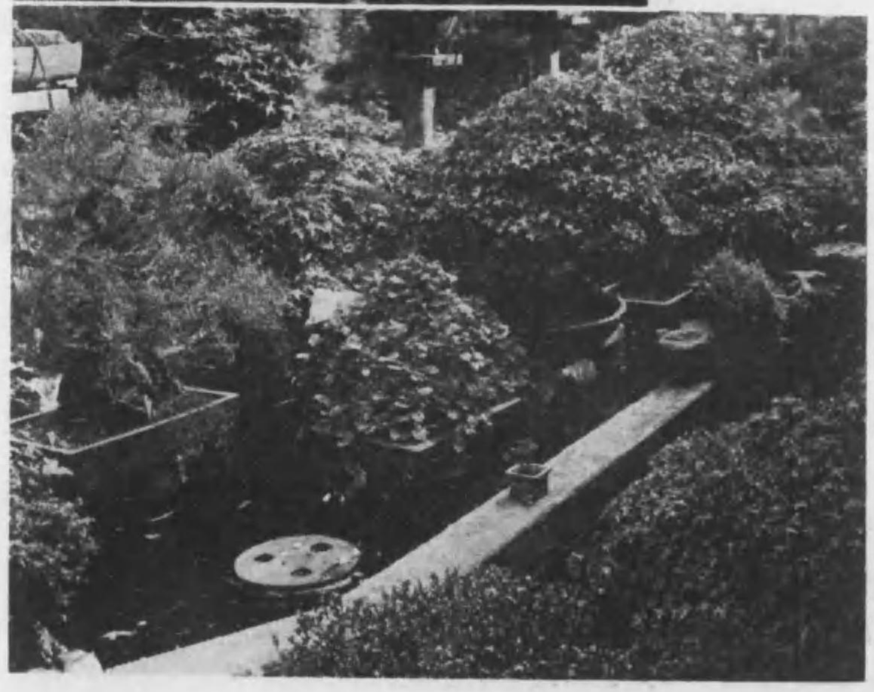


上は楓(かへで)の葉刈
下は梅の新梢の針金掛

水花壇（その一）

（本文二十五頁の水花壇の記事を參照下さい）

上圖斜横から見た所、下圖は上から見下した所

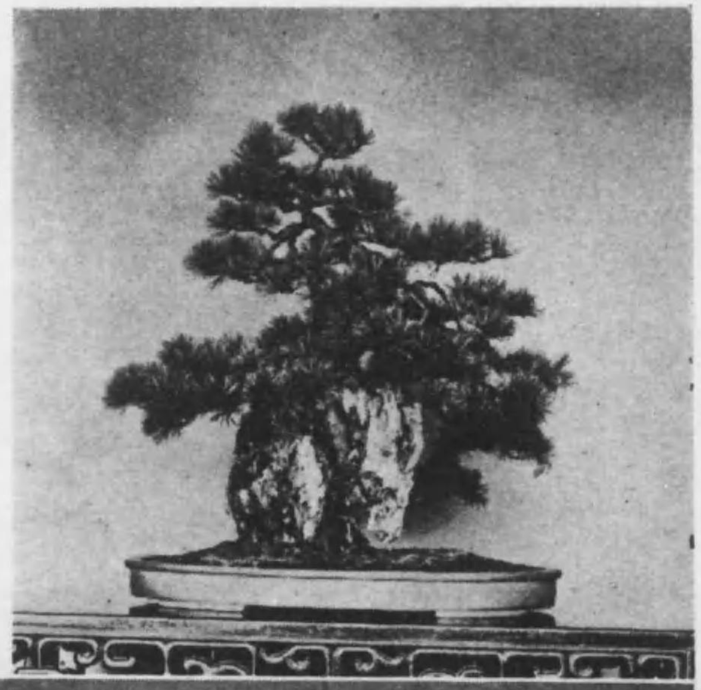


水花壇（その二）

上圖＝水花壇の上に板を渡して水石と盆栽を陳列したところ

下圖＝同じ場面を横から見たところ

石附盆栽

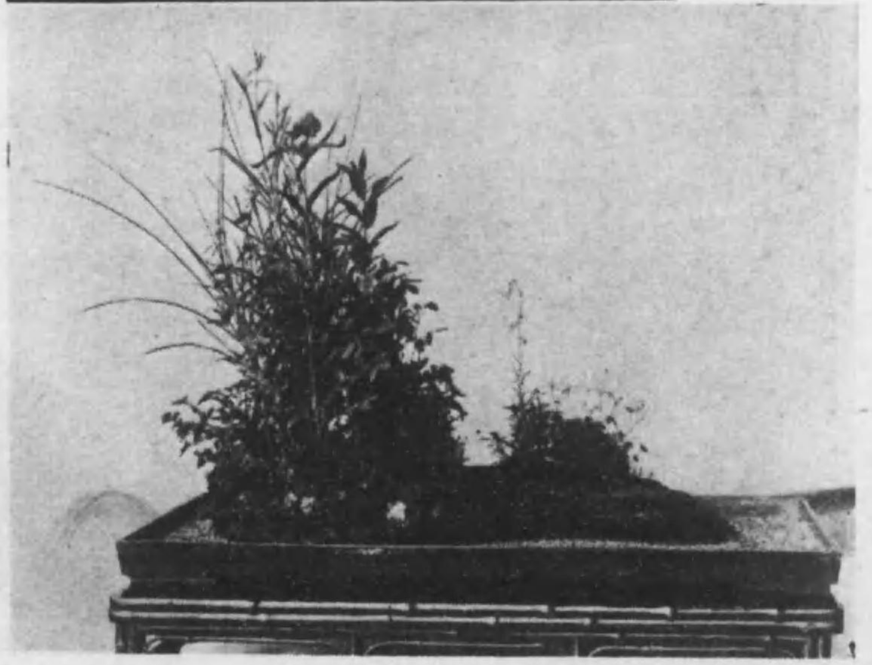


上は五葉松の石附

下は蝦夷松の石附

寒竹と野草

右は石をあしらつた寒竹の盆栽



下は石附の野草の水盤作り

朝鮮姫石榴

盆栽秘訣 夏の盆栽 目次

寫眞及び挿畫

○蝦夷松の寄植……（表紙）
○吾家の盆栽……（口繪一）
○五葉松の綿蟲驅除……（口繪二）
○石榴の芽摘……（口繪三）
○楓の葉刈……（口繪三）
○梅の新梢の針金掛……（口繪三）
○水花壇（その一）……（口繪四）
○水花壇（その二）……（口繪五）
○寒竹と野草……（口繪六）
○五葉松の石附……（口繪七）
○蝦夷松の石附……（口繪七）
○朝鮮姫石榴……（口繪八）
○水花壇の圖解……（二五）
○卷柏に枝を打たせる法……（一〇三）
○石榴の實の成る花……（一一七）
○枇杷の誘引法……（一三七）

汎論及び各論

○はしがき……（六）
○「夏の盆栽」に就いて……（七）
○手ほどき豆本……（九）
○夏と盆栽……（一〇）
○夏期の盆栽置場所……（一四）
○夏と盆栽棚の必要……（一六）

○盆栽棚構造の要點……（一七）
○夏向盆栽棚の作り方……（一八）
○水花壇の事……（二四）
○懸崖用の盆栽臺……（二八）
○盆栽用の日除……（三〇）
○夏の灌水と葉水……（三三）
○灌水の必要……（三三）
○灌水の目的と效能……（三四）
○灌水の缺點……（三五）
○灌水用の水……（三六）
○汲置水の作り方……（三七）
○不良水の使ひ方……（三八）
○灌水用具……（三九）
○灌水時間……（四〇）
○灌水の必要な狀態……（四二）
○灌水の實際方法……（四四）
○葉水の事……（四七）
○肥料の施し方……（四八）
○葉刈又は葉切……（五二）
○芽摘の仕方……（五四）
○針金掛と矯整……（五六）
○害蟲の驅除法……（五八）
○夏の盆栽植替……（六〇）
○夏期の培養心得……（六一）
○夏期の盆栽陳列と鑑賞……（六五）
○夏に觀賞する盆栽……（六八）
○五葉松の盆養法……（七八）
○眞柏の盆養法……（七九）
○杉の盆養法……（八一）
○杜松の盆養法……（八二）
○竹の盆養法……（八三）
○笹の盆養法……（八七）
○槭と楓の盆養法……（九〇）
○柳の盆養法……（九二）

○櫻柳の盆養法……（九五）
○蔦の盆養法……（九八）
○卷柏の盆養法……（一〇〇）
○草竹の盆養法……（一〇四）
○石榴の盆養法……（一〇六）
○百日紅の盆養法……（一一〇）
○合歡木の盆養法……（一一四）
○醋甲藤の盆養法……（一一九）
○黃槿（はまぼう）の盆養法……（一二一）
○土用藤の盆養法……（一二二）
○皐月の盆養法……（一二四）
○山櫻桃の盆養法……（一二八）
○梅の盆養法……（一三〇）
○李の盆養法……（一三一）
○棗（なつめ）の盆養法……（一三二）
○木半夏の盆養法……（一三三）
○枇杷の盆養法……（一三五）
○桑の盆養法……（一三六）
○臺灣狹の水盤作り……（一三八）
○石菖の水盤作り……（一四〇）
○風知草の水盤作り……（一四二）
○紅ちがやの水盤作り……（一四四）
○蘆の水盤作り……（一四五）
○水木賊の水盤作り……（一四七）
○緣日盆栽禮讃……（一四八）
○夏の夜店で人氣のある盆栽……（一五一）
○緣日盆栽の上手な買ひ方……（一六二）
○小品、石附、水盤物の場合……（一六八）
○賣り買ひの掛引いろ〳〵……（一七〇）
○緣日盆栽とインチキ……（一七一）
○緣日盆栽の上手な夏越し法……（一七四）
○故障が起きた場合の手當……（一七八）
○夏に觀る山草と高山植物……（一八〇）
○山草・高山植物の夏越し法……（一八七）

はしがき

前代未聞の全國的盆栽熱勃興の機運に乘じて、逸早く計畫された本誌編輯局編の初心盆栽者の手引書「四季の盆栽豆本」は、絶大なる好評裡に遂に全四卷を完成致しました。

顧みますれば、昨昭和十二年九月に第一篇「盆栽秘訣 秋の盆栽」を出してより同年十二月に「盆栽秘訣 冬の盆栽」を出し、續いて今十三年四月に「盆栽秘訣 春の盆栽」を出し、更に此の七月を期して最後の一篇「盆栽秘訣 夏の盆栽」を發行する迄、僅々一ヶ年間に豫定通り矢繼早に進行して此の事業を成し遂げたわけであります。しかもその書物が、ことごとく讀者によつて直ちにどん〳〵活用されて居るのでありますから、かかることは出版界に於ても誠に珍らしいことと云はなくてはなりません。見方を變へて申せば、此の「四季の盆栽豆本」が時宜に適し、初心盆栽者の手引書として恰好のものであることを裏書してをるとも云へませう。

併し煎じつめれば、これも偏に愛讀者各位の熱誠なる御後援の賜物に外ならずと、深く

〳〵感謝してをります。同時に之が記事寫眞蒐集に際して、盆栽界の爲になることだからと云つて、何等惜しむ處なく、むしろ喜んで數多の活材料を提供下された盆栽業者並に愛盆家諸氏の御厚意を無視するわけには參りません。亦その一面には、諸々方々から集めた材料の整理記述に當つたわが農業世界記者諸君の並々ならぬ努力のあることを附記して差支へあるまいと存じます。

斯くして初心盆栽者の手引書「四季の盆栽豆本」全四卷が完成したのです。こゝに本書の完成に當つて一言御挨拶を申上げ、併せて本書のご活用とご吹聽を一段とお願ひする次第でございます。

「盆栽秘訣 夏の盆栽」に就いて

「四季の盆栽豆本」の前三卷に於ては、大體、次の見當で記載して參りました。即ち、

「盆栽秘訣 秋の盆栽」にありては、主として秋つまり九月から十、十一月にかけて三ヶ月間に鑑賞する盆栽の種類と、秋に行ふ盆栽一般の手入、秋の盆栽陳列法、秋に鑑賞する盆栽の個々の仕立方などを記述し、

「盆栽秘訣 多の盆栽」に於ては、主として多つまり十二月から翌春一、二月にかけて三ケ月間に鑑賞する盆栽の種類と、多に必要な盆栽設備及び多に大切な盆栽の一般手當、多の盆栽陳列法、多に鑑賞する盆栽の個々の仕立方などを記述し、また

「盆栽秘訣 春の盆栽」に於ては、これと略同じ要領で、主として春つまり三月から四、五月にかけて三ケ月間に鑑賞する盆栽の種類と、春に行ふ盆栽一般の手入及び扱ひ方、春の盆栽陳列法、盆栽用原木の採取並に根付法、春に鑑賞する個々の盆栽の仕立方などを記述しました。よつて殘る一篇

「盆栽秘訣 夏の盆栽」にありては、矢張り同じ要領で、主として夏つまり六月から七、八月にかけて三ケ月間に鑑賞する盆栽の種類と、夏に行ふ盆栽の一般手入及び夏に必要な盆栽設備、夏の盆栽陳列法、夏に鑑賞する盆栽の個々の仕立方、更に緣日盆栽、山草及び高山植物の盆養保越し法などを記述することに致しました。

從つて各篇には、記述上多少の重複は免れませんけれども、この點は豫めお含みおきを願ひます。尚この「四季の盆栽豆本」の姉妹篇として、次の如き初心者向の盆栽手ほどき豆本其の他を發行して居りますから、御併讀下さらば幸甚です。

初心者向の手ほどき豆本

（農業世界編輯局編）

「盆栽秘訣 **盆栽入門**」これこそ盆栽いぢりを始めようとするずぶの素人が、先づ第一に讀むべき書物であります。盆栽に關するいろ〳〵の常識を懇切平易に詳述してあります。

「盆栽秘訣 **小菊の盆栽**」最近菊花界に於て斷然人氣のある小菊の盆栽式作り方に淳いて懇切平易に詳述したもの。

「盆栽秘訣 **小品及小物盆栽**」盆栽界の寵兒小品盆栽と小物盆栽の作り方、保込み方を詳述。

「盆栽秘訣 **萬年青と蘭**」日本趣味の二大園藝植物たる高級萬年青と蘭の作り方を詳述。

「培養秘訣 **棕梠竹と觀音竹**」最も大衆的な四季向の人氣鉢植棕梠竹と觀音竹及びこれらの斑入物の作り方を懇切平易に詳述。

「培養秘訣 **朝顔の作り方**」夏咲く日本趣味の代表的草花大輪朝顔、その他各種の朝顔の各樣の作り方を至極平易に且つ懇切に詳述した書物です。故に朝顔作りを始めたい人々は必ず一讀を要する朝顔作り入門書です。

（以上各册共一册送料共四十三錢　東京・日本橋・本町博文館發行）

夏と盆栽

新綠が日增しに色濃やかになつて、葉陰に見える櫻の實がそろ〳〵色着き初め、人々が袷を脱いで、見るからにすが〳〵しさうな單物に着替へる六月頃ともなりますれば、もう何と云つても夏です。

氣溫は日一日と昇つて行きます。盆栽の今春ふいた芽は、四月五月と陽氣のよくなるにつれて最も旺盛なる發育伸展をなし、五月末頃からぼつ〳〵それが充實して參ります。新梢や新葉が固まつて來るのです。盆樹を肥培するには、斷じて此の期を無爲に過してはなりません。とりわけて春花の咲く樹種、例へば梅、迎春花、木瓜、臘梅、櫻、李、梨、桃などにあつては、來年の花芽を分化形成させる意味から云つても、此の期に充分肥培しておくことが絶對に必要であります。

されば入梅前の十日乃至二十日間は、灌水や施肥に特に注意し、充分なる水養分を與へると同時に、日光や空氣にも充分にあて、同化作用や呼吸作用等の全機能を遺憾なく發揮させて、十二分なる發育を促す樣に努むべきであります。

一方徒長を防いで樹形を崩さぬ樣にして行く爲には、此の期に適度に摘芯や針金掛を行ふことが肝要です。また害蟲の驅除を行はなくてはなりません。

この期を過ぎますと、我國ではいはゆる梅雨期となります。つまり約一ヶ月間は、長雨が降つたり、蒸し暑い日が續いたりして、健康な人々でさへ、自分の體をもて餘すとか、憂鬱な氣持になり易い、甚だ不順な鬱陶しい天候が打續いて惱まされます。從つて盆栽の培養に當つては、努めて通風をよくし、充分注意を要することは申すまでもありません。特に鉢底の水拔けと、通氣の不良と過肥から來る根腐れには注意を要します。併し盆栽にとつては、梅雨期は吾吾人間にとつてほどに苦痛とは思はれません。むしろ必要と云ひ度い位大切な時期です。梅などは枯れたかと思つて半ばあきらめたものが、この期に至つて急に新芽を吹出し、どうかすると翌年その遲れ馳せの枝に花をもつことがあります。

また、梅雨期は高溫多濕で一年中で最も發根し易い時期でありますから、新芽の略充實したものを切取つて此の期に挿木すれば、大抵の樹種は發根活着致します。つまり挿木繁殖の好シーズンであります。同じ理由から春二月頃から五月に亙つて取木法を行つたものも、大抵この期に至つて發根し、既に入梅前に於て發根してをるものは、この期に於て最も盛んに發根致します。故に春取木法を行つたものは、普通梅雨明け後に至つて親木より切離し、鉢に植込ん

で差支へないものであります。

やがて此の梅雨期が過ぎますと、間もなく今度はいよ〳〵夏の土用です。暑い日が續き、旱天が打續きます。人々は暑ければ海に山に避暑に行き、或は日陰に入り、或は煽風器をかけて涼をとることが出來ます。また咽喉が渇けば、氷を飲むなり水を飲むと云ふ手があります。けれども、思ひのまゝに移動の出來ない植物、況んや最少限度とも云ふべき僅かの鉢土中に一命を託して生存する盆栽にあつては、さうした自由が全く得られません。されば土用中の乾燥ほど、盆栽にとつて致命的な恐ろしいものはないのです。吾々は夏市中に於て、屢々灌水を忘れた爲にぐつたり葉も枝も凋れた盆栽を見掛けますが、その有様は一見して誠に氣の毒な位痛々しいもので、心ある人々の等しく同情を寄せるところであります。かう云ふ場合、急に氣がついて汲置水でもない冷水を頭からぶつかけて責任を逃れた様に考へる人がよくありますけれども、盆栽の下葉を落したり、根腐れを起すのは、えてしてかう云ふ時に多い様に思はれます。故に土用中は特に注意して灌水を充分に行ひ、かりそめにも灌水を忘れて盆栽を乾かし過ぎる様なことがあつてはなりません。

また土用中の西日は、盆樹にとつて甚だ有害無益のものでありますから、これは努めて遮ぎる様にしたいと思ひます。それが爲には日除を設けるのが最も有効であります。日除は只單に

日燒けを防ぐ許りでなく、乾燥防止にも非常に役立つからであります。

尚、夏は一般に吾々の最も涼を欲する時期でありますが、殊に土用中は氷や水に次いで青葉が非常に戀しく思はれます。されば室内に飾つて眺めたり、打水をした庭において、夕涼みかたゞ〳〵、打ちくつろいだゆかたに着替へて、座敷なり縁側から眺められる盆栽、とりわけて翠緑滴るが如き青葉物の盆栽や水盤物は亦格別に美しく快いものであります。夏の夜店で縁日盆栽が殊更に人足をひいたり、引張凧の様に賣れたりなぞするのは、右に申上げた結果に外ならぬのであります。

更に土用を過ぎて殘暑も去り、そよ吹く一陣の風に秋來るを思はせる頃ともなりますれば、盆樹は自然と生氣を吹返し、再び旺盛なる發育を開始致します。同時に五、六月頃にも比すべき重要なる肥培のシーズンとなります。

以上に申上げました様に、夏は盆栽の肥培上から之を見ても、盆樹を保護し整形する上から之を見ても、亦盆栽の鑑賞上から之を見直しても、非常に重要なる時期に當ります。とりわけて木を作り、枝をふやすには、此の期の手入を除いて他に手入の適期はございません。「秘訣盆栽」に記述した事柄が、初心盆栽家並に一般愛盆家にとつて見逃し得ないものである所以もそこにあるのです。

夏期の盆栽置場所

盆栽の置場所は、春夏秋冬に從つて變更した方がよい樣に云ふ人があります。勿論これには理由のないことではありませんが、たとへさうすることがよいと致しましても、鉢數の少ない時なら兎に角、少し鉢數がふへると迚も厄介で、現狀をもつてしては、實際問題として到底實行の出來ないことです。事實それほどにまでする必要はない樣に思はれます。

併し、吾々が冬寒い時に少しでも暖かい所を好み、夏暑い時に少しでも涼しい所を好むと同樣に、盆栽も亦或程度迄は多は暖かい所、夏は涼しい所を欲するに相違ないのです。故に、四季のうち、せめて冬の寒い間と夏の暑い間位は、盆栽の置場所に就いて、豫め充分吟味しておく必要があると信じます。而して冬期の盆栽置場所に就いては、本篇の姉妹篇たる「盆栽秘訣多の盆栽」に於て詳述しておきましたので、茲には夏期の盆栽置場所のみに就いて申上げます。

夏期の盆栽置場所は、前にも一寸申上げました通り何分にも暑い時期のことでありますからなるべく風通しのよい、涼しい所が望ましいのです。けれども、それが爲に、殊更に日當りの惡い所や全然日光の直射しない所、或は終日弱日しか當らない所などを選んではいけません。

出來得ることなれば、盆栽の夏の置場所は、朝日を早くから充分に受けて、午後二時乃至三時頃に至つて完全に影り、西日の全然當らない、夜間は雨露に惠まれる、しかも風通しの宜しい所を選ぶべきであります。もつと具體的に申せば、西又は西北或は北側に、建物とか垣根とか立木、その他山、林などがあつて、東又は東南と上方が開けて日當り風通し、露持ち共に申分のない所がよいのです。斯樣な所は四季を通じて朝日がよく當り、概ね多は寒風を防ぎ得て暖かく、夏は早目に影つて涼しく、盆栽もよく出來るものであります。さればかかる所は、盆栽の置場所として、夏と多ばかりでなく、四季を通じて好條件に惠まれた所と云へませう。

尙夏强い西日の當る所では、大層乾き易く、その上盆栽の葉や枝や幹や根などが日燒けを起していけません故に、夏西日の當る所は絶對に避けていただきたい。若し適當な場所がなく、已むなく西日の當る所に夏盆栽をおかねばならぬ樣な場合には、先づ西側に葭簀などを用ひて日除を作り、西日の直射を防ぐ方法を講じて然る後にそこに盆栽をおく樣にしなくてはいけません。この場合には、北、東、南の三方及び天井は、なるべく邪魔物を取拂つて日射、通風共に自由に出來得る樣にしておくべきであります。

其の他盆栽の置場所として是非一應考慮を拂つて戴きたい點は、

一、灌水に便利で、且つ水質のよい所。

一、住宅に近くて毎日の管理に便利であり、且つ盗難の虞の少ない所。
一、犬や鶏などの濫りに侵入しない所。
一、塵埃や噴煙などの飛來することの少ない、空氣のなるべく清澄な所。
一、強風が吹き當てたり、旋風が卷上つたりする虞のない所、已むなく屋上などのさう云ふ虞のある所に盆栽をおく場合には、豫め針金なり頑丈な棕櫚繩なりで、鉢ごと臺の上にしつかり縛りつけておかなくては危險です。等々

夏と盆栽棚の必要

盆栽に限らず、すべて鉢植ものは、直接地上に置きますと、棚の上においた時よりも鉢土の乾き方が少ないのは事實であります。從つて未だ育成中にある盆栽は、灌水の手數を省き、一方地積を活用する意味もあつて、直接地上に並べて肥培する場合が少なくございません。

併し、既に樹形の完成された盆栽や、未だ育成中の盆栽でありましてもその徐々に發育して完成へと近付いて行く有樣を見て樂しむ場合には、直接地上に置きますと、泥土の爲に鉢や幹や枝や葉、花、實などが汚されて見苦しくなります。殊に夏の夕立などに遇ひますと、跳泥の

爲にすつかり泥まみれとなり、それが乾くと固まりついて鉢や葉の氣孔をふさぎ、植物の生理上に惡い影響を及ぼします。のみならず、蟻やみみず、なめくじ、蝸牛などの害蟲が寄生し易くなります。故に鑑賞し乍ら培養して行く盆栽にあつては、夏は必ず戸外に棚を設けて、その上に盆栽をおく樣にしたいものです。さうすれば、多少乾き易いと云ふ缺點はありますけれども、日當りも風通しも一層よくなり、枝や葉が引緊つてよく出來ます。

また、コンクリートの上、若しくは屋上や物干臺のトタン張りの上に直接鉢をおきますと、土用中の日中などは輻射熱の爲に鉢が屢々華氏の百度以上に上り、幾ら灌水しても燒石に水で直ぐに乾いて仕舞ひ、一寸の油斷から根腐りなどを起して萎凋し、甚だしい時には遂に取返しのつかぬ結果にまで立至ります。それ故に夏はコンクリートや石張り或はトタン張りの上に直接鉢をおくことのない樣に注意し、出來ることならば、先づ清潔な蓆又は分厚の板を敷いて、次にその上に載せておくか、さもなければ棚をこしらへてその上におく樣にするのが宜しい。

盆栽棚構造の要點

さて、盆栽棚の作り方は、種々考案されて居りますが、要するに次の諸點に重點をおいて、

各自の懐工合と相談の上で、分相應のものを作ればよいと思ひます。

その構造の要點は、

一、構造が簡單で耐久力あること。

二、灌水、施肥、害虫驅除、鉢の上げ下し等の諸作業に便利なること。

三、蟻を防ぐ何等から設備を施しておくこと。

四、暴風の場合に、容易に鉢ごと棚なり臺なりに結縛し得る様にしておくこと。

五、庭や建物の美觀を損じない、寧ろ之あるがために庭の美觀をそへる位のものとすること。

六、尙盆栽棚を固定式の常設とする場合には、單に盆栽棚として夏場に使用する許りでなく、秋も冬も春も之が二重、三重に役立ち、或は同時に二つ以上の用途に兼用せられる様に工夫改良すること、例へば棚下に水槽を作つて金魚を放しておき、その水を灌水に用ひ、いざ火事とあつては防火用に供するなどです。その他棚下を水石の置場としたり、冬期盆栽の冬圍ひ所に流用するなどは、心ある人々の夙に實驗してゐる所であります。

夏向盆栽棚の作り方

盆栽棚の作り方は、先輩の方々のを見せて戴けば直ぐわかることですが、實に十人十色であつて、極く簡單なものから、純建築式のものに至るまで彼是百種位あります。しかも年々新様式のものがどん〳〵考案新設され、その止まる所を知らぬ盛況であります。從つてその構造形式や材料なども種々雜多でありますが、こゝには如何にも夏向と思はれる盆栽棚數種の例をあげて簡單に紹介することに致します。

一、緣臺式の盆栽棚　恰度夏の夕方、家庭で涼み臺に用ひるいはゆる緣臺形のものです。その構造や大きさなど大體緣臺に準じて作ります。即ち高さは雨にあつても跳泥の上つてくる處のない程度であつて、灌水や鉢の上げ下しなどに手頃な二尺位とし、幅約三尺、長さ六尺とし、四脚には徑三寸位の剝丸太又は角材を用ひ、上に張る板は幾分厚目の鉋掛けしたものを用ひます。尙板の張り方は、冬棚下を防寒用として流用したい場合は、隙間なしの全面張りとすることが多く、さうでない場合には、一板毎に通風兼水落し用の間隔をおいて格子張りにしておきます。さすれば鉢を結縛するにも便利です。時には板の代りに、耐久力のある竹簀張りにする人もあります。何れにしましても、體裁よく且つ頑丈に作り、自由に所望の場所に持運べる様に豫め移動式に作つておきます。そして之を用ひる時には、必ず四脚の下に水を盛つた蟻除け用の器――俗に水鉢と呼んでゐます――をおき、蟻が棚の脚を匐ふて上に上れない様にし

ておきます。若し始めからこの盆栽棚を一定の所に固定して作りますならば、先づ四脚の當る部分に、豫め徑五―六寸の土管などを埋けて底をセメントで詰め、内部に水を湛えてその水の中に脚の下部を浸しておきます。隨所に移動する場合は、組立式にしておくと便利です。

この縁臺式の盆栽臺は、構造や用材の上に多少の相違はあれ、兎に角現今最も廣く一般に用ひられて居ります。

二、一枚板の盆栽棚　極くアマチュアー向の最も簡單なる、しかも至極使ひ易い盆栽棚であります。その作り方は、先づ丸太又は土管を三―四尺毎に一直線上に（高さ二尺―三尺位に）立てて之を脚とし、その上に正味五分以上のなるべく分厚の板を横たへて固定し、その上に盆栽を並べます。此の場合、棚の長さは管理に便する爲に二間以内とし、棚板の幅は狹くても五寸以上、普通七―八寸は欲しいと思ひます。勿論廣ければ廣いほど結構ですが、廣板を用ひる場合はそれに應じて脚のしつかりしたものを用ひなくてはなりませんから、從つて金目もズツト餘計にかかることは云ふまでもありません。また棚の方向は、普通南面する樣に東西に長く作られますが、場所によつては必ずしも之を固守する必要はありません。要するに場所に應じて、朝日が早くからよく當り、午後は早目に影つて西日が射さぬ樣に、しかも充分通風が出來る樣に考へて作れば宜しい。

尙一枚板の盆栽棚を座敷の前や縁側などに平行して一つだけ作る場合には、座敷面より五寸乃至一尺位高くすると、觀賞する上からは滿點であります。更に一歩を進めて、直立の單脚とせず、鳥居型の双脚として、各脚の下端を水鉢中に浸しておく樣にすれば、蟻を防ぐことが出來ます。

三、雛段式の盆栽棚　これはお雛樣を飾る時の樣に、棚を段々に設けて、いはゆる雛段形に體裁よく作つた盆栽棚を云ふのであります。縁側の前とか、軒端とか、壁や塀などに沿ふて蘭や常夏、小菊などを作る場合に最も普通に用ひられる棚でありまして、盆栽にもよく用ひられます。一見してわかる樣に、如何にも整頓して居て、日射、通風共に都合よく出來た立體的の棚でありますが、段數が多い時には日射、通風共に不良となり、殊に塀や壁に接近しておいた場合にはその害が著しく盆栽の作の上に現はれて來るものであります。故に雛段式の盆栽棚をこしらへて用ひます場合には、段數を三段以上ふやさないこと。塀や壁などに餘りに接近して据付けないこと。なるべく小物盆栽や小品盆栽や水盤物等の小型物に用ひ、大形物には使用しないこと等に注意を要します。

四、掘立式の盆栽棚　これにもいろんな作り方がございますが、最も簡單なのは、一尺五寸―二尺五寸離して二本づつ、高さ二尺位、太さ徑三寸以上の丸太を、適當な間隔をおいて直線

上に立てて行き、各々の二本脚の上に横木を渡して、その上に板を載せて棚を作る方法であります。棚の幅は二尺五寸乃至三尺とし、用ふる板幅によつて二板渡し又は三板渡しとし、何れによると致しましても、板と板との間は少し隙かして通風、排水、鉢の結縛に便利な樣にしておきます。棚板は炎天に曝されても、直ぐには外り反らないだけの厚味のあるものを用ひ、鉋掛けはざつとしておきますが、防腐劑は危險故塗らずにおきます。棚の長さはその上に並べる鉢數によりますが、大體二間を標準として一棚とし、鉢數の多い時には棚數をふやして行きます。反對に鉢數の少ない時には、縁臺式に棚の長さを六尺に詰めて作ります。棚の方向は勿論場所によりますが、普通は日射、通風共に宜しい爲に、東西に長く据付けて居ります。

尙この掘立式の棚を作ります場合には、丸太の下端部を土中に穴を掘つて埋めるか、槌にて打込むのでありますから、土中に沒する部分は豫め燒いて炭化させておくなり、防腐劑を塗沫しておくが宜しい。尤も耐久力のある栗材などを氣張つて用ひます場合には、强いて右樣の手段を講じなくても、數年乃至十年はどうにか保つものであります。更に一歩を進めて、花崗岩の柱などを使用し、その上に横木を渡して板張りすれば、脚だけは永久的に使へます。棚板は赤身の厚いもので、せい〳〵五、六年の壽命とみてよからうと思ひます。

五、コンクリート製の盆栽棚　盆栽棚として、永久的なのは鐵筋コンクリート製の盆栽棚であります。これは近來各所で作られる樣になりました。申す迄もなく、何れも固定式であつて、材料の性質上組立て式や移動式には作られて居りません。その構造や形式には種々工夫が凝らされて居りますが、之を大別すると、次の二通りになる樣であります。

その一つは、脚部だけを鐵筋コンクリートで作り、棚部には分厚の板を用ひるもの。

他の一つは、脚部も棚部も全部鐵筋コンクリートで作るもの。

而して前者にあつては、板を腐れた度に取替へなくてはならぬし、體裁も餘りよくないなどの缺點があります。その代り鉢を損傷する心配は割合に少なく、また夏如何に高溫に昇つた時でも、板の輻射熱の爲に根腐りや葉燒けを起す虞は絶對にありません。ところが後者にあつては、近代の建築樣式に從つて、裝飾的に或は擬似木流に巧く作れば、體裁もよく、永久的でもあり、且つ清潔であります。その代り、餘程注意しませんと鉢を損じたり、夏土用中に輻射熱の爲に乾き易く、根腐りや葉燒を起す心配があります。

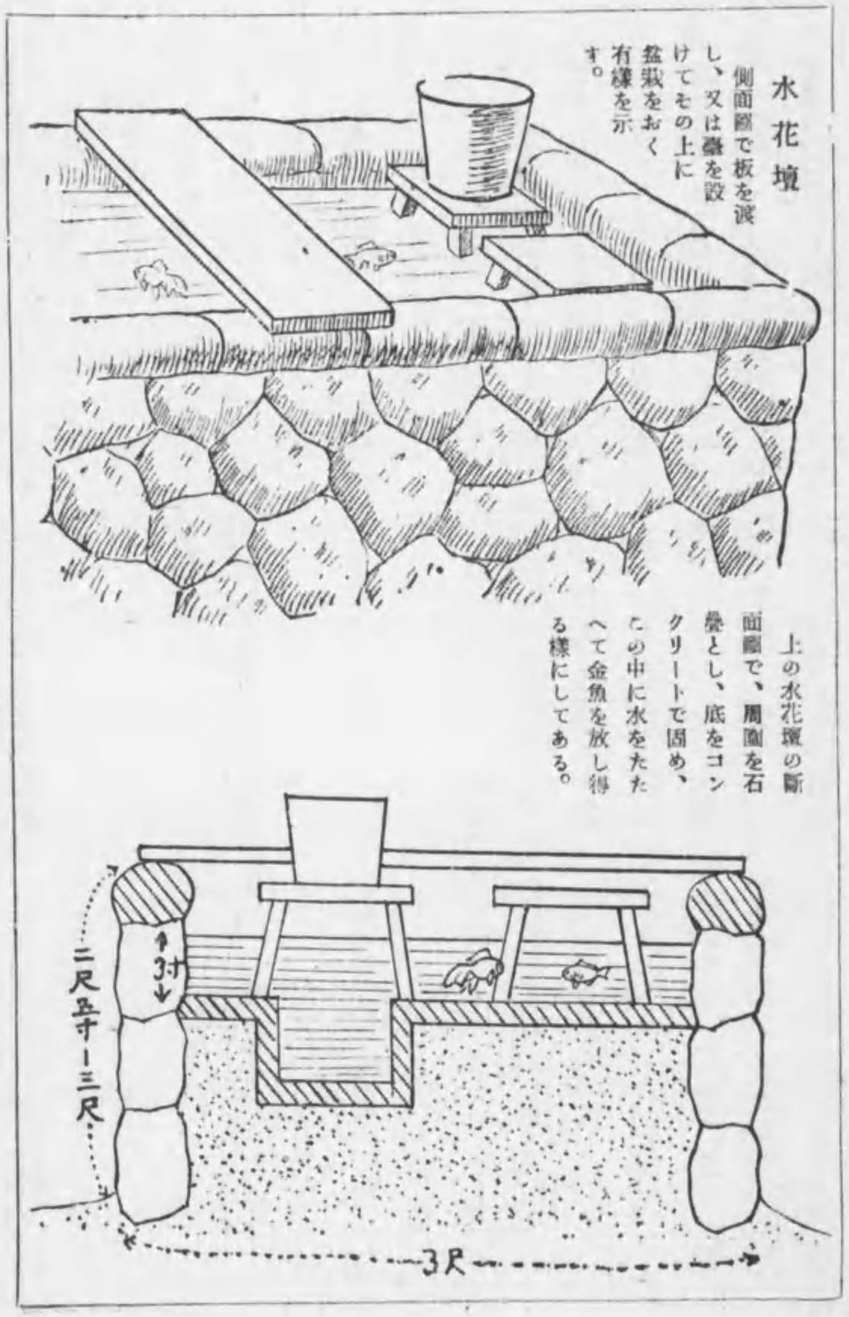
之を要するに兩者共に一長一短ではありますが、夫々の性質を充分に呑込んで、各々の缺點を何等かの方法によつて補ひ、同時に長所を活かす樣にすれば、何れによつても差支へないと思ひます。例へばコンクリート製の棚でも、鉢をその上に直接におくことなく、必ず分厚の板片を敷いてその上におく樣にし、それでも尙輻射熱乃至反射熱のひどい時には、灌水回數を

一回だけふやすとか、簡單な日除を設けるなど致しますれば、却つて板棚の上よりも好成績が得られるものであります。

六、鐵脚の盆栽棚　右に紹介した五種のほかに、尚極く最近までは、鐵製の圓形パイプ又はL字形の鐵骨を脚とした板張りの盆栽棚を作る人もありました。この種の鐵脚の盆栽棚は、ガッチリと作り、蟻除け用の水鉢をはかせて用ふる樣にすれば、耐久力もあり絶對安全でもありますが、これは時節柄當分作れなくなりました。

水花壇の事

主として夏に使用する盆栽棚の一種に、俗に水花壇と云ふのがあります。よく座敷の前とか應接室の窓から見よい所などに作られるもので、周圍をコンクリート又は石疊とし、或は種々の石を組合せてコンクリートで固めた風雅なものも作られます。その大きさは普通幅三尺、高さ二尺五寸―三尺、長さ一間―二間位でありまして、この中に深さ五寸―七寸位の水槽を設けて淺水を湛へ、その上に棚板を張るか又は鉢臺を据付けて鉢をおく樣にしたものであります。この水花壇の優れた點は、



水花壇

側面圖で板を淺し、又は臺を設けてその上に盆栽をおく有樣を示す。

上の水花壇の斷面圖で、周圍を石疊とし、底をコンクリートで固め、この中に水をたたへて金魚を放し得る樣にしてある。

一、夏水蒸氣を下方から盆栽に豐富に供給して、盆樹の發育並に結實を良好ならしめます。

二、日中氣溫が矢鱈に上昇することを防ぐと共に、夜間は氣溫が急激に降下することを防いで、常に氣溫を調節してくれます。

三、蟻が上つて來るのを防ぐことができます。

四、夏日盆栽を水鏡に映してその姿を眺めることが出來ますので、非常に美しく且つ凉しく、快いものです。

五、その水中に目高、金魚、鯉などを放養しておきますと、その泳ぎ游ぶ面白さを眺めて樂しむことが出來ます。

六、水深を深めて多量の蓄水を行ひますなれば、不時の防火用水に充てることが出來ます。

以上の如く澤山ありますが、又その反面には缺點がないではありません。例へば、

一、固定式であります爲に、多は兎角厄介物視されること。

二、時々水を取換へてやらなくてはなりません。故に面倒であること。

等です。併し水花壇は元々幾棚も作る譯ではなく、一つかせいぜい二つ作る位のものであります。すから、淺い水花壇ならば多は水を落してその中に炭俵などを敷き、その上を松柏類の盆栽の如き多戸外において差支へない丈夫なものの置場とし、鉢の上や鉢と鉢との合間などに赤松葉

などを蔽ふておく樣にすれば、多も立派な觀賞臺として使へ、盆栽の雪景色などは亦格別の趣があります。又水を取換へますには、水道を導いておけば、定期的にも自動式にも自由に換水することが出來ます。

尙水花壇は、普通地面から築き上げてありますが、近代式のコンクリート製のものにあつては、恰度玉突臺の樣に、下を隙かせて深さ三―四寸の水槽を作り、多期は水槽の下の北面を閉してそこを盆栽の多圍ひ場に流用する樣に考案されたものもあります。此の水花壇を夏使ひますには、棚を設けず水槽中に脚立形の鉢臺をおくか、又は空鉢を伏せてその上に盆栽をおく樣に致します。

また庭の裝飾として水花壇を作ります場合には、深さ七―八寸の長方形のプールをコンクリートで作つて、その中にコンクリートの柱を立て、その上に前に申上げた樣な玉突臺樣の淺い水槽をコンクリートで作つて水花壇とすることもあります。此の場合にも、矢張り水槽の上には別に棚を設けず、その代り水槽中に空鉢を伏せて、その上に盆栽をおきます。

庭に池とかポンドの樣な水溜がある場合には、その池なりポンドの上に分厚の板を渡し、その上に盆栽を飾る樣にしても宜しい。この場合は水花壇ではありませんが、水花壇と略同じ效果が得られます。板を渡す代りに懸崖臺を池のほとりに立てて使ふのも一法です。

懸崖用の盆栽臺

懸崖作りの盆栽は、普通の盆栽棚の上では第一置き難くもあり、不體裁でもあり、また不安定であつて、不向のものです。故に普通は懸崖用の盆栽臺を別に設けて、懸崖物は比の懸崖臺の上におく樣にして居ります。

懸崖臺を最も簡單に作りますには、懸崖の程度に應じて、雨が降つても跳泥が盆栽の枝先にかゝらぬことを條件として、高さ三尺乃至五尺位の丸太を立て、その上端に板を打付けてT字形のものをこしらへます。これでもう出來上つたのです。勿論相當重量のあるものを載せておくのでありますから、丸太はなるべく太くて耐久力のあるものを用ひ、土中に沒する部分は豫め防腐劑を塗るなり、燒いて炭化させておくなりして、なるべく長保ちする樣な方法を講じ、同時に頑として動搖することのない樣に、根元をよくつき固めておくべきであります。また此の丸太の上に打付ける板は、その上に載せる鉢を充分に支へ得る分厚の、なるべく質の堅いものでなくてはいけません。しかも完全に釘でとめておき、地震や暴風にあつても、容易にぐらづかず、絶對安全なものとしておくことが必要であります。その意味から、近頃は永久的

で絶對に倒伏する心配のない、しかも餘り氣障でない、鐵筋コンクリートの擬似木などが多く用ひられる樣になりました。

申す迄もなく、此の懸崖臺も盆栽棚と同樣に庭に設けるものでありますから、出來るだけ體裁よく風雅に作り、そして邪魔とならぬ位置に設くべきであります。併し餘りに庭の隅や壁、塀などに接して設けますと、日射や通風が不充分となり、盆栽の爲にいゝ結果が得られなくなりますから、この點には充分注意を要します。

また、板を打付ける代りに、多少口廣の枡形箱を据付けて、その中に鉢を入れて安定に保ち、この箱を自由に廻轉し得る樣に工夫された式のものもあります。この場合には、盆栽の表裏を向け變へて太陽を萬遍に當てることが出來ますし、鉢を斜にして箱の中に入れ、下方に懸垂幹を向はせておきますと、その先端の伸長發育を促すことも出來て甚だ好都合であります。

それから、蟻の登攀を防止する設備も考案されて居ります。その方法は、柱の中程にトタン製又は銅製の水槽を取付けておき、常にその中に水を入れておいて、蟻の通路を遮斷するやり方であります。

尙箱を持たない懸崖臺の上に盆栽を載せておきます場合には、必ず針金か棕梠繩にて鉢ごと臺の上にしつかりと縛りつけておき、何時强風が吹いて來ても、地震があつても、轉落する心

配のない様に豫め用意しておかなくてはいけません。

盆栽用の日除

野外の草木を見てもわかります様に、植物には日蔭を好んで生育するものと、陽光の直射する所を好むものとがあります。例へば黒松、赤松、錦松、五葉松、蝦夷松、梅、石榴などは、土用中の炎天に曝しましても灌水さへ充分でありますれば決して差支へありません。のみならず、日光が不足すれば、却つて成績が思はしくありません。これに反して深山に生ずる草木、例へば石南とか、落葉松とか、白樺、その他の高山植物とか、秋季に美しく紅葉する楓、楓の類、欅などは、土用の炎天に曝しますと、たとへ灌水を充分に行ひましても葉焼けを起したり、根腐りを起したり、下葉を落し易く、甚だしい時には遂に枯死してしまひます。

それ故に、陽光に對して餘り丈夫でないものには、夏期は適宜に日除を設けて日光を調節してやることが必要であります。

この日除は、鉢數が澤山ある場合には、盆栽棚の上方に盆栽の頭から二尺乃至三尺を離して暑い間だけ葭簀を張りきりにしておくことが、少なくございません。けれども、夏の陽光のう

ちで一番有害なのは、午後の日殊に西日即ち三時——五時の夕陽であつて、朝日は有益てこそあれ殆んど無害でありますから、努めて西日を避け、朝日をあてる工夫をしなくてはなりません。それが爲には、天井許りでなく、必ず西方にも葭簀を垂らしておくことが必要であります。而して天井の葭簀は、日中の特に暑い時だけ被ふておく様にし、夕方涼しくなつてからは、翌午前十時頃までは取除いてやる様にしたいものです。そして夜露を持たせ、朝日に充分あてるのが宜しい。西方の葭簀は、西日の強く當る間はとりつけたまゝにしておきます。

この様にして日除をうまく利用しますなれば、灌水の手數を幾分省くことが出來る許りでなく、樹勢を弱らせたり、日燒けの害を起すことなどがなくて、盆栽は安全に夏越しすることが出來ます。

また、鉢數の少ない時には、強いて日除を設ける必要はありません。そんな時には、陽光に對して餘り丈夫でないものだけを、朝のうち一——二時間だけ日光がよく當つて、その後は早々に影る所、例へば建物とか塀とか高い垣根などの東側に移しておき、そして乾き過ぎぬ様に灌水に注意すればいゝのです。

尙如何に陽光を好む樹種でありましても、土用中の強烈なる西日に直射させることは禁物でありますから、これだけは努めて避ける様にしなければいけません。

夏の灌水と葉水

夏の灌水は、盆栽の夏の手入の大部分を占めるもので、最も重要なる作業であります。されば昔から俗に「水かけ三年」と云ふ諺がある位で、一人前に灌水が出來る樣になる迄には、どうしても三年はかかると云はれてをります。まさかそれほど難かしい譯でもありませんが、灌水が千變一律に行かないのは事實であります。例へば植物の性質により、發育の模樣により鉢の大小により、その他用土の種類や配合割合、天候、時期等によつて、夫々灌水に手加減を要し、その適否は直接間接に一々盆栽の作の上にハツキリと現はれて來るのです。從つて灌水の要領や手加減をすつかり覺えますには、少なくとも一年はかかるものであります。

併し、もつと早く灌水の祕訣を會得する方法がない譯ではありません。先輩に敎へを乞ふて實地に學ぶのも一法だし、書物によつて灌水の目的、原理、効用並に實際の要領を一通り研究し、然る後にみつちり實驗してみるのも慥かに一法であります。よつてこゝには、初心者の手ほどきとして、灌水に關する種々の事柄を次の順序により詳細に說明してご參考に供さうと思

ひます。

灌水の必要

すべての生物は、水分なしには一刻も生活することが出來ません。殊に盆栽類は、榮養分を攝るのも、またそれを體內に運搬し、消化するのも、すべての生活作用を助けるものは、水の働きであります。さればその成長點とも云ふべき芽先には、九五パーセントからの水分が含まれて居ると云はれ、その他の部分にも、多量の水分が含まれて居て、恰度吾人の血液の樣な大切な役目をして居るのであります。

この水分は、その極く一部分を葉や枝や幹からもとりますが、大部分は根によつて土中から吸上げて居るのであります。從つて水分が土中に不足する場合には、直ちにそこにおかれた植物の生存發育に影響を及ぼして參ります。卽ち水分の不足が未だ輕微なる場合には、葉が凋れるとか若枝が凋れる程度で濟みますが、段々にその度が增すに從つて萎凋する度合が增して行き、下葉を落したり、甚だしい時には遂に枯死するに至ります。

然るに動物は、渴すれば自由に水の在所をあさり廻つて水を飲むことが出來ますけれども、

植物にはその自由がございません。殊に最少限度の土をもつて小鉢の中に植込まれた盆栽にあつては、土中に含まれた水分と云ふものは、ほんの僅かに過ぎませんし、その多くは、常に日射通風共によい所に置かれるのでありますから、水分は殊更に缺乏し勝ちであり、必要であります。しかも雨露の惠みを俟つ外には殆んど他から水分を攝る道はないのでありますから、管理者は始終見廻つて、水分が不足する場合には、乾き過ぎない樣に灌水を行ひ、水分を補ふてやることが絶對に必要であります。

灌水の目的と効能

灌水の目的は、申す迄もなくその不足する水分を補ふことにありますが、同時に之に伴ふて種々の利益つまり効能があるものであります。即ち、

(一) 水の中に溶解含有されて居る養分を土中に與へ、
(二) 土中の養分を溶かして植物の吸收に都合よくしてやり、
(三) 土中に籠つた混濁した空氣を追出し、
(四) 土溫の變化を少なくし、
(五) 土壤の組織を軟らげ、
(六) 根の發育伸長を促し、
(七) 葉や枝先に生氣を吹歸して來るなどであります。

灌水の缺點

灌水は以上に申上げました樣に、非常に重要な作業であり、且つ幾多の効能あるものでありますが、併しその度を越へますと、逆に種々の弊害が起つて參ります。例へば、

(一) 土溫を低くし、
(二) 土中の空氣の流通を阻害し、
(三) 肥料分の流失を來し、
(四) 葉や枝が軟弱になつたり、徒長的な傾向を帶び、その上に根の發育を妨げ、往々根腐りを起すことなどあつて、却つて不結果に陷り易い。などであります。

故に灌水は、常に適度に行ふことが最も肝要であり、最も効果的であります。決してその度を過したり、方法を誤つてはいけません。

灌水用の水

盆栽の灌水用に一番適當な水は、雨水であります。ご御承知の通り、雨は空中を經て落ちて參ります爲に、その間に外氣に觸れて溫度が氣溫に近くなると同時に、空中に浮游する肥料分を溶解含有して參りますので、當りが宜しい上に、水分を與へると共に肥料分を供給して呉れるからであります。それ故に、樋から傳はつて降りた雨水は、タンクか又は大きい瓶などに貯水しておき、その上澄を汲取つて用ふるのが一番世話がなくて宜しい。

雨水に次いで、上水道水、井戸水、河水、池水なども適當であります。只井戸水や河水、池水などでいけないのは、泥水とか、汚水とか、腐れ水とか、製造工場から排泄する惡水の混入したものとか、その他天然に種々の鑛物質を含んだいはゆる硬水などであります。これらは、一面から云へば、肥料分を多量に含んで居る場合もありますけれども、植物の吸收に適しない許りでなく、時には植物の生理上に或は理化學的に盆栽に對して惡い影響を與へる虞がありますから、なるべく用ひない方針で進みたいと思ひます。之を要するに、井戸水や河水、池水などを盆栽の灌水用に供する場合には、なるべく綺麗な、吾々が飲んでも差支へない程度のも

のを選んで用ひる樣にすればいゝわけであります。

併し、上水道水でも、如何に綺麗な井戸水でも、汲みあげてすぐ用ひることはよくありません。少なくも數時間乃至それ以上、日光や空氣に曝して、水溫が氣溫と略髮りない位になつたいはゆる汲置水を用ふるのが最も有効且つ安全であります。

汲置水の作り方

汲置水をこしらへますには、培養所の棚の傍などで、なるべく日當りのよい、通路の邪魔とならない、灌水に便利な位置に、二斗入乃至四斗入、或は鉢數によつては一石入位の大瓶か空樽桶などの、鹽氣や藥氣のすつかり拔けたものを常置しておき、その中に水を汲込んでおきます。そして朝汲んだものは夕方、晝又は夕方に汲んだものは翌朝又は翌日之を用ふる樣にすればよい。

岩間などから湧き出してくる泉水なども、冷たいまゝでは絶對に用ひず、此の方法によつて一旦汲置水としてから用ふべきであります。

ところが汲立水でありますと、夏は氣溫が暖かい時だけに、餘計冷たく感じます。殊に泉水

や井戸水などはさうです。その冷たい水を、華氏の八十度乃至百度以上も熱せられた鉢や植土或は葉の上からかけますと、植物は冷水三斗をぶつかけられた樣な思ひをするに相違ありません。とりわけて根が驚きます。それが爲に、根は著しく發育を妨げられ、往々根腐りを起します。結局、折角貰つた水が善用されず、却つて盆栽を萎凋枯死させる原因となるのです。これではいけませんから、前述の如くぜひ汲置水として用ふべきであります。

不良水の使ひ方

所により年によつては、灌水用の適當な水が得られないことがよくあります。そんな時に、不適當な水を無理に灌水に用ひますと、盆栽がだん〳〵にいぢけて來て、さつぱり發育しなくなります。それ故に、已むなく不良水を用ひなくてはならぬ樣な場合には、次の方法によるのが宜しい。

(一)　一旦水を濾過器にかけて濾し、その濾した水を更に汲置水として用ひるか、さもなければ

(二)　タンクを備付けるなり、池を掘るなり、桶をおくなりして、その中に水を溜め、少なくも兩三日乃至一週間位外氣に曝し、雨にあつて、自然に混濁物の沈澱するのを待ち、その上澄を汲

取つて用ひます。また天然に種々の鑛物質を含んでをる硬水を用ひます場合には、一層完全を期する爲に、

(三)　前述の濾水又は汲溜水の上澄に、少量の硝酸石灰を加へて用ふることがあります。此の場合、硝酸石灰は水一升に對して三匁―七匁を混用すれば、大體軟化するものであります。

その他、灌水用の水として、風呂水の冷めたものや、油粕の腐汁を極くうすく水に溶いたものなどを用ふることもあります。これらは、未だ地に植ゑて養成中にある盆栽種木が、旺盛なる發育をしてゐる時に用ふれば有効です。しかし完成し或は完成に近付いた盆栽には餘りおすすめすべきものではございません。

灌水用具

盆栽に灌水しますには、四季を通じて如露が最も廣く一般に用ひられて居ります。その如露には米國式とか、英國式とか、獨逸式とか、遠州式など色々ありますが、要するに頑丈に出來て居り、至極使ひよくて、しかも巧く萬遍に水が噴霧狀態にまけるものが一番よろしい。

尙如露の蓮口は、必要に應じて細目のものとても、稍太目のものとても、自由に取替へて使

用出來る構造となつたものを求めて使ふ樣にしたいと思ひます。さすれば、一挺の如露が蓮口を取替へる事によつて、普通の灌水にも、霧水つまりシリンヂをする時にも、兩方に使ひ分けが出來て甚だ合理的であります。

尤も澤山の盆栽がありますときには、豫め大中小と三通り位如露を具へておいて、そのうち手頃なものを利用すべきであります。

尙如露の外には、水汲瓶（又は水汲桶）やゴムホース、柄杓、手桶又はバケツなどを必要に應じて使用致します。

灌水時間

灌水時間に就いては、種々ご意見が出る樣でございます。例へば朝早くやつては不可いとか日中にやつてはいけないなど、云ふ說がそれであります。併しご承知の通り、夏は冬と違つて氣溫の高い時ではあり、亦灌水後の乾き方なども大層早いのが例でありますから、灌水するによい時間とか、惡い時間と云ふ問題は、夏は冬ほど嚴密に云ふ必要はなからうと思ひます。要するに、灌水の良否は時間よりもむしろやり方によつて分れるのです。

また灌水は、元來朝やるのも、日中やるのも、夕方やるのも、頻繁にやるのも、控へ目にやるのも、皆一つは習慣でありますから、管理者の灌水に從事し得る時間によつて、規則正しく習慣づけて行くのが最も賢明な策と考へます。事實さうしますれば、盆栽も後には一定時間が來なければ水は貰へないものと覺悟を決めるやうになります。その神妙さは、恰も午後三時にならなくてはオヤツは頂けないものと信ずる、嚴格な家庭の子供と相似た所があつて、いぢらしい位であります。

故に盆栽の夏の灌水は、朝と夕方の二回とか、朝と晝と夕方の三回とか、兎に角灌水する大體の時間を定めておいて、その時間に必ず規則正しく灌水を行ひ、習慣性をつけることが、初心者にとつて最も安全な灌水法だと信じます。

而して乾燥する工合は、その日〳〵の天候特に日射と通風の多少により、また鉢の大小や深淺、植土、個々の植物の性質等々によつて異なりますから、所定の灌水時間に達したなれば、先づ乾燥工合を見て、灌水量に適宜手加減を加へ乍ら灌水を行へばいゝわけであります。

尙こゝで注意しておきたいのは、前述の場合、灌水は時間を定めて規則正しく行ひますけれども、その都度灌水量は常に一定量を使用する譯ではなくて、乾燥工合を見て適宜に斟酌を加へて行くと云ふ點であります。

灌水の必要な狀態

初心者は深い考へもなしに、直感的に只乾いた樣だからと云つて灌水する場合が少なくございません。普通の場合の灌水はそれでいゝのです。つまり、鉢土が略白く乾いた都度灌水して行けば大抵のものは先づ安全です。

併し、盆栽にあつては、さう許りは行かないことがあります。上土が濕つて居るから大丈夫と思つてをりましても、鉢底がぼこ／＼に乾いてゐたり、反對に上土が乾いて居るから下の方も多分さうだらうなどと早合點しますと、豈圖らんや、鉢底は停滯水の爲にぐちや／＼になつてゐたりすることがあるのです。また樹種によつては、始終鉢土が濕つてゐる位の方が成績のよいものや、反對に努めて乾かしてから灌水した方が成績のよいものなどもあります。

そこで灌水の必要な狀態、即ち灌水の適期、つまり今が灌水するには一番よい時、もつと言葉を換へて云ふなら、盆栽が水を慾しがつてゐる時、さう云ふ狀態に來た時を知る必要が起つてくるのです。勿論この狀態にある時を知るには、相當の經驗を要します。

(一) 指先で鉢土を觸へてみまして、水氣を感ずる樣ではまだ灌水の必要はありません。その時

只何となく彈力を感ずる樣でありますれば、上土の乾いて居ると否とに關係なく、大體下方には少ししか水分がありませんから、灌水の適期と見て宜しい。この狀態をすぎて水分による彈力性を感じなくなつてからでは、既に時期遲れです。

(二) 鉢土の一部に竹箸の先などで靜かに一寸許り挿込んで拔いて見た時に、竹箸の肌が微かに濕つてくる程度ならば、灌水の適期と見て宜しい。その時竹箸の先が少しも濕らぬ樣でありますれば、上土が如何に濕つて居りませうとも、灌水不充分でありますから、早く充分に灌水してやらなくてはなりません。反對に竹箸の先が濡れてくる樣であれば、灌水の必要はありません。

(三) 尤も杉とか柿などの盆栽は、元來水質を好むものでありますから、始終灌水を行ひ、鉢土の乾かぬうちに乾かぬうちに追ひかけて灌水して行くことが肝腎です。從つてこれらのものは、豫め植付けに際して餘程水排けのよく出來る樣にしておかなくてはいけません。

(四) また梅とか柘榴などの盆栽は、杉や柿などと反對で、元來根元が乾いたり濕つたりすることを好むものでありますから、努めて鉢土を乾かしては灌水し、灌水しては亦乾かし、之を發育中は幾十回となく交互に繰返して行くとよく出來ます。

但し（三）の場合も（四）の場合にも、その度を越えることのない樣に注意を要します。

灌水の實際方法

初心者の灌水振りを拜見致しますと、如露でざあーと水をかけるだけで、鉢土の表面を水が流れれば、灌水はもう事終れりと云ふ風であります。夏でも御天氣の工合や乾き加減によつては、その程度でいゝ場合もありますが、炎暑の打續く土用中の灌水法としては、この程度では甚だ不充分と云はなくてはなりません。何故かと申しますに、一回ざあーとかけただけでは、大部分の水は流れ去つて仕舞ひ、僅かに上皮を潤ほすだけで、鉢土の内部には聊かも水分が滲込まないからであります。その結果、ものの二、三十分もすれば完全に乾いて仕舞つて亦元の乾燥狀態になり、依然として葉や枝は水不足を訴へるかの樣に疲れを見せます。それ故に、夏の灌水は、一回毎に充分に土中に滲込む樣な方法を講じて與へるべきであります。

さうするには、一度にどつと水をかけたのでは駄目ですから、假りに一回分として一升の水を用ひるものと致しますなれば、之を五合づつ二口に分けるか、約三合三勺づゝ三口に分けて五分乃至十分をおいて、前者は二度に、後者は三度に灌水して一回分の灌水を終る樣に致します。さうすれば、一升の水はその一部を流失するだけで、大部分の水は完全に鉢内に行き渡り、

その餘分が鉢底の小孔から流れ出て參ります。

灌水は總てこの要領でやらなくてはなりません。

この樣にして一回毎に充分鉢土を潤ほして行く樣に致しますと、水保ちが宜しい爲に、灌水回數を減すことが出來て、手間の少ない人達にとつては大助かりであります。木の爲にも少量づつ度々かけるよりは結果が宜しい樣であります。この點は少量づつ數回にわけてやるをよしとする多の灌水と正反對です。

殊に、趣味として盆栽を樂しむサラリーマンなどにあつては、勤めの關係上、盆栽の灌水は朝夕の二回に限定される場合が甚だ多いのでありますから、この方法を應用して、次の如く灌水せられるのが一番安全有效であります。

灌水時間は、朝七時と夕方六時の一日二回とします。尤もこれは一例でありますから、時間は各人の都合によつて適宜變更されていゝわけです。但し、一度時間を定めてからは、その後は規則正しくその時間に灌水を行ふことが必要であります。

灌水の仕方は全く前述の通りで、一回分を二口乃至三口に分けて、普通葉上から靜かに灌水してやります。併し花の咲いたものとか、葉上灌水を餘り好まない薄葉ものの楓とか、灌水すると樹皮が剝げて肌が若く見えていけない石榴などには、根元だけへ靜かに、前同樣水を分け

て與へます。これで第一回目の朝の灌水を終ります。

次に、第二回目の灌水、つまり夕方の灌水を行ひますには、先づ所定の時間に至つて鉢土の乾き工合を檢べ乍ら、鉢土が乾いてゐる樣ならば、朝と同樣にして灌水します。この時若し乾き方が少ない樣でありますれば、灌水の量を目分量で適宜に減じて、それを二口にわけるか又は一度に徐々にかけてやります。そして次の日の乾き工合などを參考とし、乾きが少ない樣ならば適宜灌水量を控へます。又若しこの時乾き方が餘りにひどく、夕方に至つても尙葉が萎れて生氣を取戻さぬ樣でありますれば、一日二回の灌水では不充分なのか、若しくは根腐れを起して居る證據でありますから、その原因がどちらであるかをよく確かめる必要があります。若し乾燥した爲であれば、夕方の灌水後二、三十分で必ず生氣を取返しますし、根腐れに犯されたものであれば、仲々回復が困難でありますから、直ぐにそれと判斷がつきます。

その結果、灌水が不充分と思はれました場合には、翌日からは家人に命じて、正午頃一度鉢土の乾き工合を見廻らせ、特に乾きのはげしいものだけに、俗に拾ひ水と云つて、一回根元へ灌水を行はせておく樣にすれば宜しい。また確實に根腐れであることが判れば、灌水を控へて風通しのよい棚の上におくか、又は梅雨中に新らしい水抜けのよい土を使つて植替へて、葭簀下などにおいて保護し、元氣の回復するのを待ちます。

兎に角、右に申上げた樣にして、毎朝夕一定時間に、乾燥工合をよく檢べて適量づつ灌水して行く樣に習慣づけておきますれば、灌水は至極圓滑に、且つかけ忘れることなく行ふことが出來るものであります。

葉水の事

盆栽の頭から水をかけることを、俗に葉水と云つて居ります。暑さや乾燥の爲に萎れた盆栽は、鉢を日蔭に取込んでこの葉水をやりますと忽ち元氣を吹返し、生氣潑溂として參ります。その有樣は、吾々が炎天下で勞働して、咽喉がから〳〵に喝いた時に冷水にありついてほつと一安心、勇氣百倍するのとよく似て居ります。流行り言葉で云へば、南支の戰場に活躍する勇士が、炎天下に井戸水を見付けて飲んだ時の嬉しさ、爽快さに比すべきものであります。

併し盆栽の葉水は、日中炎天下に於ては、努めて遠慮しなくてはなりません。日中葉や枝の溫まつてゐる所へ葉水を與へますと、日光熱が弱められる許りでなく、日光に對する葉や枝の抵抗力も弱められ、或は葉先に殘つた水玉が日光熱の爲に熱湯の如くになつて葉燒けを起す原因ともなるからです。亦葉水を日中頻繁に行ひますと、葉が早く枯れ落ちる缺點があります。

それ故に、盆栽の葉水は、本來ならば、自然に夜露をもつ頃やるべきものでありますが、普通一般には、朝夕二回、灌水の時にこれを兼ねて行ふて居ります。この場合用ひます水は、無論汲立水ではいけませんから、必ず汲置水を用ふべきであります。亦その時間は、灌水同樣常に一定すべきであつて、分量もその度を過してはいけません。

肥料の施し方

盆栽の肥料は、芽出し後葉が開いて來てから、油粕の粉末か鰊粕の粉末を鉢の中に置肥として與へますが、葉が一人前に開いてかたまり出しますと、今度は水肥を頻繁に與へて肥培します。その時期は、月で申せば五月半ば頃から入梅にかけての間でありまして、一週一回乃至二回の見當でやります。

水肥は、普通油粕を瓶に入れてよく腐熟させた後、その上澄液だけを汲みとつて、極くうすく水に溶いたものを用ひてをります。併し實成り盆栽に施す水肥は、油粕と共に豫め鰊粕とか骨粉などを適宜加へて充分に腐熟させた上澄液をうすめて用ひた方が實成りがよいと云はれて居ります。

その何れを用ふると致しましても、水肥を施すには、灌水後か、雨上り後のお天氣のいゝ日の夕刻などで、未だ鉢土中に多少濕り氣のある中で、地温の餘り高くない時に施すが宜しい。そして施した水肥が直ぐ土中に汲ひ込まれ、翌日その跡を見た時に、施肥したあと方がない迄にすつかり乾いてをる樣でなくては效目が充分でありません。水肥の效目は、施肥後二—三日目に至つて葉の上に色澤となつて現はれてくるものであります。

◇

往々この期に於ても、油粕などの粉末が置肥として用ひられることがあります。これは施すには極めて簡單で、亦少し位量が多くても盆樹の徒長を促す樣なことがなくて安全ですが、その代り蠅などが臭氣をかぎつけて何處からともなく寄り集まり、座敷にも飛んで來て、盛んに產卵し、しかも後日に至つて蛆が澤山にわいて、嫌らしい氣分を起させますから、餘り好ましい方法ではありません。蚜蟲などの發生も多くなり勝ちです。

強いて置肥を致しますならば、ニトロホスカと稱して販賣してゐる指先大の固形肥料か、寒中に油粕を水で練つて一錢銅貨大に丸めて乾燥させておいた寒玉肥を用ふるが宜しい。これらですと、臭氣もなく、蛆も絶對にわかず、見苦しくもありません。

尙油粕の腐汁なども、寒中の水で作つておきますと、夏になつても蛆のわく心配がなくてい

いものです。

◇

其の他盆栽の水肥として、特に效顯のあらたかなものには、次の如き數種があります。

（1）魚屋から生イカの切屑を買つて來て、瓶の中に水と共に入れて充分に腐らせ、その腐汁を水にうすく溶いて用ひます。未熟のものは駄目です。この水肥は、黑松、赤松、錦松、五葉松などの肥料として好適です。

（2）過燐酸石灰七匁―一〇匁を一升の水にとかしたもの。無臭で實成盆栽に特效があります が、餘り澤山やると根腐りを起して困ります。

（3）蹄鐵所に行つて馬蹄を買つて來て、之を瓶の中に水と共に入れて充分に腐熟させ、その腐汁をうすく溶いて用ひます。矢張り實成盆栽殊に石榴や梅によく效きます。

（4）魚の腸、牛肉等を馬蹄同樣に瓶に入れて腐熟させ、その腐汁を水にうすく溶いたものもあらゆる盆栽によく效きます。併し使用に當つては惡臭を放ちます爲に、市內では近所迷惑となり、蠅を誘き寄せる樣なもので、一般にはおすゝめしかねます。

（5）硫酸アンモニヤと過燐酸石灰を五匁―七匁づつ一緒に一升の水に溶いたもの。これは卽席につくつて使へて、惡臭もなく、肥效は速效性でありますから、洵に結構な肥料ではありますが、肥當りが稍强すぎます故に、未だ育成中にある盆栽に限つて用ふべき水肥であります。

◇

以上は主として入梅前の肥料に就いて述べたのでしたが、入梅後梅雨中は、切心者は一般に施肥を中止した方が安全であります。そのわけは、梅雨中は降雨が多く、爲に施肥しましても肥料分は大部分流失します。加ふるに天候不良の爲に、植物の肥料を吸收利用する量は比較的少なく、施肥量が多い時は却つて枝葉の徒長を促したり、根腐りを起す原因となり勝ちだからであります。

併し春咲の花木盆栽にあつては、此の期は重要なる花芽の分化期に當りますし、既に結實肥大中にある實成盆栽にあつては、最も肥料分を必要とする時期に當ります關係上、梅雨中でも特に雨の少ない年とか、天氣のいゝ日が續く時には、前記のものに對しては勿論、其の他の盆栽類に對しましても、木勢を見た上で水肥を少量與へるのは宜しいことです。但し施肥は大體六月一杯をもつて一先づ打切るべきものであります。

これは、梅雨期を過ぎ、一旦夏の土用に入つてから後は、翌年の爲には既に時期が遲く、却つて秋芽を徒長させることになつて、結果が面白くないからであります。只例外として特に木勢のいゝものには、時偶うすい水肥をやることは差支へありません。

葉刈（又は葉切）

葉刈は、人によつて葉切とも申します。これは自然の落葉を待たずして鋏にて葉を刈取り、新規に芽を吹直させる方法でありまして、專ら促成の意味で行はれます。即ち普通二年かかつて小枝を作るところを、葉刈によつて一年で仕上げる爲に行ふのであります。

この葉刈を行ひますと、一般に葉形を小さく揃へることが出來、小枝を纎細優美に且つ豐富にする效があります。同時に全體の樹形を整へる爲にも非常に役立ちます。

併し、葉刈はどの種類の盆栽にもいゝわけではなく、一般には行つてはならぬものの方が多く、葉刈していゝものは、未だ育成中にある楓、欅、石榴、山櫻桃等でありまして、稀には育成中の錦松、五葉松などにも行はれてをります。而して既に完成した盆栽には葉刈は行はない方が宜しい。

葉刈していゝ時期は、東京地方ですと、大體六月上旬から七月一杯にかけてであります。そのうち石榴は、心持早目に行つた方が宜しい。葉刈するには、豫め充分肥培しておいて、鋏によつて全部の葉の葉柄を僅かに殘して刈取つてしまひます。

尤も欅は特に刈り方に注意し、一枚の葉身を全部切取つて丸坊主とすることなく、葉先を八分乃至九分切取つて、その一分乃至二分を殘しておく樣にしませんと、葉刈後に芽を吹かないで枯死する處があります。

また、山櫻桃の枝を細かく密にしますには、實が落果してから葉刈を行ひます。その要領は矢張り丸坊主としないで、欅に準じて行つた方が安全です。併し葉刈を行ひますと、三―四年間は實成りが惡くなりますから、毎年實を成らせたい場合には葉刈は禁物であります。

而して葉刈を行つたものは、その後數日間は絶對に雨にあてないことが肝腎で、葭簀下などにおき、午前中だけ日光にあててやります。そして灌水を控へ、なるべく根元の乾燥を圖つてやります。この樣にして一週間位を經て、切口が完全に癒合してから始めて雨にあて、亦夜露をもたせる樣に致します。

約一ケ月程經ちますと、綺麗な若芽がすつかり出揃ふて參りますから、極くうすい水肥を與へて樹に元氣をつけてやります。そして、夕方强い西日が當らなくなつてから、すつかり葭簀を取拂つて風にあててやる樣に致しますと、秋の末には見事に紅葉して素晴らしい景觀を呈します。但し市内の塵煙の多い所では、殘念乍らどうしても、郊外の空氣の清澄な所ほど美しい紅葉は見られません。

芽摘の仕方

春から夏にかけて新らしく發生した芽を、自然のまゝに放任しておきますと、その中の特に勢のいゝ芽はぐん〳〵伸びて行き、勢の悪い芽は何時まで經つても伸びず肥らずで、忽ちのうちに樹形が亂れて仕舞ひます。そこで未だ新梢の充分に固まらないうちに、適當な部分から新梢を摘みとつてやりますと、單に樹型を亂さないで濟む許りでなく、時代をつけ、養分の濫用を防いで小枝の發生を促すことになつて、一擧兩得であります。芽摘はかうした意味で行ふのでありますから、未だ育成中の盆栽にあつても、既に完成された盆栽に於ても、ぜひ行はなくてはならぬ重要作業の一つであります。

而して芽摘の仕事は、新芽の出る間は、絶えず根氣よく之を繰返して行ふことが必要でありますから、杉などの樣に特に芽吹のよいものにあつては、春四、五月頃から秋九月頃まで、のべつ幕なしに繰返すことになります。

芽摘の要領は、新梢を殘しておきたい場合と、新梢を殘す必要のない場合とで餘程違ひますが、最も一般的な方法としましては、新梢の未だ充分に固まらないうちに、下方の葉二―三枚

を殘して爪先又は鋏で切取つてをります。さすれば殘された部分の各葉腋からは、間もなく第二回目の新芽が吹いて參ります。この第二回目の新芽は、木勢のいゝ時には必ず勢よく伸びてくるものでありますから、それをもう一度芽摘を行ひますと、一夏で二作分も三作分も出來、作上りをズツト早めることが出來ます。

併し、新たに枝を仕立てて行かなくてはならない場合には、候補枝だけは芽摘みを控へて、充分に肥大させた後、始めてその枝を適當な所で切込む樣に致します。

之と反對に、全く必要のない部分に生じた新梢は、なるべくそれが大きくならぬうちに、早く根元から切除いてやります。

また、俗に土用芽と云つて、八月以後に至つて發生する新梢は、概ね葉と葉との間隔がありすぎて、雅趣に富んだ枝とすることが出來ない許りでなく、多分に徒長的な傾向を帶び、樹形を崩す虞がありますから、これは特に必要なもの以外は、努めて小さいうちに根元から切除くことが必要であります。

花木盆栽とか實成盆栽などにあつては、無暗に芽摘すると、花芽をつけなくなることがあります。故にこれらの花を鑑賞する盆栽類にあつては、よく花芽と葉芽とを見分けて、相當に花芽をかばうてやることが肝要であります。概して花芽のつく枝は始めから伸びが遲く、葉芽の

多い位の枝は芽の時代から兎角伸び易い様に思はれます。

太い勢のいゝ新梢は、なるべく鋏にて剪除した方が宜しいが、細い新梢は、そのまゝ殘しておいて、琉球藺、ラフイヤなどによつて枝先を下方に心持引下げておいた方が木の爲にいゝ様であります。

尙芽摘は、その適期を見て行ふことが最も肝腎でありまして、餘りに早過ぎても餘りに遲過ぎても、共に芽吹き方が不良となるものであります。

針金掛と矯整

針金掛による盆栽の矯整乃至整姿は、夏は入梅後から土用入前までの間に多く行はれます。この頃矯整するに適當なものは、梅、林檎、海棠、槭、楓、欅、柿、まゆみ等でありまして、いづれも太枝を曲げることが出來ます。とりわけて梅と海棠は矯整し易く、たとへ過つて枝を折る様なことがありましても、傷口に萬金膏を貼付けて、風にあたる事を防ぎ、葭簀下において充分に手當を加へますれば、結構癒着するものであります。

この期に行ふ小枝の針金掛は、なるべく未だ枝の軟かいうちにかけて、くびれを生じないうち

に早く取外す工夫をすることが肝要であります。

とりわけて、槭、楓の類は、樹肌が非常に軟らかく、針金掛後に枝がくびれ勝ちでありますから、土用中に時々見廻つてくびれのつかぬ様に手入してやらなくてはいけません。

柿や石榴、柑橘、まゆみなどもくびれ易いものでありますから、なるべく針金掛の時期を遲らせて、新梢が固まつてからかけた方が安心です。

黑松、赤松、錦松、五葉松、眞柏などは、此の期に針金掛を行ひますと、樹脂を生じて枯れ込む虞がありますから、特に熟練された技術者以外は止めた方が安全であります。

尙針金は、樹肌の弱いものに對しては必ず紙卷針金を用ふべきであります。炎天下では、掛けた針金が華氏百度以上に昇り、針金燒けを起す虞があるからです。近來は銅線が著しく拂底しました爲に、一部ではトタン板を細く切つて紙卷線として用ひて居りますが、銅線に及ばないのは勿論です。故に心ある人々は昔のやり方に歸つて、針金の代りに琉球藺、青麻、棕梠繩などを用ひ、枝吊によつて樹姿を整へて居ります。これは針金掛に比べますと、非常に手ぬるく厄介ではありますが、くびれを生ぜず、且つよく利きますので馬鹿に出來ません。

前述の方法によつて、夏期に矯整乃至整姿しましたものは、十月末頃に至れば略固定されます故に、針金を外して誘引を解いてやります。

害蟲の驅除法

五、六月頃から、盆栽にもいろ〳〵の害蟲が發生し、また何處からともなく蝶や蛾の類が飛んで來て、若葉の裏などに產卵して逃げ去ります。

害蟲のうちで主なるものは、あらゆる樹種に寄生加害する蚜蟲、介殼蟲、心喰蟲。松類、蝦夷松、杉などに多い粉蟲（赤ダニ）。雜木類に多い青蟲、金龜蟲、尺蠖蟲、毛蟲。柑橘類に多い芋蟲。そのほか、だんごむし、根切蟲、蟻、ねこがへる、みみず等です。尙外敵としては野鼠、もぐら等があります。

而して大抵の害蟲はなるべく發生の初期に、消毒を兼ねて一週間おきに二、三回デリス劑を撒布すれば防げますが、直ぐ又發生する蚜蟲は、施肥後肥料が利いた頃に特に多く出て來るもので、これはその都度「簡易殺蟲劑」などの撒布によつて防ぐのが宜しい。

また介殼蟲の如き背中に堅い介殼又は綿狀物乃至蠟質物を被ぶつたものは、滲透性のある藥劑でないと效目がありません故に「介殼蟲液」などを撒布するのが最も有效であります。或は齒ブラシと水で洗ひ流してやるのもいゝ方法です。

粉蟲は、一般に雨なく旱天が續いたとか、灌水の不充分な時に害が多く、甚だしい時には、葉が青味を失つて黃味を帶び、夥しく生氣を失ひ、木勢が惡くなつて參ります。これは肉眼で辛じて發見し得る程度の極く小さい赤い蟲であつて、葉水を頻繁にやるか、デリス劑を撒布すれば譯なく防げます。又アスピリンをアルコホルで三十倍に溶かしたものを筆の先で塗るのがよいとも云はれて居ります。發生の初期だと、硫黃華を撒布することによつても防げます。

尤も降雨が多い年には自然に居なくなつてしまひます。

心喰蟲の類は、新芽の心を喰切つて中に喰入る蟲ですから、時には加害によつて芽摘と同樣の效果を得ることがあります。併し油斷のならぬ大敵ですから、芽先が黃色く枯れた時は、此の蟲の害と見て、直ちに檢べて、之を捕殺する必要があります。若しその時期を失してしまひますれば、心喰蟲は成長して蛾となり、他へ飛んで行つて產卵し、被害を一層擴大する虞があるからであります。

青蟲、金龜蟲、尺蠖蟲、芋蟲などの大形の蟲は、朝早くか夕方、葉の表裏からよく檢べて捕殺するのも一法ですが、これらの蟲を發見する最もいゝ方法は、常に鉢內や盆栽棚の上を綺麗に掃除しておいて、蟲糞の落下を見てその所在を知る方法であります。尙尺蠖蟲は、不思議なことに一匹だけ居ることは稀で、大抵近くに雌雄二匹づつをるものであります。

蟻の害を防ぎますには、盆栽棚又は懸崖臺の脚部に、水鉢若しくは水槽を設けて、蟻の登攀を防ぐ方法が最も普通一般に行はれて居りますが、「蟻滅」その他の殺蟲劑を用ふるのも一法。變つた蟻除法としては、古川技師考案の、コールタールに石灰をまぜて黄粉狀にした粉末を、盆栽棚又は懸崖臺の脚元周りに輪狀に撒布しておくのも面白いと思ひます。

以上何れの方法によると致しましても、藥劑を撒布致します場合には、その濃度をあやまらぬ樣にし、なるべく曇天の日か夕方を選んで行ふべきであります。さもなければ、鉢を日陰に移して、そこで藥劑をかけます。日中炎天下に於て藥劑を撒布すると、種々の藥害を起す危險性があるからであります。

夏の盆栽植替

夏期は一般に植傷みの多い時期ですから、此の期に植替を行ふ盆栽は至つて少なく、大ぴらに行ひ得るのは皐月位のものです。皐月は花が終つてから直ぐ枝を切込み、鉢底にゴロ土を充分に入れて、鹿沼土と水苔と赤土の混合土で植替へます。

また、葉刈を行つた槭、楓、欅などは、入梅期に新らしい土で植替へてやることがあります。

す。この場合は、植替によつて根が多少傷みましても、葉刈してある爲に、葉上からの水分蒸散は殆んどないわけでありますから、比較的植傷みが少なくて濟みます。

このほか、五葉松は葉をつめる目的で夏の土用中に、くこうや黄梅は、新梢の伸長を抑へて花芽の着生を促す爲に同じく土用中に、それ〴〵植替へることがあります。

以上何れの場合におきましても、夏期に植替を行つたものは、すべて一週間乃至十日位は葭簀下において、強い日射と風に當ることを防ぎ、鉢土の乾きすぎぬ程度に灌水に注意を要します。但し、朝日だけは毎日二―三時間あててやり、西日は絶對に之を避けて、夜間は露天に曝し、長雨と夕立と大雨は絶對に當てないことです。

かうした注意の下に管理して行つて、完全に根付いて芽先が動き出してから、始めて棚の上に出して普通の扱ひをしてやります。それまでは、勿論濃度の如何に拘らず、施肥は一切つつしまなければなりません。同樣に灌水もその度を過すことは禁物で、どちらかと云へば、灌水は多少乾き氣味にしておいた方が、根腐りもなく、活着も概して早い樣であります。

夏期の培養心得

次に夏期を通じて、一般盆栽培養者の心得ておかねばならぬ注意事項を列擧してご參考に供します。

(1) 盆栽の培養所は、棚上と云はず、棚下と云はず、常に清潔にしておき、地面がひどく乾く樣ならば、時々撒水をしてやること。

(2) 水肥の原液は豫め調製しておき、灌水用の汲置水は絶えず之を補給して行くこと、

(3) 西日の強く當る所では、酷暑期だけ必ず葭簀の如きもので日除を設けて之を完全に遮ぎること。

(4) 棚又は臺の上においた盆栽は、夏の間は時々向を振替へて、樹上萬遍に日光と風を當てること。

(5) 普通の盆栽に、日光を充分にあててやることは申す迄もありませんが、日光を餘り好まない性質の盆栽にも、朝日だけはなるべくあててやること。

(6) いゝ御天氣がつづく場合には、木勢がよい盆栽には七月一杯までは絶えず水肥を少しづつ施してやること、とりわけて梅、石榴などは、多量の肥料分を吸收利用する力がありますから、肥料のやれる時には、思ひ切つて十分にやつて宜しい。但し、水肥は未熟なものや濃いものは不可で、必ず極くうすいものでなくてはいけません。

(7) 棚上に盆栽を並べる場合にはなるべく、鉢と鉢との間に充分間隔を與へ、通風と日射をよくしてやること。

(8) 高い臺の上に載せた盆栽は、必ず鉢ごと臺にしばりつけておき、何時地震があつても暴風雨にあつても、轉落する心配のない樣にしておくこと。尙八月末には、二百十日以後の暴風雨に備へる意味で、一度鉢を縛り直しておくか、天候の荒れさうな日だけ屋内に取込んでおく樣にします。

(9) 害蟲に對する藥劑撒布は、新芽がほゞ固まつた頃から後に於て行ふこと。

(10) 花木盆栽などで、新梢を切詰ると、翌年花着きが悪くなる虞のある場合には、特に太くて勢のよ過ぎるものだけを剪除し、その他の大部分の新梢は面倒でも一々吊糸によつて枝を下に下げてやること。申す迄もなく、すべて枝は、直立に近いほど徒長し易く、水平に近づくに從つて伸長力が抑制せられるものであります。一般に東京地方では切込みすぎる傾向があり、關西では伸ばし過ぎる傾向があります。木瓜殊に寒木瓜は新梢を伸ばさなくては、花着きがよくなりません。

(11) 取木法や挿木法や、その他接木挿法、接木取法などを行つたものは、梅雨期に入つて最も盛んに發根するものでありますから、發根充分のものは土用入後に至つて鉢に上げれば宜

しい。櫸などで根張りの悪いものをよくする爲に五、六月頃環狀剝皮を行つてその部分に水苔を卷付けておいた場合にも、土用入後に切取つて鉢上げすることが出來ます。

（12）　初夏から夏にかけて實を眺める盆栽で、結實後に過燐酸石灰を與へて肥培したものは秋落葉期に及んで少し早目に拔いて、根を水でよく洗つて植替へてやること。往々根腐りを起すことがあるからです。

（13）　蟲もつかず、木にも別に故障がないにも拘らず、葉や枝が自然に萎凋してくる場合は十中九分五厘迄は根腐りした爲と見て宜しい。故にこの場合は、梅雨か土用中に根を洗つて植替へてやります。若し待てるものなれば、秋葉が自然に萎凋落下し始める迄待つて、根を丁寧に洗つて新らしい土で植替へてやります。かうして植替へたものは充分に根付くまで蔭簀下において、雨風を除け、朝日にだけ當ててやり、しつかり根付いてから棚の上に出して終日日光にあててやります。

（14）　夕立にあつて鉢や幹や枝や葉などが跳泥の爲に汚なく汚された場合には、そのまゝ放置すれば見苦しくもあり、且つ木の爲にもよくありません故に、葉上から如露にて水をかけて洗ひ落し、鉢の汚れは雜布にて拭ひとつておきます。

夏期の盆栽陳列と鑑賞

夏期の盆栽鑑賞は、一部の花物と實物を除きますと、その他は主として綠葉を眺めて鎖夏する場合が多くございます。皐月、石榴、合歡木、土用藤などの花物盆栽も、その綠葉と相映じればこそ、一層美しく目を樂しめるのであります。

從つて綠葉を眺めますには、暗い室内では面白くなく、なるべく明るい室を選び、そのバックも綠を引立てる意味から、努めて明るい氣持で眺められる色合のものを撰ぶことが肝腎であります。

これを本式に飾つて眺めますには、床つきの座敷又は茶室に柳、蘆の湖、飛瀑、鯉などの畫幅か、夏向の山水畫幅、或は文人墨客のものした書軸などをあつさり飾り、その前方床の間に手頃な紫檀か花櫚の卓をおいて、その上に盆栽を飾ります。盆栽によつては、卓の代りに、地板か竹の簀の子などを用ひた方がよくうつる場合もあります。

こゝに飾ります盆栽は、畫幅や書軸と季節を同じくするものであつて、而もその題材と重複することなく、山水畫幅には水盤物か水石を、海濱の畫幅には石附物を、水邊の書幅には柳、

樫柳、笹、竹の類を……と云ふ工合で、兩々相俟つて自然の風趣を何人にも卽座に聯想せしめ得る樣に配すべきであります。而してその意匠は、くど〳〵しいのはよくなく、至極あつさりとした飾りつけのうちに、盆栽の特徴を充分に活かして、餘韻嫋々たるものとしなくては面白味が湧いて參りません。

また書畫の軸物を廢して、銀屏風、金屏風或は只の白無地屏風の前に飾りつけます場合には、屏風の前にジュウタンを敷き、その上に盆栽に應じて手頃な卓をおき、特に懸崖物は高卓に、水盤物は地板又は竹の簀の子に、それぞれ正面を正しく前方に向けて飾ります。そして四周との調和を保つ爲に、側に如意、觀音像、香爐、水石等のうち、そこに飾つた盆栽に最も好ましいものを撰んで之にあしらひます。併し、夏の盆栽陳列は、度々申上げます樣に、すべて出來るだけ明朗色に、輕快にやりたいと思ひます。

以上はいはゆる盆栽流の陳列鑑賞法でありましたが、更に現代的には、次の方法によられるがよろしい。

（1）應接間とか、食堂の卓上には、すべて大形の盆栽で、どちらからでも眺められるやうに作られたものがよくうつります。特に賑やかに枝張りした石附や色彩の鮮明な花物が宜しい。これらの盆栽は地板をおいてその上に飾ります。

（2）玄關脇とか、廊下の隅などには、高卓つまり懸崖臺をおいて、その上に臺灣狹の大懸崖などを飾りますと、何となく飛瀑でも見る樣な淸涼な氣分になり、そよ吹く風に微かな葉音を聞いて居りますと、まるで山中にでも居る樣な緩つたりした氣分に浸ることが出來ます。

（3）茶簞笥とか本箱の違棚の上には、板片をおいて小品盆栽を飾るのも面白い試みです。曾て筆者は、人形箱の前に、姫石榴やその他の小品盆栽を飾つたことがありましたが、これなども家庭的な飾り方と云へませう。

（4）下駄箱や本箱や簞笥などの上にも、小物級の盆栽を飾つて置きますと、何となく塵つぽくなくて、見る目にも樂しいものです。

（5）書齋の机の上や床の間などには、從來活花や挿花類が多く用ひられて居りますが、たとへ駄物盆栽でありましても、十鉢ばかり作つておいて、二日目毎に活花や挿花代りに飾つて眺めますと、切花代は浮びますし、盆栽の有難味がよくわかつて來て、精神的には慰められ、人間修業上に敎へられるところが澤山あります。

尙夏期に盆栽を室內に飾つて眺めます場合には、努めて戸障子を開け放つて通風を圖り、內部を蒸れさせないこと、夜晩く必ず戸外に出して夜露をもたせ、毎日朝日にあてることが肝要で、また、灌水に注意し、過不足なき樣に灌水してやらなくてはいけません。

夏に觀賞する盆栽

一、葉物盆栽の類

百花撩亂の春も過ぎ、初夏を飾る皐月も略咲き終る頃になりますと、梅雨も明けに近づき、今年もまた嚴しき夏の暑さがやつて參ります。もうこの頃になると花は暑苦しい感じが一パイになつて、十分觀賞する氣分にもなれません。やはり夏は美しいといふよりは、水々しい、涼味を覺えしめる青葉が無精に戀しくなるものです。葉物盆栽こそ、春の花木、秋の紅葉と實物、冬の觀樹に比敵する、夏の盆栽といふ事が出來るのです。

その觀賞される數ある中で、主なるものをあげてみますと、石榴、槭、楓、柳、櫻柳、蔦公孫樹、欅、山毛欅、梧桐、白樺、かなしで、竹、笹。草物では草竹、廣葉蘭、卷柏、しのぶなど、凡て涼しい氣分のするものばかりです。

一、槭と楓（もみぢとかへで）　槭も楓も共にその青葉を觀賞するに好適です。夕立の後など本當に清々しさを感じさせられます。土用頃に一度葉刈をしますと秋に美しい紅葉が見られる

と共に、夏の間も美しい葉が見られます。楓の一種―宮樣楓は、小さい球狀のイガをこの初夏に結び、葉隱れにぶら〳〵と下げ、異樣の風趣を添へるものです。

二、柳（やなぎ）　柳は芽の萠える頃と五月雨に煙る頃の姿は確かに美しいものですが、打水をした捨石の上に一鉢の枝垂柳、夕風にその糸の如き柔かな枝をなびかせてゐる樣は涼味を唆る事、正に百％です。柳には色々な種類もありますけれど、やはり西湖と六角堂の樣な枝垂柳が一番です。

三、櫻柳（ぎよりう）　夏日涼味を偲ぶに好適な樹種です。葉色の翠滴るが如く露を含んで立つ姿、更に葉先に現はれる淡紫紅色の房狀をした花は、誠に三伏の暑さを忘れしめるに十分です。その葉の風變りなためと柳よりも作り易い點で、大衆的な人氣を持つて居ります。

四、蔦（つた）　これほど大衆化してゐる夏の葉物盆栽は少ないでせう。割合に値も安く、然も丈夫で、素人にも樂に保込める處にその普及性があるのだらうと思はれます。數ある種類の中で、葉は多少大きくとも青味の强い、艶々とした照葉蔦が、最も一般に好まれてゐます。

五、欅（けやき）　欅は山毛欅と共に、この初夏の頃が最も葉の美しい時です。併し欅は、芽摘だけを行つた春からの姿では、餘りにも葉が重り合ひ、こんもりと茂り過ぎて面白味がありません。晩春から入梅迄の間に一回葉刈を行つて新芽を立てれば、夏中葉燒なき美しい葉を保つ

事が出來、且つ葉の合間々々より纖細な枝幹が眺められ、欅のもつ觀賞價値を高めます。

六、白樺（しらかば）　葉物といふ譯にはゆきませんが、その白い樹皮に言ひやうのない愛着と清々しさ、愛らしさを感じさせられるものです。山へ行つてもこの白肌の木に遭ふと、初めて高山氣分を覺える位、なつかしみの深い樹種です。保込が少し六ケしいため、まだ餘り盆養されてゐないのは誠に惜しい氣がします。

七、竹（たけ）　夏を飾る清楚な盆栽の一つに竹があります。盆に仕立てゝよく、水盤に移せば更に涼味を添へます。竹の種類は數十種或は百數十種に上るかも知れませんが、盆栽として主に培養されてゐるものは、孟宗竹、眞竹、四方竹、紫竹、寒竹、布袋竹、龜行竹、雲紋竹、鳳尾竹などの種類です。

一般の竹が晩春に筍を生ずるに反して、獨り寒竹は晩秋既に筍を地上に現しますが、小さいまゝで冬を越し、翌春早々に伸長して枝を分つ珍種。紫竹は黑竹とも云ひ、初年綠色の幹は紫色から三年目には黑色になるもので、枝葉が細かく密、盆養に好適です。四方竹は幹が四角なのでこの名があり、眞竹は苦竹で、孟宗竹は幹が太く節が短かく、鳳尾竹は幹が細くて草の多く葉は淡綠色で殊に美しいものです。竹の盆栽として一番竹らしいのは直竹、孟宗竹、淡竹でせう。竹はやはり叢をなす處に竹林の風韻が窺れるものですから、常に數本の幹が立つてゐる樣に仕立てる事が肝要です。

八、笹（さゝ）　盆栽として觀賞される笹には、大葉と小葉があります。前者には熊笹、中熊笹、岡目笹があり、後者には野笹、小熊笹、金華山、おろしま竹などがあります。何れも石を配して多數株植したり、鉢植にしたもの或は石附を水盤におけば一層好適で、本格盆栽の添へとして多く飾られてゐます。

九、廣葉蘭（ひろばらん）　別に斯く言ふ種類の蘭がある譯ではなく、葉の廣い種類―報歲蘭、大明蘭、臺灣報歲などの總稱にすぎません。夏の間その葉を觀賞するに本種は蓋し好適で、全て大株に仕立てるのが見映えします。

一〇、草竹（さうちく）　「てんもんどう」に似た宿根草で、山に生えてゐる時には、草丈二、三尺、澤山に枝を分ち、細かい小葉を密生し、雉さへ隱れるといふので「雉かくし」の俗名があります。これを四、五年盆で保込みますとよく茂り、夏の草物盆栽として好適です。

一一、しのぶ　深山に自生する野生しのぶの根を採取し、水苔を心にして色々な形に仕上げますが、一番厭きの來ないのは普通の丸形です。根は下へ向つて伸びますから、一年毎に上下を反轉し、夏中は半陰地で育てます。上下を反轉しませんと、上にした部分には根が張らぬため禿にする事があります。灌水に冷水は禁物で、必ず吸置水を用ひます。

二、花木盆栽の類

夏の花は暑苦しさを與へないでもありませんが、この時期に咲出づる盆樹が割合に少ないため、存外珍重されてゐるものがあります。初夏の候に咲く皐月と石榴はその最たるもの、それに亜いで合歡木、土用藤、醋甲藤、黄槿、夏椿、百日紅など、春とはまた趣のまるで異つた花が見られます。この外に晩春から引續いて觀賞されるものに野薔薇、石南があります。また姫枇杷や南天の咲くのも、鶯草などの草物の咲き競ふのも夏の候です。

一、皐月（さつき）今更喋々するまでもない、晩春から初夏の頃を色どる花木盆栽で、その普及ぶりは皆様もよくご承知の通り。元々皐月は花を賞する樹種ですが、種類によつてその木振りも十分觀賞し得られますため、これを特に皐月盆栽と呼んで、普通の皐月と區別して居ります。

二、石榴（せきりう）石榴の花と言へば、燃ゆるが如き眞赤な花ばかりと思はれて居りますが實は四、五十種の多きに達し、赤、白、絞り、咲分けなど色々あり、花後に實を結ぶ一重と偶に結實する重咲から、實は成りませんが花の美しい八重咲あり、同じ實にも赤實と白實との別があります。更に姫石榴といつて、初夏から秋迄絶えず咲き、既に色付いた實の傍に、まだ花

があるといつた珍種もあります。

三、合歡木（ねむのき）その葉が夜は閉ぢて互に合する處からこの名があります。筆の穂先を紅に染め、さつと散らした様な涼しい花、細い葉柄に形正しい鮮綠の複葉、氣品もあれば餘韻もあり、普通の盆栽とは何處となく變つた味があるので、古來雅人の愛翫する處となつてゐます。花は七月半ばから咲始めますが、花色は多く紅く、濃淡二種があります。この外に外來の緋合歡木、黄合歡木、紫合歡木、蔓合歡木（毬狀の花を開く）、その他根挿二、三年後で開花するといふ一歳合歡木と外來の一歳合歡木（白合歡木ともいひ、白花です）など、變り物が相當あります。

四、土用藤（どようふぢ）夏藤とも小藤ともいひ、土用中に雲の如き白花を開きます。その花や葉は、普通の山藤よりも矮少であるだけに、細幹物が多く、成育も極めて鈍い方です。

五、醋甲藤（さくかふふぢ）醋甲藤と普通呼ばれてゐるものは、薩摩醋甲藤の事で、土用藤と同様に、土用中に淡紅紫色の花を一房に多數綴り、極めて開花期の長いものです。

この薩摩醋甲藤に類似したものに臺灣醋甲藤があります。この種は葉が大きく、花色も濃くよく伸長するために餘り珍重されず、前種の砧木として多く用ひられてゐます。今日眞正の薩摩種は極めて少なく、多く臺灣種に接木したものといはれてゐます。

六、百日紅（ひやくじつこう）「さるすべり」の事で、盆栽界では特に「ひやくじつこう」と呼んでゐます。夏の最後を飾る花木として捨難いもの。原種は紅色ですが、紫紅色、紫色、白色、紅白絞り、淺黄など園藝種が作出されてゐますが、一般には緋色の在來種が最も歡迎されてゐます。百日紅は枝が稍々徒長氣味で、形が亂れ易いため、姿よく花をつけるには摘込みその他に注意を要します。

三、實物盆栽の類

葉なき後の實を賞する秋もよろしいが、葉隱れに眺める夏の實物盆栽にも、獨特の味があります。梅、李、杏、桃などは一寸特種なものですが、山櫻桃、櫻、枇杷、木半夏、棗など代表的なものと言へませう。更に初秋から梨、苹果なども、ぼつ〳〵觀賞する事が出來ます。

一、山櫻桃（ゆすらうめ）山櫻桃は春の花の頃も多の觀樹も十分眺められる素質を持つて居りますが、樹のもつ美點を最もよく發揮する時は、小粒の實が美しく、ルビー色に色どる初夏の候で、チラ〳〵と葉隱に見ゆるなど、花時の比ではありません。よく實をつける點で、素人の方にも好適なものです。

二、櫻（さくら）山櫻桃の樣な美しさはありませんが、紫黑色の澁味ある實を葉隱に見せる櫻

も、初夏を飾るにいゝもので、花時とはまた別な趣があります。數ある櫻の中で、樹姿などの點から山櫻が最上で、よく實をつけます。

三、枇杷（びは）黃金色の圓らな實を鈴成りにつけた枇杷、屏風の前に飾れば南國に遊ぶが如き感に打たれます。枇杷はよく花をつけるのですが、寒い地方では十分實を成らせる事が出來ないとあつて、餘り培養されてゐないのは遺憾です。初多に花を咲かせ、暮頃には既に實を止めておけば、十分初夏に眺められるものです。姫枇杷と稱する一種がありますが、これは枇杷とは全く別種で、また冬にならねば色付きません。

四、木半夏（なつぐみ）微風にチラ〳〵と銀色の裏を見せる一風變つた葉、眞赤に熟してもなんとなく澁ぶさうでゐて甘味の强いその實、盆樹として十分愛していゝものです。多く山地の濕地に生えてゐるものですから、特に夏は灌水に注意を要します。實の色や形に種々あるとされてゐますが、盆樹としては一般的な楕圓形で紅く熟す普通の種類が好ましいと思ひます。

五、棗（なつめ）夏の終り頃から紅綠色、圓からず長からず、程よき楕圓の香果を枝間に垂下するが爲は、木半夏と共に、夏の實物として特異な存在です。極めてよく實の成るもので、放置しておくと養分の不足から枝枯れを生じ、翌年の結實が少なくなるといはれて居ります。隣邦滿洲國には、稍々矮性の姫棗があり、盆栽に適してゐると言はれてゐます。

四、松柏盆栽の類

黒松、錦松、五葉松、夷蝦松、杜松、杉、眞柏、栂、榧、一位、落葉松などの松柏類は、四季を通じて觀賞されますが、その中で一番よい時期は、重みと落着のある點で、冬の季節とされて居ります。

併し乍ら蝦夷松、杜松、杉、眞柏、落葉松などは、春の芽出しの頃も美しければ、日一日と翠を增し、雪味をつけてゆく夏の姿にも捨てられぬ味のあるものです。

冬の眺めが靜ならば、春から夏の眺めは動で、こうなんとなくハリキツた、元氣一パイな氣分の味へるのは嬉しい限りです。

五、水盤盆栽の類

同じ草物盆栽を觀賞するにしても、盆に入れて飾らず、粗砂或は清水を漲つた水盤に根毎移せば、一陣の涼風吹來るを覺え、苦熱も立所に忘れしめません。

その主なものとしては、石菖、紅茅、臺灣荻、風知草、水木賊、蘆、笹、竹などから、花をつけるものに鷺草があり、盆栽觀賞の極地といはれてゐる水石も、夏の水盤ものとして涼味

をそゝる忘れ難いものゝ一つです。

一、石菖（せきしやう）豫め鉢で仕立てたものを水盤に移すもよし、水吸ひよき石に植付けて水盤に入れるのも風趣があります。石菖としては「針屋石菖」が最も珍重されてゐますが、一般的には丈夫で作りよい「有栖川」、「天鵞絨石菖」、「金華山」など好適でせう。

二、紅茅（べにちがや）草丈僅かに七、八寸、萱の如き葉なるも莖をわかたず柔に立ち、微風にさら〳〵と紅をさした葉先の搖ぐ樣は、夏の景物として一異觀でありませう。極めて水を好むものですから、稍ゝ深目の水盤で作るのに適してゐます。

三、臺灣荻（たいわんをぎ）蘆に似た水草で、臺灣の濕地に野生してゐる狄の一種です。水と共に日陰を好むもので、多く懸崖に仕立て、淡綠の美しい葉を觀賞します。

四、風知草（ふうちさう）知風草とも風致草とも書きます。その名の如く微風にもそよ〳〵と搖ぎ涼味を唆るため、夏の草物盆栽としてよく用ひられてゐます。二、三年鉢で仕立てたものを水盤に入れて眺めるのもよく、秋日霜に遭ひ、紅葉した樣も捨て難い趣があります。これに青葉と黃斑入とあり、別に姫といふ七、八寸の矮種もあります。

五、蘆（あし）葦とも言はれるが、どちらでも葦蘆はありません。盛夏の候に、その青葉を樂しむに好適なものです。水盤に移し、水をたゝへると座して涼風の來るを覺えしめます。

五葉松の盆養法

夏の主な手入を申上げておきますと、五葉松の植替は、春の彼岸頃が安全であると言はれ、一般に行はれて居りますが、栽界の名人齊田金作老は、この夏の土用明けから十日目頃までが一番よいと申されてゐます。ご實驗をおすゝめします。

但しご承知の樣に五葉松は、餘り頻繁に植替を行ひますと木勢が衰へ、更に葉が短くつんで參りません。そこで早くて四、五年、先づ六、七年目に一回植替へ、適當に新根の先を切詰め幾分小形の鉢を選んで、赤土七分に天神川砂か桐生砂三分位の土で、稍々固目に植込んでおく位です。故に土用に植替へるのがいゝと言つても、既に本春行つたものは絶對にさけ、五、六年後に行ふ樣にして戴きます。

前述の如く植替を控へ、五月頃から秋まで月一回の割で油粕の置肥をして木を養へば、葉色をよくすると共に根がよく張るために葉伸びせず、引緊つた形に仕立てられます。

水は特に夏時分は日に二、三回十分にやる必要があります。根水が多いと葉伸びすると申す人もありますが、前述の如くに植替を控へれば、灌水しても餘分の水はこぼれますので、決し

てそんな憂ひはありません。また朝夕はキリ水を與へ、深山にある樣な狀態にしてやるのは好ましい事です。

五葉松は芽立ちの少ないものですから、餘り摘込をしてはいけません。伸び過ぎる新芽だけ葉を三、四枚殘して切込みます。時期は入梅前後の、まだ新梢の軟かい中がいゝので、固くなつてからでは後に芽がよく出ません。この伸び過ぎる芽を切詰めておかないと腕伸びした形になりますから、怠つてはなりません。

眞柏の盆養法

眞柏を大別しますと實のつくものと花のつくものとあります。その實は葉と殆ど同樣であるため、實がついても別段觀賞上不體裁ではありません。處が花は枝葉の上一面につき、大變眞柏の觀賞價値を損じます。然るにこれを防ぐ一番簡便な方法は、毎年植替を行ふのです。すると花は餘りつきませんが、根をいぢられるために木勢をそぎます。そこでこの入梅頃から梅雨中にかけて花芽が出ますから、稍々花の形が整つて來た時、一ケ殘らず花を摘去つておくのであります。時期を失して秋にでも行ふと、芽止りとなつて翌年芽の發生が惡くなりますから

梅雨中に必ず行つておかねばなりません。

夏の間は、葉の繁茂と十分なる發育を圖るため、毎日早朝（夕刻は避けます）晴天の日には噴霧器または細目の如露にて葉水を與へます。葉水は發育を良好にするのみならず、葉色をよくします。尚この葉水は、その年に植替や新植したものには特に有效です。

葉水と共に必要なのは、適量なる肥料です。葉の伸長と葉色をよくするに效があります。油粕と烏賊の腐汁を月二回位の割で、發芽の頃から秋末まで引續いて與へます。

眞柏は五、六月頃から新芽が伸長し始めますから、絶へず芽先を摘んで形を崩さぬ樣にします。摘む時に注意する事は、挿叉狀に出てゐる新葉の眞中の一本を摘み、兩側の小さい芽を殘し、芽を摘むには一方の手で元を持ち、片一方の指先で摘むのです。鋏の如き金氣のものを用ひ、然も一面に切込むと銹を生ずるばかりでなく、枯込む事さへあります。若し三本の芽先を切つたりしますと後に杉ツパが出て來ますから、必ず眞中の長い芽だけ手で摘取ることです。

またこの頃には幹や枝岐れから腋芽の出る事があります。早く摘取つておく事が肝要です。そしてこの時一緒に冗枝、枯枝などを取去り、形の惡い小枝や葉先には適當に針金をかけて形を整へてよろしい。

杉の盆養法

まだ植替の濟んでないものは、六月中、下旬までに終る樣にします。努めて水排けよく、幾分輕目に植込んでやる事です。新梢の整姿も梅雨半ばまでに行つておくのがよろしい。杉は元來裂け易いものですから、若枝と雖も針金掛には十分注意を要します。

梅雨明けから九月までの酷暑の候は、木の弱る時です。木や根をいぢる事は絶對にさけ、杉は水をよく吸ふ方ですから灌水も回數を多くし、絶えず鉢中を濕潤に保つておく樣にします。また杉は清淨な空氣を好み、塵埃や煤煙のかゝるのを嫌ひます。五日毎位に早朝、キリ水を十分にかけて汗れを洗ひ流してやるのが良好です。この間、肥料は寧ろ控へますが、月二回位、烏賊か油粕のごく薄い腐汁をやればいゝでせう。

杉は春から初秋まで、不斷に新梢を伸しますから、伸長する都度何回も、葉先の球狀をした芽先を手で摘みます。但し長く伸したり太らせる枝は、この限りではありません。摘取る時に一方の手で、元を壓へてゐる事を忘れない樣にします。これは芽先でも裂け易いからです。尚摘込に鋏を用ひない事が肝要です。

水さへ十分に與へれば日には終日當てゝいゝのですが、夏の西日丈はさけた方がよろしい。

杜松の盆養法

土用中は、幾分木勢も弱り易い時期です。針金掛や植替などは絶對に避けるのは勿論の事、常々は日光と風通しのいゝ棚においても土用中は午前中二、三時間だけ日に當てたならばその後夕刻までは、雨でない限り簀を張るか木蔭におき、薄日に當てる方が安全です。夜間は簀を卷き或は星の下に出して、夜露に當てます。

灌水と肥料に絶へず注意すると共に、木を清潔に保つ事が杜松培養の祕訣です。この木は煤煙や塵埃がかゝると木勢を弱めますから、その様な場所でなくとも週に一回位は必ず噴霧器で葉は申迄もなく、内部にも十分にキリ水をかけてやる必要があります。

三、四月の芽吹き時から梅雨明け頃までは、元吹きといつて枝の岐れ目に腋芽が出ますから手早に掻取り、枝先や葉先に養分を集注させる様にすると共に、葉先の球狀になつてゐる芽先を絶えず摘取ります。この場合片手で摘みますと岐れ目から裂ける事がありますから、必ず片手を下に添へ、一方の手で摘取る様にします。この時に鋏は用ひない様にします。

竹の盆養法

竹は石或は砂を配らつて盆に仕立てる場合が多いのですが、或る期間盆で培養し、根を十分に張らせてから初夏の候に水盤へ移し、夏の觀賞に供へる事もあります。この際には、水盤に水を湛へず、砂利の様な粗砂を敷き、その上にたゞのせて、根土が常に濕つてゐる程度に灌水してやるのがよろしい。よく水に浸けてゐる人がありますが、あれは觀賞上もまた竹のためにも感心しません。

さて竹の盆栽は、風通しと、日當りのいゝ場所に發育中はおきますが、酷暑の人を射る様な強い光線、特に西日に當てますと葉燒を起し、觀賞上見苦しい許りでなく、株が弱りますから、西日をさけた場所で日中二、三時間だけは葭簀をかけるか、木蔭へ取込む様にします。

水は十二分に與へます。多過ぎて根腐りなどを起す事は殆どありませんが、乾し過ぎるとすぐ弱ります。また夏の間は時折、早朝か夜遲くなつてから葉水を與へてやると良好です。

まだ盆に保込んだ當座は相當に肥料を要求しますが、三年、四年と保込んだものには、餘り與へなくてもよろしい。春の彼岸頃から土用頃まで、十日目毎位に油粕と白豆の腐汁を薄め、

鉢土へ一面に施します。また年に一度膠を少量土中に埋めてやると、大變效目があるとされて居ります。

竹は根張りのよいもので、一年も植替へずにおくと大抵鉢土一パイに根が廻つてゐます。そして鉢緣の方ばかりに筍が出るのみならず、肝心の眞中の古根が弱つてしまひますから、一年に一回はぜひ植替が必要です。その時期は人によつて色〻と申し一定して居りませんが、五月中旬から梅雨明け頃までなら、何時やつてもいゝ樣であります。場合によつて、秋の彼岸頃にやつても結構です。

鉢より拔いたならば、廻りの土を崩し乍ら外側をぐる〳〵卷きにしてゐる新しい根をほぐし、根先を思ひ切つて切詰め、古根はなるべく殘しておきます。さもないと內側にある古根は勢のいゝ新根に壓されて枯れ込み、內部が空いてしまひますから、新根は植替毎に必ず切込む事です。土は黑ボカ五分に腐葉三分、赤土一分と天神川砂一分位にしたものが適當でせう。そして鉢は口の開いた、澁い、淺鉢を選らびます。

竹は案外壽命の短いもので、特に盆にあげますといぢめられてゐますため、よく保込んで五年位がせいぐ〳〵です。そこで順次新陳代謝をしてゆくのですが、大體三年から四年位のもので、常に竹を揃へる樣にすれば、一番恰好よく出來ると思ひます。

竹の本數は作る人の好みや鉢の大小で異りますが、大體三本、五本、七本、九本といふ風に奇數に立て、十二本以內に制限するといゝでせう。故に毎年四、五年以上の古竹の數だけ筍を立て、四月中頃に古い竹から土際で切拂つてゆけばいゝのです。

立てるべき筍は、なるべく素直に伸びたのがいゝので、曲つた筍や不必要以上の筍、時期外れに出た筍（寒竹は秋に出ます）は、なるべく小さい中に必ず切取つておきます。若し曲つた筍でも出た場所がよく、切取るのに惜しい時には、まだ柔かい中に針金とか竹、板などを添へて矯正すればよろしい。

筍の出た當時に注意する事は、無暗に鉢を動かさぬ事です。餘り向を變へると筍が曲つてしまひます。

筍を伸びるにまかせておきますと種類によつてズル〳〵と伸びてしまひますから、筍が五、六寸伸びた頃、元の皮を丁寧に剝いで節間を短かくします。孟宗竹には、更に木綿針で皮を剝いだ後の節の直ぐ上邊りに三、四ケ所小穴をあけ、莖をいぢめてやりますと、丈もつまり、恰好よく出來ます。

枝も餘り伸びると恰好がとれなくなりますから、大きな枝は、紙撚の如き新芽を引拔いて伸長を止めます。この六、七月は新芽の伸びる時ですから、毎日注意して拔かねばなりません。

而して枝が多過ぎる場合、強過ぎる枝、地際近くより出てゐる枝は、今（五、六月中）の間適當に間引いておきます。

尚枝葉を小さく且つ密生させるためには、葉刈を行ひます。時期は五月中旬から入梅頃迄で（寒竹は少し早目に行ひます）、土用になりますと最早や時期遲れです。その要領は、軸を殘して葉だけか、軸へ僅かに葉を殘し、全部一齊に行ふものです。すると切つた邊りより綺麗に揃つて新芽が出て參ります。新葉の中で徒長したものは再び葉刈を行ひ、伸過ぎるものは新芽を引拔いて伸長を止めるのです。たゞこの葉刈をする時に注意する事は、事前迄に十分木を肥やしておかないと、葉刈後、いゝ芽が然も揃つて出ませんし、株も弱つて來ます。

竹は寒さに對してはごく弱いもので、霜や寒風に當たると直ぐ葉を振つてしまひます。といつて溫か過ぎるのもよくありませんから、冬の間は土の凍らぬ、寒風の來ない、そして餘り日の當らぬ場所―例へば縁側（日中はカーテンを引く）、玄關、應接間、ムロなどへ、霜の降る前に取込み、水を切らさぬ樣にして、翌春遲く外へ出す樣にします。

この入梅頃から梅雨に入ると、葉や枝が餘りつんだり、風通しの惡い所で作つてゐたり、肥料に過不足を生ずると、白い綿蟲と蚜蟲がつきます。枝の股などに多くたかります。この蚜蟲がつくと直きに蟻が來て、鉢土に巣など造る處れがありますから、少い中に藥をかけるなり、楊

子で一匹づつ捕り殺しておきます。

笹の盆養法

笹には色々な種類が盆養されて居りますけれども、何れにしさしても丸形の淺鉢に笹だけを密植するか、他の草物或は石を配ふかしますが、また豫め二、三年間鉢で仕立て、十分根の廻つたものをそのまゝ拔出し、夏の間水盤に入れて觀賞するもよし、水吸ひのいゝ、多孔質の石にケト土を以て植付け、水盤に入れて眺めるのも一法です。

笹は比較的に日射の強い方が、特に盆養の場合には丈が詰つて出來ますからよろしい。常に日向の棚に出しておきます。但し餘り強い日光や西日に當てると却つて弱りますから、土用中は午後から日陰になる、涼しい場所におくが良策です。

石附のものは別ですが、根土のまゝ水盤に入れて觀賞する場合には、水を漲つて前記の如くに日向の棚に並べておきますと日中水が溫まり過ぎ、そのために根腐りを起す樣な事があり勝ちですから、この際には寧ろ水を漲る樣な事をせず、天神川砂の如き粗砂を稍々厚目に敷き、その上にたゞそつとのせておき、砂が常に適濕を保つてゐる程度に、水を與へておく樣に

するのです。

笹の盆養上一番大切なのは、なるべく草丈を短かく、然も頭を揃へる事であります。そこで笹が適當な高さになり、これ以上伸ばしてはいけないといふ時は、くる〳〵と葉の撚れて針狀になつてゐる芯を引抜いてやるのです。芯抜をすると、また漸くして他の芯芽が伸びて參りますから、六月頃から絶えずこの芯抜きを繰返します。

若し伸過ぎたものがある際には、一本の篠から五本ほど新芽の伸びてゐるものは、その中三本だけ岐れ目より先づ切り、下から新しい芽が吹いてくるのを待つて、殘りの古葉を切拂つて新芽だけ立て、適當な高さになつた時に芯抜きをします。但しこの切込みは餘り時期が遲くなると芽が立ちませんから、春から入梅までに行ふ樣にしなければなりません。

この夏に美しい、艶々した、瑞々した葉を保つには、やはり適當な肥料が要ります。但し餘り濃いものをやると伸過ぎていけません。そこで植替後十日目位から六月一パイ頃まで、一週間に一邊位の割で、ごく薄い油粕に鰊粕を混ぜた腐汁を根元一面に與へます。この時に一面にムラなく與へる事と、葉などにかけぬ樣にします。若しかけた際には、キリ水をして洗つておくがよろしい。水盤作りのものは一時取出して與へ、半日ほどして元の場所へおく樣にしないと敷砂が汚れて見苦しくなります。

水は土が乾き次第に、細目の如露でやりますが、葉の上からかけて差支へありません。但し強い日光に照付けられてゐる時にやる事は、避けた方が安全です。

笹は入梅頃から夏一パイにかけてぐん〳〵發育し、根をよく張るもので、一年もすると鉢一パイに擴がります。二年も三年もそのまゝにしておくと根の張る餘地がないために、中心の株から弱つて參ります。年に一度の植替は、どうしても必要です。時期は、五月中、下旬から六月上旬までが最もよいと思ひます。

鉢はなるべく淺いがよく、黒土に川砂を一、二割加へたもので植込みます。この際に廻りの土を多少ほぐし、太根を思ひ切つて短かく切詰めておく事が肝要です。

植替と同時に、冬の間もそのまゝにしておいた汚い古葉を一枚づつ、軸を殘して葉だけ切取つておきます。軸卽ち莖共に刈取ると芽先を切つたり、新芽に長短が出來たり、新芽の出方が少くなり、場合によつては株の弱る事さへあります。必ず葉だけ摘取り、一ケ月後新芽が二、三本、下から吹いてから、丁寧に取去ればいゝでせう。

笹は寒さには少し弱い方です。霜には努めて當てず、また鉢土を凍らせる樣な事のない樣に、日當りのいゝ、溫かな軒下とか緣の下、ムロなどに保護する事が大切です。そして乾かさぬ程度に水をやつておきます。

根元が餘り込んだり、肥料が不足したり、風通しが悪いと、白い粉蟲がよくたかります。これは早目に、殺蟲劑をかけて驅除してやります。

槭と楓の盆養法

槭をこの夏に觀賞するには、その青々した葉が身代であります。それには、元々槭は秋の紅葉と多の觀樹を見るために絶えず芽摘を行ひ、また土用頃に一回葉刈をするために枝が非常に込み、自然と葉數が多くなつてよく茂つて居り、その上に葉が割合大きいためによく水を吸ひます。

そこで一朝水を切らさんか、忽ちにして葉を傷め、紅葉は申迄もなく、夏もその淸々しい綠葉を眺める事が不可能になりますから、發芽の頃から灌水には特に注意を要します。水排けを良好にして、常々から幾分多目に與へてゆくのが安全です。

更に土用頃から八月末までの強い日光、特にその候の西日は葉を傷めます。入梅頃までは終日、日に當てゝ育てますが、それ以後土用中の日中二、三時間は葭簀を張るか木蔭におく樣にしてやります。

水と共に大切なのは肥料です。不足すると葉に光澤がなく、生氣を失ひ、摘込んだ際に直ぐ下より新芽を發生して參りません。植替二週間後より初秋まで、十日毎に油粕の水肥を與へるか、半月毎に粉末を鉢土の上に振まいておく樣にします。

葉が如何に青々としてゐても、芽先や葉がなんとなくゴツ〳〵してゐたて寧ろ殺風景で、興が失せます。それには芽が伸びたならば強い芽は、葉を六—八枚生じた時、元に二—四葉殘して先を切棄て、下より新しい芽を立てる樣にします。それでも面白くなければ、土用に入る十日ほど前頃、晴天の二、三日續く時を見計らつて、葉を殘らず摘取り、葉刈をやつておきます。すると二週間位で再び葉が茂りますけれども、今度の葉は小形で且つ軟味があり、然も青青として、夏の觀賞に向きます。併しこの葉刈をするには時期を餘り遲らさぬ事と、それまでに肥料を十分に與へ、木を肥しておく事が肝要です。

また年に一回、新芽の出かゝる三月中、下旬に植替を勵行し、新しい土（庭土六分に川砂四分）と取換へ、根先もよく切詰め、新しい根の張る餘地を造つておかないと、水や肥料ばかりやつてもいゝ成績は得られません。この點はよく呑込んでおいて戴きたいと思ひます。

尙植替と同時に前年の枝を適當に切込んで、形を整へておきます。

楓は大略槭と同樣にすれはよろしいから、こゝでは重複をさけて省略します。

柳の盆養法

元來柳は極めて丈夫な樹種で、且つ非常に芽吹きのいゝものです。丸坊主に枝を切込んでも、また太い幹を二、三寸長さに切つて水に浸けておいても平氣で芽を吹く位です。それだけに根もよく張り、勢のいゝ株は半年で鉢土一パイに廻り、鉢土の上まで根先を現してくる事さへありますから、毎年一回はどうしても植替が必要です。植替を怠ると特に冬期枝枯れを生じてしまひます。

植替の時期は、古枝に淡綠の新芽を僅かに點じた頃が最適です。この際に先づ、前年の枝元に二芽か三芽殘して、ポツ〳〵と先を綺麗に切棄てます。次に鉢より株を取出し、竹箸であらかた土をふるひ落します。柳はごく發根の强い樹種ですから、竹箸を使ひ、櫛ですく樣な具合にして根をすき取ります。そして粒狀の黑土に粗い川砂を混ぜたものか、少し細かい川砂ばかりで植込みます。

植込み後は、普通より幾分多目に水を與へてゆきます。鉢底を水盤に浸す人もありますが、面倒でも一日何回でも乾くに從つて灌水する樣にしなければいゝ成績は得られません。春でも

一日三、四回は必要で、夏になると五、六回も施さねばならなくなります。併し水を切らすと後に枝が枯れますから、十分なる注意が要ります。

また樹勢の旺盛なものですから、週に一回ほど油粕の水肥を與へ、木を十分に肥やします。すると夏の土用までには伸びに伸びて、大抵三、四尺位に枝先が垂れ下りますが、よく垂れぬ枝は毎日手で少しづつ曲げては癖をつけ、自然と垂れたが如くにします。針金をかけますと、どうも自然味が失せていけません。

この頃になると元葉が一つ〳〵と黃ばんで、枝の伸びも止ります。鉢底を見ると根先が見え鉢土の上にも現れてゐます。これは鉢土一パイに根が廻り、最早や根の張る餘地のない事を報らせてゐるのですから、早速植替へてやらねばなりません。そのまゝにしておきますと、元葉はだん〳〵と落ち、冬期枝枯れを生ずる結果となります。

第二回目の植替は、土用早々がよろしい。その要領は春の場合と同樣で、あらかた土を落し砂勝ちの土で植込んでやるのです。それと同時に、或は植替前、春に行つたと同じ風に、新梢に二、三枚葉或は芽を殘し、先をポツ〳〵と切棄てます。勿論枝の具合で多少手加減を加へて形を整へますが、徒長枝はこれ以前に切込んでおく事は申迄もありません。

植替及び切込の當座は日々五、六回も灌水を行ひますと、間もなく新芽が吹いて參りますか

ら四、五寸伸びた頃から毎日、少しづつ手で癖をつけ、自然と垂れたが如くにしてゆきます。灌水と共に大切なのは肥料で、一寸位芽吹いて參りました頃から九月末まで隔日位に、ごく薄い油粕の水肥を與へ、十分肥培してやります。

第二回目の植替と切込の時期が餘り遅れたり、その後肥料が不足しますと新芽は落葉する迄に充實せず、そのために多枯れしますから、時期は土用前後十日間位とし、植替後は十二分に肥やす事が、盆養の柳を柳らしく仕立てる祕訣です。

斯樣にして仕立てた柳は多の寒さにも割合丈夫で、世間でよく言ふ柳の冬枯れする樣な事は滅多にありません。落葉後も枝は切込まずそのまゝにして霜除の下か、日當りの溫かな軒下程度におき、冬期中も乾かさぬ樣に水やりに注意すれば樂に冬越しが出來ます。

而して早春新芽の萠え出づる糸柳の美しさを眺めやうとする場合には、植替の時期を延し、五月頃まで見た上で、前記同樣に新しい葉を二、三枚つけて古枝を短かく切詰めると共に植替を行ひ、再び夏の土用に第二回目の切込と植替を行つてゆくのであります。

柳には入梅の頃、枝や芽先、葉裏に夥しく蚜蟲のつく事があり、幹には鐵砲蟲の喰入る事がありますから、それ〴〵手早に驅除しておかねば、悔を千載に殘します。

檉柳の盆養法

この夏の間、形よき清々しい檉柳を眺めますには、春よりの準備工作が先づ必要であります。その第一にあげねばならないのは新芽掻きであります。元來檉柳は非常に芽立ちがよく、四月上、中旬になりますと、ぞく〳〵と新芽を吹いて參ります。これをそのまゝにしておきますと枝が込合ひ、觀賞期には下葉が枯れ上り、或は黃葉となつてしまひ、且つ餘り込合つてくるために却つて暑苦しい感じがしますから、適當に選り取る必要があります。新芽が二、三寸伸びるまではそのまゝにしておき、凡そ一寸間隔に一本の新芽を殘す見當にして、他の新芽を元から掻取つておきます。この後も古枝からはまた新芽が吹いて參りますから、時折芽選りをする事を忘れてはなりません。

この新芽の出る頃に蚜蟲がたかり易いものですから、一、二度薄い藥をかけて殺しておくと安全です。

新芽が五、六寸位伸びた頃を見て、針金掛を行ひ、上に向いて伸びたがる新芽を、柳の枝の如く、垂れ下る風にかけます。この針金は餘り早く、十分伸びない中に掛けますと勢をそい

でしまひますから、多少見苦しくとも或る程度まではそのまゝ上向きに伸しておいてから、針金を掛けて整形するとよろしい。一度整形しましても八月になると再び新芽が伸びてしまひますから、今一度掛ける必要があります。

斯くして新芽を適當に殘し、また針金掛も行つて、水と肥料を十分に與へてゆきますと葉に葉を生じて茂つて參りますが、六月一パイはそのまゝにして、七月に入つて早々、古い葉や込み合つてゐる部分の葉を適當に選り取り、枝が透通つて見える樣にします。すると風通しがよくなり、前のうつとうしさがなくなつて、如何にも涼しさうな感じになり、新芽にも勢が出て、綠葉が一段と冴えて參ります。

この葉選りを怠たりますと枯葉が出たり、芽先が弱つてしまひますから、八月下旬まで時折芽選と共に行つてやる事が肝要です。

櫻柳は大變日に強い樹種ですから、夏の日中と雖も蔭簀下などにおく必要はなく、一日中當てゝやります。その代り土を白く乾かさぬ樣に、水は常に潤澤に與へておく事が大切です。夏など一日五、六回やらねばならぬ位です。

それと同時に肥料も割合に吸ふ方ですから、十分に與へて戴きます。芽が二、三寸伸びた頃から八月一パイまで引續いて、十日に一回位の程度に油粕の腐汁を與へるか、油粕に骨粉を

混ぜた粉末のまゝのものを半月毎に與へますと、發育も葉色も極めてよくなります。芽選りも葉選りも必要のない程度しか茂らぬものは、水と肥料の不足か、根の傷んでゐる事を物語るものですから、左樣な事のない樣に培養に注意しなければなりません。

櫻柳は暑さを好む盆樹ですが、案外寒さにも強いものです。併し霜や寒風の當る所では特に小枝があがつてしまひ勝ちですから、緣側か日當りのいゝ軒下などに取込んでおくのが安全です。水は、乾かぬ程度にやれば十分です。

十一月の末から十二月に入りますと綠葉は美しく黃變しますから、適當に眺めた後、綺麗に搔き落し、ついでに枯枝など取除いておきます。

いゝ發育を望むには、毎年一回はぜひ植替が必要です。時期は四月中、下旬の芽の出かゝる頃が適當です。廻りの土をほぐし、根先を思ひ切り切詰め、赤土三分に黑土七分位の用土で植込みます。鉢は幾分深目がいゝ樣に考へます。

植替と同時に前年かけた針金を殘らず取外し、枯枝を去り、伸びた枝を一、二寸殘して先を切詰め、大體の形を整へます。そして今迄お話し申しました事を、順次に繰返して戴くのであります。

蔦の盆養法

蔦は枝に比して葉が大きく、數も多いものであり、更に夏中も日當りを好んで成育しますのでよく鉢土が乾きますから、油斷なく灌水して戴かねばなりません。一度水を切らしますと枝の先端から葉が凋み、また葉燒を起し、夏の綠葉も秋の紅葉も見られなくなります。

これを防ぐために夏日は簀下におくといふ方もありますけれども、それでは葉に力がなく、薄い葉となつてよく紅葉しません。やはり日には十分に當てると共に、水を切らさぬ樣に注意します。但し夏の西日と、日中一、二時間は葭簀を張るか木蔭におく位は、却つていゝかも知れません。尙隔日位に夕刻、灌水の都度葉水をして生氣をつけてやると共に、汚れを洗流してやるとよろしい。

夏に美しい靑葉をたゝへるためには十分なる灌水と共に、芽出し頃から相當に肥料を利かせます。肥料が利けば光澤も出て參ります。油粕の粉を月に二度、十五日目毎に鉢土の上にのせ灌水や雨で自然と溶けてゆく樣にします。併し八月一パイで中止しておかないと秋になか〳〵紅葉せず、思はぬ失敗をします。

これから夏の間、美しい、淸々しいその靑葉を觀賞するためによく室內に取入れますが、室內は蒸れない事と、餘り長く入れておかない事です。蒸らしたり長く室內に入れておくと、外へ出した時に葉燒をさせたり、秋の紅葉が惡くなります。また木も弱りますから、毎日二、三時間は朝日に當てると共に十分水も與へ、夕刻は再び星の下へ出して夜露に當てる事が大切です。

若し水切れや蒸して葉燒をさせた時には、直ぐどの葉も摘取つて、秋迄に太い新芽を立たせる樣にします。故にこの葉刈は、八月中旬までにし終る樣でないといけません。

新芽は僅かしか伸びませんから、別段摘芯する必要もありませんが、葉の附根から小さい蔓をよく出しますから、これは伸び次第、二葉位殘して摘取つておきます。

初夏の頃から金龜蟲（黃金蟲）が出て、軟かい葉を喰ひ荒しますから、早朝まだ露のある中に見廻つて、捕り殺して下さい。

蔦は寒さに弱い方ではありませんが、冬は鉢土の凍らぬ、溫かな日當りの軒下、緣の下などに水を切らさぬ樣に保てば結構です。そして早春、新芽が少し赤味を帶びて綻びかけた頃に、植替へてやります。鉢は不釣合にならぬ限り、幾分深目の方が培養上樂でよろしい。但し水排けをよくしておかなければいけません。古土をよく落し、根先を切詰め、赤土六分に黑土三分

位の土で植込みます。

卷柏の盆養法

卷柏はご承知の様に生育の非常に遲々として進まないものでありますから、これを盆栽に仕立てゝ培養します時には、相當に成長した、即ち幹といひますか古い莖の長く伸びたものを盆に移して仕立てるがよろしい。卷柏の流行品は多く、岐れ枝のない、丈の低いものを一本小さい鉢へポツンと植ゑてゐますが、あれでは盆養品といふ事は一寸出來ません。品種は假令普通のものでも盆養する場合には、枝岐れがあつて胴の長い、古株を仕立てる事が肝要です。

鉢は普通の盆栽鉢でよろしいが、淺鉢の方が映りがいゝと思ひます。植込む時期は、夏の酷暑中を除けば、四月頃から九月頃までなら何時やつても差支へありません。そして毎年一回、この時期に植替を行つてやりますが、根を餘り切込む必要はないでせう。

水排けが惡いと直ぐ根腐りを生じますから、用土はごく水排けのよい、然も水保ちのいゝものを用ひます。この條件さへ叶つて居れば、赤土でも鹿沼土でも差支へありません。ミジンを篩去つた小米大から大豆大の粒土を用ひ、株をぐらつかせぬ樣にしつかりと植込みます。

植付或は植替後白根の十分に張る迄は、風當りの少ない、そして半日陰——日當りの葭簀下か木蔭、午前中一、二時間薄日の射す涼しい場所におき、乾かさぬ樣に注意します。

半月もすればそろ〳〵根付いて參りますから、暫次日に當てゝゆきます。日が弱いと葉が軟弱に伸び、また斑入のものは美しく斑が現はれぬばかりか、盆栽としての形を損じてしまひます。故に夏と雖も十分に日に當てます。すると葉が詰つて雅味の多い形になつて參ります。但し白斑のものは夏中、普通葉のものでも酷暑の日中一、二時間と強い西日には當てぬ樣、葭簀で遮ぎつておかねばなりません。

大體に於て盆栽仕立のものは日を十分に當てるのでありますが、他の盆栽の樣に風を當てる事は禁物です。餘り風が當ると幹の樣な根は甚しく乾いて、株が衰弱してくるからです。故に風のある場合には適當な場所へ持込むか、この部分へ常にキリ水を與へて濕めらせておく樣にします。

さりとて根水は、左程多くする必要はないのです。元來水分の少ない岩石上に自生してゐるものですから、葉の卷かぬ程度に與へてゆけば十分です。また灌水が不足して葉が卷いても、一回の灌水で忽ち葉を展開し、生々として參りますから、根水は多少控へる代りに、幹の樣な根に濕氣を十分に含ませる樣にしたらいゝと思ひます。併し水掛けよくしてあれば、春から秋

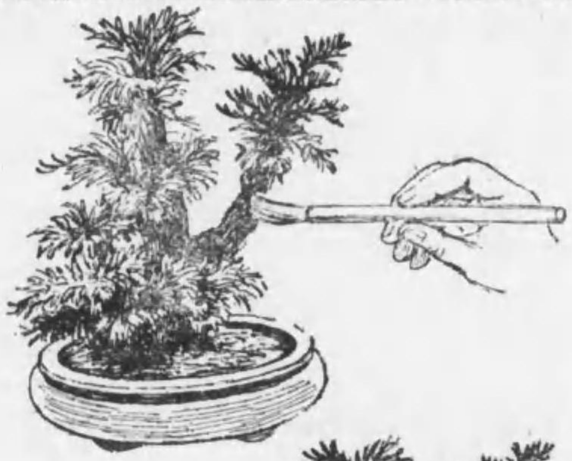
までの生育期中は、如何ほど水を多くやつても枯れる心配はありませんから、その點は心配無用です。

肥料は鉢土へ與へるのが普通ですが、この場合には、根の集まりである幹の部分へ、水に溶いた薄い油粕の腐汁を刷毛か筆で塗つてやるのです。發育中は一週間毎にやつてよろしい。若し幹の一ケ所が細く、他と釣合はぬ樣な場合には、前記の水肥を度々塗つてやると次第に太つて參ります。

更に面白い事は、枝を出させる場合です。卷柏は、普通の樹木盆栽の樣に、頭を摘込んで下から新芽を出させるといつた藝當が出來ませんから、次の方法で自分の欲する處に枝―卽ち芽を打たせるのです。つまり枝を出したい幹の部分へ、前記の水肥を根氣よく度々塗り、その部分を乾かぬ樣にキリ水を常に與へておくのです。かくすれば、やがてその部分より新芽がふいて參りますから、これで枝を打たせる事が出來る樣になるのです。

卷柏は寒さには強い方ですが、冬期中は日當りの緣側とか軒下などの、土の凍らぬ程度の場所におく方が安全です。多少葉が卷く位は別に氣にする必要はありませんから、水は控へ目に雨にも當てぬ樣にして少しづつ水を與へてゆきますが、幹の部分や葉には時々キリ水をやつておく事が肝要です。

卷柏に枝を打たせる法



枝卽ち芽を出したい部分に、毎日一、二回、十分に油粕の腐汁を塗ります

そしで乾かさぬ樣に、その部分にはキリ水を與へますとその中に芽が出ますから、これを仕立でゝ枝とします。左はうまく枝打の出來た卷柏盆栽です

草竹の盆養法

草竹と申しますのは、山野に自生してゐます「きじかくし」の事です。四、五年も保込みますと藪の感がありますので、俗に草竹と呼んでゐる譯です。餘り日當りの強い所ですと、葉に軟味がなくなり、また葉が黄ばんでしまひます。併しそれかといつて日陰ばかりにおくと葉色は非常に美しくなりますが、葉が伸過ぎて了ひます。そこで西日を避けた午前中の日のみ當る場所か、午後は葭簀下或は木蔭などにおくのが理想的です。

水は乾いたらやる程度が安全です。餘り乾かし過ぎますと葉に光澤がなくなり、黄ばんでくる事があり、濕り過ぎますと根腐りを起し、また丈が伸び過ぎて恰好がとれなくなります。故に水排けをよくして、夏は一日二、三回やる樣にするとよろしい。但し日中にやる時には、葉にかけぬ樣にしますが、夕刻は却つて多少かける位にしてやる方いゝでせう。

半日陰で然も水排けをよくしておくと芽立ちが少なくなりますから、肥料は幾分利かせてやる必要があります。といつて强い奴を用ひるのは禁物で、ごく薄くした油粕の腐汁を五日隔位に、芽立ちの頃から與へますが、植替の當座と、八月以後は中止します。

九月に入りますとだん〳〵葉色が悪くなつて參りますから、次第に水を控へ、葉や莖が枯れましたならば土際より刈取り、土の凍らない樣なムロの中か、日向の縁の下、軒下（この時には鉢だけ埋けると無難です）などに取入れて冬越しをします。水は土が乾かぬ程度にやつておく事です。

翌春芽を出して來ましたならば、適當な棚に出して、前年同樣に培養を續けますが、三年か四年目に一回、芽が一、二寸伸びた頃に植替をしてやります。腐つた根や伸過ぎた根を多少切詰めますが、土は餘り崩さぬ方がよろしい。土は黑色の庭土（黑ボカ）に腐葉を等分にしたもので輕く植付け、更に底には桐生砂、天神川砂の樣な粗砂を敷いて水排けをよくしておく事が肝要です。鉢は深いよりも淺いがよく、角より小判か丸が適當です。色は澁味のある、朱泥、烏泥、蕎麥泥、白交趾などいゝでせう。

草物の事ですから外に手入はありませんが、五、六月になると葉の附根に蕾をつけ、白い小花を綴りますが、これは開かぬ中に摘取ります。

尙山野より掘取つてくるには、新芽の出かゝつた四、五月頃が最適ですが、葉の枯れかけた頃でも差支へありません。根が相當遠くへ擴つてゐますから、なるべく大きく掘取り、長い根をぐる〳〵卷きにして素燒鉢などへ納め、翌年本鉢へ植替をする樣にしてゆきます。

石榴の盆養法

夏の花木盆栽として第一にあげらるべき石榴は、培養次第では花をよくつけるもので、蕾を適當に摘取つて樹勢の衰弱を防がなければならない事も往々にしてある位であります。

この石榴を大別しますと大實性と姫性とに分けられます。普通に盆樹とされてゐるのは樹形のいゝ大實性で、これは一季咲即ちこの初夏の頃に咲くのみです。姫性は樹性が矮性で木振の點では前者に劣りますが、花が木に比して大輪であり、且つ夏より秋末迄咲き續け（加溫すれば四季咲になります）ますから、觀賞上及び開花中の取扱ひ方に多少手加減を加へなければなりません。

一季咲のものでも五月末から八月頃まで、四季咲になると秋までずつと咲續けますから、その間は特に水を切らさぬ樣に、朝晝晩、灌水に注意し、花にかけぬ樣にして與へます。水は必ず日向水である事です。冷水は絶對に禁物です。これは石榴が熱帶の產で、暑さを好んでぐんぐん成育する性質を有してゐるからです。觀賞する際も、一日中室內に取入れておく樣な事を避け、適當に日を當てると共に夜分は必ず外に出して、夜露に當てゝやる事が肝要です。但

し雨天の際は、軒下の樣な場所に取込みます。雨に當てますと花にシミをつけ、また實の止まらぬ事があり、早く花が落ちてしまつたりします。特に夕立には注意して下さい。

大實石榴でも一重、これにも實の成る花とならぬ花（一一七頁の圖參照）とありますが、兎に角一重と重咲及び八重の一種（重大榴）の樣に實を成らせて秋に觀賞するものは、開花一週間ほど前から實が中指大位になるまでは一時肥料を中止しておきます。若しこの時に肥料を利かせ、早く大きくしようなどとすると、却つてそのために實が落ちてしまひ勝ちです。けれども花だけは見るが、實はつけずに木を養ふといふ場合、或は實の止まらぬ花石榴や葉の落ちる頃まで咲續ける姫性の類は、前から引續いて十五日毎位に油粕の腐汁（粉末では鉢面が汚れますから、この時には必ず水肥とします）を與へます。但しごく薄い事が肝要です。石榴は石に留ると書くから、肥料のない岩石の樣な所でも實が成るといふのは洒落にしても、相當痞せ土にも育つ樣ですから、開花中は何れも肥料を控へ、水を十分に與へる樣にします。

そして實が中指大に成育した頃、位置と形などを見て、全體で四、五個殘して他を摘取り、この頃から半月毎に油粕に少量の骨粉を加へた練肥を鉢土の上に二、三ケ所おき、更に五日か六日おきに薄い油粕の腐汁を施し、木を十分に肥やします。勿論乾かさぬ樣に灌水に注意する事は申迄もありません。斯樣にしますと實がぐん〳〵太つてくるばかりか、新芽もよく充實し

ますので翌年もよく花がつく様になります。但し秋口になりましたら置肥のみにして、水肥を中止し、十月中頃を最後としてそれ以後は來春まで肥料氣を絶やしておきます。

元來石榴は十分なる日光と水によつて旺盛なる發育をするものですから、終日日に當てると共に鉢土が白く乾きかけたら、水を十分に與へます。この夏の間などは、日に三、四回與へる必要がありませう。水排けさへよくしてあれば、水は多目に度々灌水した方が良好です。一日一回で濟む樣なものは日當りや風通しが不十分か、木勢が惡いか、水排けの惡い證據で、到底いゝ成育は望めません。

石榴の形を崩さぬ樣に保込むには、常に枝先の手入が肝心です。それには先づ芽摘が必要ですが、石榴は新芽の先に花をつける性質がありますから、素人がやたらにこれを摘込むと肝心の花つきが惡くなります。そこで一般には、特に伸過ぎて見苦しいものは別として、他の新芽は伸びるに任かせ、花を見た上で切込む樣にしたらいゝと思ひます。

殊に姫性の種類は伸ばせば、必ず先に花をつけるものですから、花を咲かせ、散つた後に切戻す樣にすれば結構です。石榴は秋までズツと伸續けますから、花後に切込んでも、秋落葉までには再び出た新芽は十分に充實します。更に新芽の若い中に切詰めては、それより出た芽は弱々しく、來年いゝ成績が得られぬばかりでなく、多に枯込む處れもあります。春に出た新芽

がある程度充實した頃――即ち花後に切込めば強い新芽が立ち、然も一枝のどの葉腋からも芽が立ちますので直ぐに枝が込み、多期觀樹として觀賞するにも適して參ります。

どれ位の長さで摘むか、それは枝の具合と仕立方で相違しますが、大體二、三節殘して先を切棄てる樣にすればいゝでせう。勿論枝を作りたいといふものは、長目か全然摘込まず、そのまゝ伸しておくのは申迄もない事です。

枝打を多くしたいといふ場合には、花が半ば終りかけた七月中旬頃に葉刈をします。但し葉刈をすると、翌年は殆ど花を持ちませんから、その心算りでやる事です。

新芽や小枝の針金掛は、春より秋まで何時でもよろしいが、花の濟んだ土用頃に行へば最適です。この時ならば多少無理をしても枯込む心配もなし、木も軟かいので仕事も樂です。秋落葉と共に全部取外し、利いてゐない枝には翌年再びこの頃かける樣にします。また幹や太枝を矯めるには、入梅の頃から土用頃までが安全です。相當に手荒い事をしても平氣で、よく癖もつき、枯込む心配の少ないのがなによりです。尚捩幹榴に針金を掛ける際は、必ず捩れてゐる方向にかけ、またその方向に捩ぢる樣にして利かせる事が肝心です。反對にしますと傷付け易く、枯込む處れがあります。

秋落葉と共に、不用な枝は適當に摘込んで冬季の觀賞に備へますが、冬の寒さには弱い方

ですから、なるべく溫かく保つ様に、冬越しには十分注意を要します。

石榴は十分なる日光と水、それに肥料が與へられゝば、非常によく根を張るものですから、必ず毎年一回、新芽の出かゝる四月上、中旬に植替を行ひます。鉢より拔き、廻りより土をほぐし、三分の一ほど土を崩したならば、出てゐる根はどこも切詰める位にして、水排けよく植付けます。土は赤土三分、黑土四分、天神川砂二分、腐葉一分位にし、鉢底には粗目のゴロを入れておく事です。鉢の色は、花と反對色になる樣なものを選ぶ事が肝要で、植付後暫らくは風當りの少ない場所におき、根が新しい土に喰込んでから、普通の培養棚に並べて培養してゆきます。

百日紅の盆養法

百日紅は、梅や櫻、椿などの樹種と違つて前年の枝に花をつけず、春から伸びた新梢の然も、先端に花をつける上に、枝は暑さを增すと共に、ぐん〳〵伸び多少徒長氣味になる性質を持つて居りますから、形を崩さずに花を澤山つける事はなか〳〵六ケしいのであります。伸び過ぎるからといつて摘込を頻繁に行ひますと花つきが惡くなり、反對に花を多くつけるために摘込

を控へますと今度は伸過ぎて、花はついたが形が崩れ、花時にはお化の樣な形になつてしまひますから、この點をよく呑込んで培養に取掛かつて戴かねばなりません。

それにはどんな方法によるのが一番いゝかと申しますと、人によつては夏の土用頃に植替へたり、或はその頃に水を控へて枝の伸長を一時止めますが、斯樣にすると秋口になつて小枝のあがる虞れがありますから、一般には、百日紅の暑さを好んで土用芽をする性質を利用し、土用十日ほど前に摘込を行ひ、それより出た新梢に花をつける樣にするとよろしい。これならば左程形を崩す事もなく、どの枝にも花をつけるといふ事は不可能な事かも知れませんが、少なくとも五、六枝以上には花を持たせる事が出來ます。

前述の如くにしつかりとした、充實した土用芽を立てるには、それまでに十分木を肥やして勢をつけておく事が肝心です。それには先づ、年に一回は必ず植替を勵行します。時期は春の彼岸頃がよく、鉢土を廻りより半分ほど崩し、小根の先を適當に切込み、鉢底には小砂利を敷いて水排けの具合をよくし、赤土三分に黑ボカ六分、それに少量の腐葉を混じた用土で輕く植付け、これと同時に全體の形に應じて、前年の枝を短かく切詰めておきます。

植替と摘込の終つたものは十分灌水すると共に直ちに日當りのいゝ棚に並べて培養しますが、强霜に當ると弱りますから、危險な夜は軒下などに取込む樣にします。

暖かさを増すにつれて、切込んだ枝からは二、三本の新芽が立つて參りますから、餘り込合ふ様な場合には小さい中に掻取つておきます。植替二、三週間後から土用頃まで、週に一回の割合で油粕の腐汁を與へ、更に油粕へ骨粉を加へ水で練つたものを半月毎に鉢土の上に二、三ケ所のせ、十分木を養ふ様にしますが、梅雨中は稍々控へ目に保つ方が安全です。

施肥と共に大切な事は灌水です。百日紅は暑さを好むので、よき日當りを選んでおき、更に枝を自由に伸長させますから、非常に乾きが激しくなります。然ろに乾すと伸長を遲らせますから、少なくとも日に二、三回はその必要があります。水排けさへよければ水が多くて根腐りを起す様な事は萬々ありませんから、十分に與へておきます。而して水は必ず生ぬるい汲置水である事です。

すると新芽は日毎に勢よく伸び、ぐん〳〵太つて參りますが、夏の土用頃までは一切鋏を入れずにおくのです。これがごく大切な事で、餘り伸び過ぎるから少し位は切詰めてもいゝだらうと獨り合點して、この間に切込みをしますと、全く失敗に終りますから、伸び放題にしておく事が肝要です。但し飛拔けて伸びる様な徒長枝はこの限りではなく、五、六月の候四、五節のこして切詰めておきます。

斯様にして手入が進めばもう花はついた様なものです。夏の土用十日程前に至つて、初めて

新梢を、木姿と枝の具合に應じ、少し短か目に切込むのであります。その後灌水に注意すれば間もなく切殘された枚の節々からは、再び新芽を伸して參ります。この時に切込む新梢が弱く〳〵しく、おまけに肥料が十分利いてないと弱々しい芽しか立たず、花の見られぬ結果になりますから、春からの培養が極めて大切になる譯です。

春からの新梢が充實してをれば、二度目の新芽は僅か二、三寸伸びるとその先に蕾を持つて參ります。無論どの新芽にも蕾のつく事はありませんから、蕾の見えた頃、木姿と枝の具合を見て、不用な芽は元より掻取るなり、一、二枚葉を殘して先を切棄てゝおきます。花が大體濟みかけましたならば、先だけ僅かに摘棄て、翌春に至り、植替を行つた際に深く切戻しておく様にするのであります。

切込だけでは形の整はない場合には、五月頃から七月中旬までの間に、針金を掛けて整形します。これは前年以上の古枝に限られたもので、今年の新梢にかけると自然味を失ひ勝ちですから、新梢は自然に伸長するにまかせ、恰好の惡い部分は切込みで直す様にします。掛け方がうまいと、秋落葉の頃には完全に癖がついてゐます。

百日紅は前にも申述べました通り、暑さを好む樹種ですから、冬の特に寒い風にはごく弱いもので、細い枝など枯込む事がよくあります。日當りの廊下、軒下、或はムロなど、寒風の吹

曝さない、土の凍らぬ場所に保護し、土が乾き切らぬ様に、隔日位に灌水しておきます。尚月二回位の割合で、十倍位に水で薄めた油粕の腐汁を與へ、所謂寒肥をしておきますと、來年の花の色がよく、更に花保ちも長く、且つ花數も多くなる傾向がありますから、冬中も肥料を與へる事を特にご注意申しておきます。

尚植替後暫らくの間は軒下なりムロなどにおき、霜の憂ひがなくなつてから終日外へ出す様にすると安全です。

初夏の頃、新芽に黑い蚜蟲がよくつき、發育を害し、延いては花をつけ得ぬ事がありますから、一、二疋でも見付けましたら、それから半月程おいて二回位、煙草の吸殼を水に浸けた液かデリス石鹼の二十倍液を噴霧器で葉裏よりかけてやります。

合歡木の盆養法

この七月半ば頃から咲き始めて、下枝から上枝と代る代る咲いてゆく花の風變りな合歡木は普通淡紅色をして居りますが、濃いものもあります。この二種類は日本の山野に自生して居る關係上、培養は容易でありますが、盆栽界で珍重する眞紅の美しい「緋合歡木」とか、紫

色をした「紫合歡木」、黃色の「黃合歡木」などの外來種は、この夏の間はよく育つのですが冬期の寒さにごく弱く、一般の家庭では保込が相當に困難ですから、冬越しには十分なる注意が要ります。

合歡木も百日紅や石榴と同様に、花は全て新梢の先につけますから、形が極度に崩れない限りは、花の終るまではなるべく鋏を入れぬ様にします。併し飛拔けて伸びる所謂徒長枝は、この限りではありません。五、六月の候、三、四枚葉を殘して先を切棄てゝ結構です。また餘り密な部分は適當に切透してよろしい。

新梢が相當に伸びた頃から蕾の見え始める頃になりますと、殊に幹や枝へかけて黑い蚜蟲がつきます。これは直ちに驅除しておかないと大害を釀す様な事がありますから、新芽が立つてから花の咲く頃まで、半月毎位に、蟲がゐなくても藥をかけておくと安全です。

最も輕便で無害な驅除法は、煙草の吸殼を水に浸したごく薄い液か三十倍位のデリス石鹼液或は豆腐の冷し湯を噴霧器で一面に、葉裏よりかけ、二、三十分後に清水をかけて藥を洗ひ落す様にしておけば、木には更に影響がなくてよろしい。

夏日も日には十二分に當てゝやりたいのですが、西日が強く當ると葉燒を生じ、却つてよろしくありませんから、夕日を避けた日のよく當る所におく様にします。

水は無論十分に施さなくてはなりません。水排けさへよくしてあれば、常に幾分多目に施してゆく方が育ちがよろしい。それと共に肥料も稍々十分に、植替半月後位から十日目毎位に、薄い油粕液（大豆粕液や灰汁を少量加へると一層よく育ちます）を灌水代りに與へ、九月中旬頃まで引續いて施します。特に花後の施肥如何は、來年の花着に影響を及ぼしますから、怠つてはなりません。けれども過量は、木の發育を旺盛にし過ぎて樹形を亂しますから、その邊は手加減がいります。

花後はどの枝も僅かに先を切詰めますが、少し長過ぎる枝は適當に短かくしても結構です。併し極端に短かくするのはよくありません。

切詰後は、開花前と同樣に水と肥料を切らさぬ樣に十分與へ、秋口までに十分枝を充實させておく事が肝要です。これが不十分ですと冬季に少しの寒さにも枯込み易く、更に來年花つきが少なくなります。故に培養の點では、寧ろ花後の取扱ひが大切です。

合歡木は冬季觀樹として見るものではありませんから、葉が落ちた時に假令枝が長過ぎて恰好が惡くとも、翌春發芽する迄は切詰めずにおきます。これは、冬季の保護が十分であればいいのですが、不十分ですと、枯込んだ場合、短かく切つてあるとその枝を失ふ樣な事があるからです。

向つて右は咲いても實のつかぬ石榴の蕾、左は實の成る蕾

蕾の出た頃から開花まで水切れを嫌ふ醋甲藤は、鉢を水に浸けておくと簡便です

皐月は開花五日目毎に、只今咲いでゐる花だけ摘取り、殘つてゐる蕾を咲かせるのが、本當の見方です

前にも申し上げました様に合歡木は、吾國でも四國九州の稍々溫暖な地方に生えてゐるもので、多の寒さ、特に寒風や土の凍るのを極度に嫌ひますから、十一月頃からは、冬季溫かな南向きの軒下かムロ、廊下、縁の下などに取入れ、絶對に水切れさせぬ様、溫かな日中に灌水してやる様にして保込む事です。

合歡木は、新梢の先端に花をつけますから、發芽後に長過ぎたといつて餘り枝を摘込む譯にゆきません。故に葉の落ちたまゝにしてあつた前年の枝は、春の發芽直前に、少し深目に切戻しておく事が肝要です。

而してそれと同時に、毎年植替を行ひます。新しく鉢に植付けるのも、また山採りするのもこの頃が一番よろしい。植替へるには、廻りより三分の一ほど土を崩し、根先を切詰め、庭土六分に腐葉三分、川砂一分位の肥氣のある用土を以つて、輕く、水排けよく植付けてやる様にします。

針金掛による整姿は、新芽が一、二寸伸びた頃に行ひますが、新梢をさけ、前年以上の古枝にかける様にします。新梢までかけると自然味が失せて面白くありません。

醋甲藤の盆養法

既に申上げました通り、醋甲藤には臺灣醋甲と薩摩醋甲との二種類ありますが、最も一般的にあるのは臺灣醋甲で、眞正の薩摩醋甲は其の數極めて少ないと言はれて居ります。木は薩摩でも根即ち砧は臺灣であるものが多いので、眞正のものは非常に珍重されてゐます。臺灣醋甲は花が濃く葉との映りは良好ですが、薩摩醋甲に比して葉、花、蔓ともに幾分大型で、且つ大層伸び易いものでありますから、培養に當つては多少手加減が必要であります。

普通の藤と同様に醋甲藤は、肥料をよく吸收するものでありますから、新芽の伸びかける五月頃から九月中頃まで十二分に施肥して、新芽を極めて旺盛に伸長させなくてはなりません。肥料が不足しますと花つきが悪く、更に來年にも影響します。肥料としては一般的な油粕のみでなく、それに大豆粕と魚粕、骨粉、過燐酸石灰などを少量加へたものを粉狀のまゝ、鉢土の上へ二、三ケ所、小匙に二、三杯づつおき、半月毎に取換へる様にします。大抵これだけで十分ですが、その合間に一回、ごく薄い油粕の腐汁と木灰汁を與へれば、一層効果的でありませう。

黄槿は本州の中部以西、九州から琉球の海濱に自生してゐるものですから、海風の眞ともに當る樣な所でも盆養して樂しむ事の出來る樹種です。

毎年一回、中春か梅雨中に砂勝ちの土壤で植替を行ひます。元來海濱にあるものですから、川砂を多くして六、七分となし、庭土二、三分に腐葉を一分ほど加へたものを用ひます。

枝は相當に多く分岐しますけれども、樹勢が不良ですとその伸長が十分でなく、從つて枝打ちも少なく、年々同一の方向に伸びるのみですから形を損じ、また枯枝も出易く、花もよくつきません。故に日光に十分當てると共に、肥料として油粕と大豆粕の腐汁を水で薄め、植替二三週間後の十分根付いた頃から七、八月の花を見る迄に六、七回與へます。

更に若木は入梅頃までに一回、一、二枚葉を殘す程度に新芽を摘込んで枝打を多くする事が肝要です。寒さを嫌ふ盆樹ですから、十一月中頃からは夜分も溫かい、土の凍らぬ日當りの緣側かムロなどに取込む事が必要で、外ではとても保ちません。

土用藤の盆養法

土用藤は一名夏藤ともいひ、夏の土用中に白花を綴るのでこの名があります。普通の山藤に比して幾少〻あるたけに成長も鈍く、讓者が十年で伸びる所を後者は五十年位も要しますから切込みも輕く行へばいゝ譯です。また葉が普通の藤より大きくありませんので、水もそれほど多量に、二重鉢にして常に鉢底より吸收させる程でもありませんが、大體の培養法は山藤に從つていゝと思ひます。

普通の山藤は花が濟んでから、丁度五月下旬から六月上旬に植替（毎年秋に實を見る時には隔年にやります）を行ひますが、土用藤では花後ですと酷暑の候となり、植傷みを生じますので、植替は春四月上、中旬が適當です。土は庭土六分に腐葉三分、それに砂を一分ほど加へたものがいゝ樣に思ひます。鉢は稍〻深目で小じんまりしたものがよく、色は朱泥、海鼠など映りがいゝでせう。

水は普通の雜木盆栽と同じ程度にやれば十分ですが、何分葉は山藤より小さいとは言へ數が多く、蒸發も盛んですから、夏の頃は日に三、四回はやらねばなりますまい。併し山藤の樣に鉢底を水盤などに浸けておくまでにしなくてもよろしい。

肥料も他の雜木より少し多目に、植替二週間位の後から蕾の見始めるまでに月三、四回の割合で油粕の水肥をやり、更に月一回づつ骨粉を少し混ぜた油粕の粉を置肥とすれば効目があります。

それと共に大切なのは灌水です。冬季中と雖も二重鉢にして、常に鉢底を水に浸しておく位にする人さへある位ですが、それほどまでにしなくとも、發芽後落葉まで、特に花穂を形成する頃に水切れさせますと蕾はついても伸びが止まつたり、開かずにポロ〳〵と落ちてしまふ事が往々にしてありますから、日に數回、それも潤澤に與へておく樣にしなくてはなりません。

一番簡便な方法は、鉢が三分の一ほど入る程度の水盤か壺、擂鉢へ入れ、即ち二重鉢にして水を張り、鉢底と鉢緣より常に水分が供給され、植土を濕潤に保つのが安全で、成績も確かに上上であります。

花を澤山につけるには、新梢の摘込みはなるべく避けたいのでありますが、妄りに伸長する所謂徒長枝はこの限りではなく、適當に剪除してやります。また餘り新梢の込んでゐる部分は早目に枝透しをしてやる事です。

花は割合に長い間咲續けますから、七、八分通り咲きましたならば、惜みなく、花の部分だけ摘取つて、徒らに木を疲れさせぬ樣にします。この際に少し長過ぎると思はれる枝もそのままにして、一枚でも多く葉を殘す樣にしておきます。そして秋落葉後か、寒地では翌春發芽と同時に、前年の枝―蔓を短かく切戻します。蔓の具合と木振りなどで相違がありますが、凡そ二、三節殘す位にしたらいゝでせう。

多の間は日當りの溫かな軒下か廊下、緣の下、或は霜除の下に鉢の部分だけ埋け、鉢土を凍らせぬ樣にして多越しします。水は多と雖も切らさぬ樣にする事が肝要です。

長年鉢で保込んだものは、左程頻繁に植替へる必要はありません。先づ隔年で澤山です。三月下旬から四月上中旬が、時期としては最適です。鉢より拔くと絲の樣な小根が固まつてゐますから、竹箸でこれをほぐし、多少根先を切棄て、赤土三分に腐葉三分、それに黑ボカ三分に川砂一分位にした、多少肥氣のある土で一寸固目に植付ける樣にします。

日光には十分當てる要がありますから、風通しのいゝ終日日の當る棚に出して培養します。今日薩摩醋甲と申してゐるものは、大部分臺灣醋甲に接いだもので、接木後十年以上を經ないと接口が分らなくなりませんから植替を行つた際、幾分でも接口が隱れる樣に工夫し、またこの時に少しづつ彫刻してゆく樣にします。

蟲や病氣には餘りかゝらぬ方でありますが、芽や蕾に蚜蟲のたかる事があり、蟻を誘發して害を及ぼす事がありますから、少い中に藥劑を撒布して完全に驅除しておく事が肝心です。

黃槿の盆養法

黄槿は本州の中部以西、九州から琉球の海濱に自生してゐるものですから、海風の眞ともに當る樣な所でも盆養して樂しむ事の出來る樹種です。

毎年一回、中春か梅雨中に砂勝ちの土壤で植替を行ひます。元來海濱にあるものですから、川砂を多くして六、七分となし、庭土二、三分に腐葉を一分ほど加へたものを用ひます。

枝は相當に多く分岐しますけれども、樹勢が不良ですとその伸長が十分でなく、從つて枝打ちも少なく、年々同一の方向に伸びるのみですから形を損じ、また枯枝も出易く、花もよくつきません。故に日光に十分當てると共に、肥料として油粕と大豆粕の腐汁を水で薄め、植替二三週間後の十分根付いた頃から七、八月の花を見る迄に六、七回與へます。

更に若木は入梅頃までに一回、一、二枚葉を殘す程度に新芽を摘込んで枝打を多くする事が肝要です。寒さを嫌ふ盆樹ですから、十一月中頃からは夜分も溫かい、土の凍らぬ日當りの緣側かムロなどに取込む事が必要で、外ではとても保ちません。

土用藤の盆養法

土用藤は一名夏藤ともいひ、夏の土用中に白花を綴るのでこの名があります。普通の山藤に

比して矮少、あるたけに成長も鈍く、讀者が十年で伸びる所を後者は五十年位も要しますから切込みも輕く行へばいゝ譯です。また葉が普通の藤より大きくありませんので、水もそれほど多量に、二重鉢にして常に鉢底より吸收させる程でもありませんが、大體の培養法は山藤に從つていゝと思ひます。

普通の山藤は花が濟んでから、丁度五月下旬から六月上旬に植替（毎年秋に實を見る時には隔年にやります）を行ひますが、土用藤では花後ですと酷暑の候となり、植傷みを生じますので、植替は春四月上、中旬が適當です。土は庭土六分に腐葉三分、それに砂を一分ほど加へたものがいゝ樣に思ひます。鉢は稍〻深目で小じんまりしたものがよく、色は朱泥、海鼠など映りがいゝでせう。

水は普通の雜木盆栽と同じ程度にやれば十分ですが、何分葉は山藤より小さいとは言へ數が多く、蒸發も盛んですから、夏の頃は日に三、四回はやらねばなりますまい。併し山藤の樣に鉢底を水盤などに浸けておくまでにしなくてもよろしい。

肥料も他の雜木より少し多目に、植替二週間位の後から蕾の見始めるまでに月三、四回の割合で油粕の水肥をやり、更に月一回づつ骨粉を少し混ぜた油粕の粉を置肥とすれば効目があります。

左程芽の伸びるものではありませんが、開花直後に新梢は元に二、三枚葉を殘して先を切棄て、冗枝や冗芽を除き、一時中止してゐた肥料を九月中頃まで再び與へて充實を圖ります。葉が落ちてから、或は翌春植替を行ふ時に、適當に花芽を殘す樣にして短かく切詰めます。

日には夏も冬も十分當てます。針金掛は梅雨中が一番よろしい。本年伸びた新梢にもこの頃に掛けて差支へありません。冬は霜や寒風の當らぬ、日向の軒下、緣側、霜除下などに取込み水切れさせぬ樣に保ちます。

皐月の盆養法

今が丁度花の見頃でありますが、この頃は芽出しの頃と共に最も水分を吸收する時ですから、室内などへ取込んで觀賞する場合にも灌水を怠つてはなりません。花にかけぬ樣に與へる事が肝要で、勿論雨にも餘り當てぬ樣にしてやります。

花瓣が落ちかけるまで枝におく事は木を徒に疲れしめますから、花瓣が少し傷みかけたものは次々と摘取り、まだ咲かぬ蕾の開花を促してやります。一法として五、六日毎に、その時に咲いてゐる花は一個殘らず摘取り、殘つてゐる蕾の開花を待つのです。斯樣にしますと木も

左程疲れず、然も花がよく、大輪になり、それでゐて相當に長い間觀賞する事が出來ますので、玄人筋の方は大抵この方法に從つてゐます。

全體の蕾が七、八分通り開きましたならば、時期を見てその時に咲いてゐる花は申迄もなく軟かい蕾も固い蕾も全部、一齊に摘取り、新芽の充實を圖つて、來年の開花に備へます。折角蕾がついてゐる事だからといつて、最後の一輪まで咲かせてゐると木が疲れ、新芽の肥大充實が遲れるために、來年は芽ばかり伸びて、花の見られぬ事が往々にしてありますから、思ひ切りがごく大切です。

花や蕾の摘取りをしましたものは、直ちに本春に出た新芽の摘込みを行ひます。枝の强弱や位置で一概には申上げられませんが、皐月は一ケ所から三本乃至五本、車の輪狀に新芽を出して居ります。そこで附近の具合を考へて、一本乃至二本、何れも中庸のものを殘し、長く伸過ぎてゐるものや短かいもの、弱々しいものを元から切棄てゝおきます。

この際に注意する事は、皐月は元來下に伸ふ性質を持つてゐますため、下の新芽はよく發育します。故に全體を一率に摘込む樣な事をせず、上卽ち頭ほど多くの新芽を殘し、下ほど少なくして、一樣な發育を見る樣にします。これを同樣にしたり、反對などにすると、下枝ばかり張り、上枝は弱つて枯れないまでも花つきが惡くなります。

針金掛による整姿は、この新芽摘を終つたものから行ひます。この頃に行へば相當手荒い事をしてもよく芽ぶくもので、仕立てたその形に應じて早速植替を行ひ、向きを直しておく樣にします。小枝を整形するにも、この時一緒にやるがよろしい。

整形したものは勿論ですが、しないものも皐月は毎年一回、新芽摘直後に植替を行ひます。鉢より引拔いたならば廻りより竹箸でほぐし乍ら古土を十分に取去り、小根先を少しづつ切棄てますが、古木は中心に半分ほど古土を殘す程度にしておきます。斯くして新しい鹿沼土六分と細切した水苔四分に混ぜた用土を以つて、竹箸で根の間へ土を壓込む樣にして、稍〻固目に植付けます。古木には多少庭土を加へるといゝでせう。この際鉢底にゴロを入れる必要はなく直ちに植付けます。

植替の終つたものは、十分に水を與へ、當分は日當りの少ない、葭簀下か午前中二、三時間のみ日の當る樣な所に置き、乾かさぬ樣に灌水に注意します。隔日位に夕刻葉裏にも葉水を與へると回復が非常に早い樣であります。

植替二週間後位から再び肥料を與へますが、皐月や躑躅の類には水肥は禁物で、油粕に少量の骨粉を加へた粉肥を鉢緣に沿つて、二撮み乃至三撮み位のせて、水や雨によつて自然と溶解し、吸收される樣にするのが安全で且つ利目もあります。これは春新芽が出始める頃から十月

末頃まで、半月毎位に與へますが、開花中及びその前後二、三週間は中止するがよろしい。

水はどちらかといへば好む方ですから、普通の盆栽より多目に與へます。四、五月中は一日二回位でいゝのですが、七、八月の炎暑の候には三回、風のある日は四回も與へる必要があります。特に暑中に水が不足すると新芽の充實を缺き、來年の花つきを不良にしますから注意を要します。

灌水と共に大切なのは葉水で、春の四月頃から仲秋まで、葉裏や枝にもかゝる樣に、朝夕灌水の際行ふと成育を良好にする許りでなく、赤ダニや軍配蟲などの害蟲の發生をも豫防し得る利點があります。この葉水は冬期中も度々溫かい日には行つてやるとよろしい。

置場所は、初夏の頃までは風通しと日當りのよい場所がいゝのでありますが、入梅も過ぎ、七月頃になつた頃からは西日の射さぬ所を選び、更に暑中は日中三、四時間は葭簀を張るか木蔭に移し、薄日に當てる樣にします。再び九月中頃からは一日中日當りにおくのでありますが十一月中頃、降霜を見る頃からは、日當りのいゝ軒下、霜除下などに取込み、寒い風を當てぬ樣にして冬越しをします。尙開花中は花にシミをつけぬためと花持ちを良くするため、雨をさけ風當りの少ない所におきます。が、さりとて室内などに取切りではいけません。適切に日に當てると共に、夜間は雨でない限りは必ず外に出し、夜露に當てゝやる事が肝要です。

山櫻桃の盆養法

小さい實のルビーの樣に色付きますのは、凡そ六月の初め頃であります。この頃から觀賞できますが、餘り長く室內に取入れておく事はよろしくありません。その日〳〵毎に必ず午前中二、三時間は日に當て、熟し過ぎてゐる實は丁寧にピンセットの如きもので摘取り、水を十分に與へておき、夕刻は再び星の下へ出して夜露を受けしめる事が肝心です。

山櫻桃の植替は、花の終つた直後卽ち四月中、下旬が木のためから考へますと一番いゝのですが、花と共に寧ろ實を賞すべきもので、花後に植替へて木を動かす時は、實の止まりが少なくなつてしまふ許りか、折角の實を觀賞する時に土面が新しくなつて銹がなく、かうなんとなく物足らぬ感をいだかせます。故に山櫻桃の如き花後二ケ月位で實を見る樣な盆樹は、秋の彼岸頃を選ぶか、隔年に春期行ふか、花時は少し物足りませんが實時の眺めを考へて、花の咲く一、二週間前、卽ち三月中、下旬に行ふ樣にするのがいゝと思ひます。

土はミジンを拔いた黑土三分に腐葉四分、砂三分の割合にしたものを用ひ、鉢底には粗砂を敷いて水排けをよくします。根土を半分ほども落し、根先は思ひ切り詰めて植込みます。

山櫻桃の花――實は、前年に出た枝の元の方に多くつくものでありますから、古枝の摘込は、三月上旬のまだ新芽の出ない時か花が終つた直後、枝の具合に應じて二、三節殘して先を切棄てます。すると各節より新芽が立つて、實の熟す頃には五、六枚以上の葉をつけて居りますが、なるべくならばそのまゝにして翌年再び短かく切詰めたいのですが、樹形をみだす場合には、五月中、下旬頃に二、三枚葉をつけて新芽を摘込み、二度目に出た新芽は來年まで摘込まずに育てる樣にすればいゝと思ひます。但し徒長する芽は、適當な時に切詰めます。

針金掛による整姿は、新芽は四月中、下旬、少し古い枝は五月頃から入梅迄に、針金に紙を卷付けてかけます。山櫻桃は割合肌の柔かいものですから、針金掛は至つて樂ですが、餘り無理をすると折れ易いから注意を要します。全て掛けた針金は、秋に取外しておきます。

よく水を吸ふ方ですから、水排けをよくして、日に何回も與へた方がよろしい。肥料も相當に吸ひます。特に花の終る頃から實の色付く頃までは、新芽も充實する時ですから、十分に肥料を利かせておかないと、來年の作に影響します。先づ一週間に一回の割で油粕に骨粉を混ぜた腐汁を與へ、實摘み後十月中頃までは少し濃い目のものを同樣に與へます。

日には十分當てゝやります。夏も炎天におきますが、冬の寒さには弱く、特に小枝は枯込み易いものですから、霜の來る前に溫かな室內に取込んで保護をしてやる必要があります。

梅の盆養法

梅は花が濟みますと直ちにその花粕を摘取つておきますが、その青々した實を初夏の頃に觀賞する場合には、開花中に乾いた筆を以つて交配をしてやると共に、花後も花粕を勿論摘取らずにおきますと、前年の培養が良ろしきを得れば、よく實を止めるものです。併し盆の事として餘り實をつけますと木が疲れ、翌年の開花も結實も望めませんから、小さい中に、出來れば花の終つた直後に成らす場所を決め、他の花粕を早く摘取つておきます。

元々梅は陰濕地に好んで成育するものですから、特に開花中は水を切らさぬ樣、幾分多目に與へます。この時に水を切らしますと、實止まりが極めて惡くなります。

花を見る場合には毎年三月上、中旬に植替を行ひますが、この際は隔年にするか時期を今少し遲らせて下旬か四月上旬にやり、然も古土を餘り落さず、廻りより僅かに崩す程度にします。土は赤土や庭土を多くせず、肥料氣のある腐葉を主とし、それに二、三分の黑土と川砂を一分位加へたもので、水排けよく植付ける事です。そして植替二週間後から入梅迄、週に一回の割で油粕の腐汁を十分に與へ、木を十二分に養ふ事が肝要です。

三月中、下旬に前年の枝を切詰め、その後五月中旬迄に一、二回新芽を摘込む事は、花を觀賞する場合と同樣ですが、實は黃色く熟さぬ前に摘取る事は申迄もない事です。

李の盆養法

山櫻桃の樣にその實に美しさは餘りありませんが、梅實大の薄紫色をした實は、夏の實物盆栽の最後を飾るものとしてまたいゝものであります。

一般に李も花を觀賞するものとして培養されてゐますから、花後は直ちに花粕を綺麗に摘取りますが、實をつける場合には、花粕を取らぬ樣にする事は申迄もありません。併し餘り澤山に實をつけると木が弱り、翌年の開花に影響しますから、五ツ六ツ、點々と成らせる程度に、他の花粕を摘取つておく事が肝要です。開花中筆で交配するとよく結實します。

實を成らせるものゝ常として、肥料を十分に與へて木を養はねばなりませんから、先づ實の熟し切つた後十月から十一月迄に毎年一回植替を行ひ、小根先を切詰め、肥料氣に富んだ土で植込み、花後から入梅まで、一週間に一回の割で油粕の腐汁を十分に與へます。梅雨中は一時中止して、土用明け頃から再び油粕の粉を與へ、新芽の充實を圖ります。

棗の盆養法

棗は夏の綠葉も觀賞に價しますが、寧ろ夏日から秋にかけて仙味のある實を觀賞する所に盆養の面白さがあります。實は大きい方ではありませんから、太幹よりも細幹で、株立に仕立てる方が趣が多い樣に考へます。

無論春から肥料氣を利かせておかないといけませんが、黃綠色の花が咲けば、大抵實を結ぶものではありますけれども、餘り澤山に實をつけますと、その枝が枯れる性質があります。然るに一枝に左程澤山實が成つてゐなくても十分見られるもので、却つて點々とある所に雅味を生じますから、花後に實が少し太りかけた頃、その實のある位置や數を見て、適當に摘取つておくがよろしい。

植土は砂勝ちであるのを好み、十分日光の當るのを喜びますが、特に夏中は十分に濕氣を保たしめる必要がありますから、灌水は頻繁に行ひます。

適當に觀賞した後は實を摘取り、灌水と肥培によつて新梢の充實を圖ります。

幹は容易に太りませんが、小枝は割合によく出來ますから、形を整へるには困難はありませ

ん。春芽吹の頃、前年の枝を切詰めてやりますが、棗は春より出た新梢に花をつけて實を結ぶものですから、發芽後に餘り摘込をせず、長過ぎてしまふ樣な場合には、豫め發芽前に少し深目に切込んでおくがよろしい。

針金掛は餘り行はず、切込みによつて、なるべく自然のまゝに仕立てる方が棗らしい感じがしていゝと思ひます。若し針金をかけるならば、發芽の頃か、梅雨中に行ひます。

毎年一回、芽立ち頃に植替を行つてやります。が、芽立ちのごく遲いもので、四月下旬にならないと出て參りません。併しこれは性質ですから、春になつて芽が出ないからといつて、別に心配はいりません。

植替二週間位後から、時折油粕に骨粉を粉のまゝ與へると、實つきがよく、光澤もよくなつて參ります。これは花時だけ一時取去り、その後九月頃まで、再び引續いて與へます。

冬場は落葉と共に、日當りの軒下、ムロ、などに取込む程度で十分です。

木半夏の盆養法

木半夏は、多く山地の濕氣に富む所に自生してゐますから、水分の供給が何時も潤澤で、適

濕の保たれるのを必要とします。特に夏などは、非常に鉢土の乾きが早く、少し乾いてきますと直に葉を卷いてしまひます位ですから、常々から十分に、初夏の頃は一日二、三回、土用中は三、四回與へる必要がありませう。

春發芽の頃から實の色づく頃までと實を摘取つた後十月中頃までは、十分に肥料を施して木を養ふ事です。木がやせてゐますと花も實も少なく、盆養の價値がありませんから、油粕に骨粉を少量加へた粉肥を半月毎に鉢土の上に與へ、更に薄い油粕の腐汁をその合間々々に施してゆく樣にします。葉なき冬の間、この腐汁を二、三回寒肥として與へておくと、一層好結果が得られる樣であります。但し四月の花時と梅雨中は多少控へ目にする方が安全です。

實が熟し過ぎになりましたら摘取り、灌水と肥培に注意して、新梢の充實を圖ります。

根は細かいのが非常に多く出る性質をもつて居りますから、毎年發芽の頃に植替を行ひ、廻りの土を半分ほどほぐし取り、出てゐる小根を適當に摘んで植付けを行つてやらねばなりません。用土は庭土か田土を多くして、これに腐葉と少量の川砂を加へた、乾きの遲いものゝ方が良好です。併し固くして、水排けを惡くしてはいけません。鉢は懸崖仕立の場合には勿論ですが、直幹でも多少深目のものが良好です。

冬は寒風が當らず、土を凍らせぬ場所へ保護すれば十分で、特別の手當を要しません。

枇杷の盆養法

盆養した枇杷に花を咲かせる事は割合容易ですが、實を止める事は相當に苦心を要します。溫かい、特に海岸に近い地方では、培養次第ではよく實が成りますが、東京附近及び以北の寒地になるほど六ケしいのです。これは多く花時に寒さが來るからで、東京附近ですと大抵二月に入らねば花を見ません。實をよく成らせ樣とすれば、十月頃から南向きのごく溫かい緣側、サンルーム、ムロなどにおき、日中はなるべく日に當て、水と肥料を切らさぬ樣にしておき、十二月末から一月初めに花を咲かせ、嚴寒の候には小さい實を止めておくと大丈夫です。

但し暖地の地方ならば別にこの必要はなく、霜の來る頃より多少溫かな軒下などに取込めば、一月頃には開花しますので、よく實を成らせる事が出來ます。

毎年秋彼岸頃に植替をしてやるがよろしい。用土は庭土に砂を僅かに加へたもので、幾分肥氣のあるものがよく、植替當時と花時を避け、周年肥料を與へて、よく肥やす必要があります。半月毎に、油粕に骨粉か過燐酸石灰を加へたものを置肥として與へると共に、灰汁や油粕の腐汁を水肥として時折與へると花つきも實つきもよくなります。

枇杷は側芽や懐芽を出さないもので、腕伸びし易い缺點がありますから、切込みの際はよく注意しないといけません。切込む時期は實を觀賞した後か、秋がよろしい。針金は木がもろく掛け難いものですから、竹をそへるなり、紐で引張るか釣つて撓め、形を整へます。

桑の盆養法

桑を實物盆栽として仕立てるには、大葉と中葉、枝垂性の種類が適當です。勿論それには培養中、一週に一回位の割で油粕の水肥を與へ、十分木を養つてやる必要があります。

實は餘り熟し切らない中に摘取つて、徒らに木の疲弱するのを防ぎます。夏中は終日日當りにおきますから、水を切らさぬ樣に灌水に注意を要します。

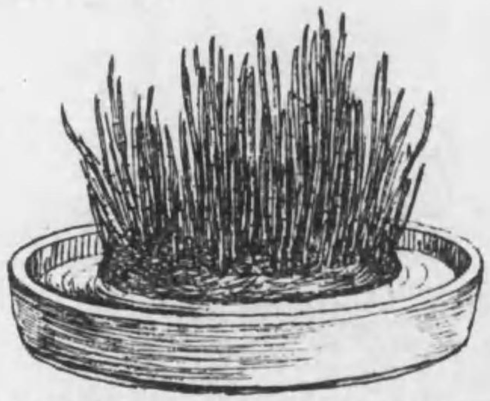
秋日その黃葉と冬期觀樹を觀賞するものは、土用頃に一回葉刈を行ひますが、葉刈すると翌年實がつき難くなりますから、實を觀賞する場合には一切行つてはなりません。

落葉後は次第に水を節し、土の凍らぬまた餘り寒い風のこない所におきます。

芽の膨らみかけた頃、前年の枝を摘込み、實を見終るまで、新梢は見苦しくない限り摘込まぬ樣になし、長過ぎる場合には豫め深く切込んでおきます。尙摘込み直後、植替をします。

枇杷はさくい樹種ですから、こんな風にして枝をためます

石附の石菖を水盤に入れるには、荒砂を敷いた上にのせ、常に砂が濕つてゐる程度に水を與へます



水木賊の水盤作りで、水盤へ直に入れたものです

臺灣荻の水盤作り

讀んで字の如く臺灣荻は、臺灣に產する一種の荻で、內地の沼地や水濕性の場所に生えてゐる荻や蘆と同じ樣なものです。併し盆栽としては、小菊の懸崖作りの樣に大懸崖に仕立て、その靑々として纖細な葉を觀賞します。

培養法は極めて容易で、一年中半日陰の場所で作るのがよろしい。この夏時分は特に日に當てると草が强くなり過ぎて、秋には穗を出し、莖の枯れてしまふ樣な事がありますから、一日中日のチラ〳〵當る木蔭か、葭簀下、或は午前中一時間ほども朝日に當て、その後は日陰になる樣な場所におく樣にします。けれども風通しが餘り惡くてはいけません。

秋末からは幾分日に當てゝもかまひませんが、冬は寒さを嫌ひ、外においたものは莖や場合によつては根まで枯れてしまひますから、必ず霜の來る前に室內へ取込んでやります。日當りの緣側でもよし、應接間、玄關などでも結構。要は寒い風に當てず、土を凍らさねば、假令一冬中日に當てずとも大丈夫です。却つて緣側などにおいたものは、日中の日に當てぬ樣に、カーテンを引いておく方が安全です。

濕地に自生してゐるもので、水を好みますから、素燒鉢かざつと藥のかゝつたやゝ深目の鉢に植付け、中深の水盤に浸けて、鉢底から常に水を吸はせる樣にすると、水やりに手間も要らず、成育も大變いゝ樣です。但し夏は勿論、冬（この時にはごく暖かい日に限ります）でも夕刻一回は葉水をして生づかせると嬉びます。そして日中葭簀下においたものは、夕刻は葭簀を捲いて、夜露に當てゝやる事を忘れてはなりません。

肥料は餘り要しませんが、新芽が伸びる時分、卽ち五、六月中に一、二回、油粕の粉末を鉢土の上に少量ふりまいておけば澤山です。

培養中に芽先が上へ曲つて來たり、根元の附近から出た太い芽が立つて伸びる樣な場合には適當な長さに伸びた頃を見計らひ、先の方を三、四節だけ殘して、岐れ目より皮を剝きます。この時に節際にある小さい芽を傷付けない樣に、ごく丁寧にやる事が肝要です。するとその部分は軟かくなるために自然と垂れ下り、また殘された節々の小さい芽は間もなく伸びて、枝が込み、葉がつんで、一層立派な懸崖となります。

尙傷んだ葉が出ましたならば、その葉だけ、岐れ目より切棄てます。斯うしますとその近くの新芽が立つて來ますから、適當な長さに伸びた頃、前同樣に皮を剝いて莖を垂す樣にしてゆきますと、常に靑々とした葉が見られます。

根が鉢一パイに廻り切ると腐る事があり、成育が悪くなりますから、毎年一回、この梅雨中に鉢より拔出し、廻りの根をほぐし、多少根先を摘込んで、新しい土で水排けよく植付けます。鉢は株の張り具合を見て、少しづつゆるめてゆくとよろしい。土は赤土の玉と鹿沼土、それに庭土を等量に加へたものがいゝ樣です。

石菖の水盤作り

石菖は清水の流れるほとりに自生してゐるものですから、水盤で十分作る事が出來ます。この場合にも直に水盤へ植付けたり、土で根を固めて据えるのではなく、やはり最初二、三年は鉢で仕立て、鉢底から緣一パイに細根が廻り、鉢より拔いても土の崩れない樣にしてから入れます。さもなければ、水吸ひのいゝ多孔質の軟かい石の窪みへケト土で植付け、これを水盤に入れておくのもいゝものです。

何れのやり方に從ふにしても、水を漲つたゞけの水盤におくよりは、粗目の綺麗な川砂（天神川砂とか岡山砂、矢作砂の樣な角のある砂がよろしい）を敷き、その上にのせて水を漲りますが、石菖は溜り水を嫌ひ、灌水には清水を用ひる位ですから、この敷砂は厚目に入れ、毎日

一回は水を注ぎ、餘分の水は水盤より流れ出る樣にしておくと、非常に具合がよろしい。

夏の間は餘り日に當てるよりは、午前中二、三時間當て、その後は風通しのいゝ日陰におくか、一日中木蔭或は葭簀下などにおく方がよく育ち、葉も青々として居ります。但し秋と春は少し日に當て、冬は一日中當てる樣にしてやります。

石菖は寒さには相當强いのですが、根を凍らせると弱りますから、凍らせぬ程度の所に保護します。そのために溫か過ぎる場所、例へば、フレームや溫室、サンルームなどへ取込むのは面白くありません。

また水盤へ置いたものは、初秋に適當な鉢へ移し、隙間には川砂と庭土半々にしたものを詰めてやれば、翌年の初夏、再び水盤へ移す時までにはよく根を張り、株にも元氣がついて立派になります。

手入としては、四月下旬から五月上旬頃に一回と八月下旬頃に一回、都合年に二回、柄の長い木鋏で、今出てゐる葉を根際より綺麗に刈取ります。これは短かい葉を出させるためで、葉も美しくなります。またツンと飛拔けて伸びた葉は、葉刈をする迄に一、二回摘込んで、全體が同一の長さと大きさに育つ樣にする事が大切です。

また常に枯葉が出來ますから、面倒でもピンセットでむしり取り、また根元に生える水苔を

取除いて草の勢を衰へさせぬ様にします。

二年に一回、四月上旬に廻りの土を僅かにほぐし落し、新しい土を廻へ詰める様にして植替へておきます。肥料は殆どいりませんが、春先と五月頃、及び秋に一回、油粕の粉末を少量やれば十分です。

風知草の水盤作り

自生の風知草（知風草ともいひ、風致草ともかきます）は、谷川の兩側とか木蔭などの多少水濕の多い所に生えて居りますから、水さへ切らさぬ様にすれば、夏中も日當りで十分作れます。併し酷暑の中だけは、午前中の日のみ當て、午後は陰げる場所か葭簀下などにおく様にすると、葉にやさしみが出て、大變見よくなります。

一時位水を切らし、葉か撚れる様な事があつても枯れる様な事は毛頭ありませんが、努めて灌水には注意し、乾く前々に與へます。初夏の頃から秋までは一日二、三回は必要です。その わづらはしさを避けるためには、水盤作りが適當で、また夏の盆栽として、却つて鉢植より變つてゐていゝと思ひます。

但しこの際には一、二年みつちりと、鉢で培養し、鉢より拔いた時に廻りへ十分根が張つてゐないと、土の崩れる處れがあつて面白くありません。またこの場合には、土もケト土の様なものを幾分加へて植付けておく方がいゝ様です。

尙水盤へ直におかないで、天神川砂とか桂川砂、矢作砂、岡山砂などの細かいものを厚く敷き、その上にのせて、常にこの敷砂を少しかぶる程度に水をたゝへておくと觀賞上、餘程見映えがして來ます。

冬季もそのまゝ水盤に入れておく場合には、土を凍らせない様に日當りの軒下か室内に取入れ、また水を切つて、根廻りだけ乾かぬ様に時折水を與へます。併しなるべくならば水盤で眺めるのはこの夏中に限り、その後秋彼岸頃にはそのまゝそつくり丁度適當な鉢へ移し、冬は日向の軒下、縁の下、或は日當りに鉢毎埋けて上に霜除をしておき、初夏の頃より再び水盤に入れる様にすれば申分なく、成育も上々であります。

肥料は水盤に入れてゐる内は全く不要で、新芽か少し伸びかけた頃から六月頃までに二回と秋に一回ほど、鉢土の上へ油粕の粉をふりまく程度でよろしい。

植替は、先づ二年か三年に一遍位でよろしい。時期としては新芽がホンの僅かに出かゝつた三月上、中旬がよく、廻りより根をほぐします。土は五分の二乃至三位落し、根先を適當に

切詰め、多少ケト土を加へた庭土で植付けます。植替を行つた年には夏までにはまだ十分に根が廻りませんから、水盤に移す事を控へ、次年より行ふ様にします。

葉は秋末になると枯れますが、これは霜除のためにそのまゝつけておき、翌春紅い新芽のごく僅かに伸びかける頃、一本〳〵土際から切取ります。夏に一回、根元の枯葉を取つて、風通しをよくしてやるとよろしい。

尙この風知草には、天然の青葉ものと、園藝品の黃斑入もの（斑入といふよりも黃葉に綠の斑が入つたといつた感じのもの）とありますが、何れも丈夫で、作り易いものです。

紅茅の水盤作り

水盤へ直に植付ける事もありますが、一般には風知草などと同じ様に、一旦深目の鉢で仕立て、鉢底から廻りへ一パイに根が張つてから移します。この場合にも水盤には水だけ漲つてもよく、適當に粗砂を敷き、その上にのせるか、少し底を埋める氣味においても結構です。夏の間は毎日朝と夕の二回灌水して、不足の水を補つておくと共に、夕刻には頭からかけて葉水をすると生々する樣です。

芽立つた頃から水盤へ移す迄に一、二回とそれ以後春夏に二回位（水盤で與へた時には、水肥が乾くまで一時灌水を控へます）油粕の腐汁を與へると美しい葉を保ちます。

日には十分當てゝいゝのですが、夏の間だけは午前中の日に當て、午後は風通しのいゝ日陰か日當りの葭簀下などに取込むと申分ありません。併し餘り日陰におくと葉伸びがしてしまひますから、適當に日に當てる事も大切です。

葉が枯れましたらそのまゝで日當りの軒下、ムロ、霜除下（この時には鉢の部分だけ埋けます）などに取入れ、多目に水をやつておくのです。そして翌春、發芽と同時に枯莖を元より切取ります。この時に新芽を切らぬ事が肝心です。

二年か三年目に植替をしてやります。植替といつても株の廻りの土を少し落し、長い根を切詰めて植込むだけです。土はケト土に川砂を多少混ぜたものがいゝでせう。

蘆の水盤作り

蘆は鉢植にして觀賞する場合もありますが、水盤へ直に植付けるか一旦鉢に仕立てたものを水盤へ入れてこの夏の間眺めるのもいゝもので、人形の鷺など配ふと一層引立ちませう。

水盤へ直に植付ける場合にも豫め鉢で仕立てる場合にも、土は水をよく含む田土かケト土がよろしい。水を加へて練り、多少葉が密生する様に株をつめて植付けます。鉢植の際は鉢一パイに植付けますが、水盤には適當な空地を設け、その部分には粗い川砂を敷いておくと見映がよろしい。鉢植のものは、一、二年すると根が十分に張りますから、さうなつた時に鉢よりスツポリと拔出し、夏の間だけ水盤に浸けて眺めてもいゝでせう。

植替は殆ど必要ではありませんが、中心に莖のなくなつた様な場合には、早春に土をつけたまゝ株分を行ひ、その廻りへケト土をつける様にして植付けておけば結構です。

極めて丈夫なもので、可成りよく水を吸ひますから、切らさぬ事が肝心です。夕刻は一回、頭から灌水してやると生々します。日には周年十分に當てゝやります。日陰などに取込む必要は少しもありません。肥料は全くいらぬといつていゝ位ですが、鉢で仕立てゝあるものには初夏の頃に油粕の粉を與へれば、葉の光澤がよくなります。

培養中に餘り丈の高くなり過ぎる時には、適當な高さになつた頃、針の様な新芽を引拔いておけば伸長も止まり、株際からは新芽が出て込んで參ります。

霜の降る頃からは日當りの軒下か霜除下に鉢毎埋けるか、ムロに取込み、乾かさぬ様に水を與へてゆきます。そして春芽立ちと同時に、枯葉や汚れを取去つておけばいゝのです。

水木賊の水盤作り

水木賊は、盆栽界では姫木賊と呼んでゐるもので、多く水邊に自生してゐますから、田土とかケト土の如き粘土がかつた土に植付け、相當に根を張らせたものを水盤に移して觀賞するのは、夏の景物としていゝものです。

極く大丈夫なものですから水盤に入れたまゝ長く保込む事も出來ますが、秋十月頃から翌年の五、六月頃までは、鉢に入れて培養してもよく育ちます。

日には強いものですが、それほど當てる必要もなく午前中のみ日の當る棚におくのが、常に美しく保つ様です。但し多の間は終日當てゝやります。

この水木賊は風に弱く、強い風がくると直ぐ倒れたり、途中より折れたりしますから、注意を要します。

莖はその高さが餘り揃ふと恰好が惡くなりますから、節より不用な部分を摘取つて、高低をつける様にします。若し全體が見苦しくなつた時には、五月下旬頃に、根際より全部の莖を刈取ります。すると新しい莖が立つて、夏までに美しい莖を伸します。

緣日盆栽禮讃

夜店のシーズンが參りました。蒸し暑い夏の長夜を、とても家の中にぢつとしてゐられぬまに、涼を追ふて巷に歩を運ぶ人のなんと多いことでせうか。夏こそは正に夜店の書入時で、夜店の盆栽が一年中を通じて一番よく賣れるのもこの時です。

盛り場といふ盛り場は無論のこと、ちよつと人通りがあり、夜店でも出ようとする場所には大抵一、二軒の盆栽屋の顏が見受られ、それがまた皆相當の繁昌ぶりです。又夏の夜を當て込みの盆栽市が諸々方々に立ち、これまた凄い人氣を呼んでゐることも、皆さん既にご存知のこと丶思ひます。

打水のあとも爽々しく、綠葉に宿る玉の露、それが煌るい電燈の光に映へた風情はまた一段とよいもので、誠に涼味萬斛、思はず知らず暑さもなにも打忘れ、一瞬歩みを止めずにはいられません。誠に夏の夜ほど盆栽が美しく、涼し氣に見える時はないでせう。その素晴らしい人氣と賣行は蓋し當然といはねばなりますまい。

夜店の盆栽、所謂緣日盆栽がこのやうに人氣のある反面に、非難の向きもあるやうです。

曰く、「緣日物にはロクなものはない」

曰く、「緣日物はインチキ物が多い、うつかりするととんだ目に遇ふ」

などその非難の主なるものでせう。

なるほどこれも一面の眞實で、頭から否定するわけには參りませんが、全部が全部さうとは限りません。緣日盆栽でも相當見られるものが澤山あり、十錢二十錢程度のものは別として、少し値の張るものには、枯れるやうな盆栽は先づ少いやうに思はれます。要するに緣日盆栽が一般の大衆に一番親しまれ歡迎されてゐることはなんといつても、動すべからざる事實でありませう。

先づ何よりも緣日盆栽は安い、これが一番の强味であり、人氣のある理由ですが、最低十錢位からあり、一圓以内でちよつとしたものが買へる。勿論それ以上のものも澤山ありますが、概して何れも値が安いのは事實のやうです。安いからよく賣れる、これも當然なことで、中には「まア枯らしていゝから」といつて當座のお樂しみのつもりで買つてゆく人も案外多いやうです。さういふ盆栽にあまり緣のなささうな人達にとつては枯らしてもあきらめがつき易く、巧く枯らさずに持つ事が出來れは、全く儲け物をしたやうな氣持になつて、一層愛培の熱を高めようといふものです。

緣日盆栽の安物でも、持つ人にとつては價以上の値打となることがありまして、愛と熱とによつて培ふことによつて多少とも樹格を上げることが出來ればその喜びは一入で、尙一層愛培に拍車をかけることゝなりませう。かう考へて見ますと、緣日物は最も安直な盆栽入門の近道であるといふことがいへると思ひます。

緣日盆栽といつても、一概に馬鹿には出來ません。値段次第では立派な完成された盆栽もあります。併し緣日物は促成促賣を第一義としてをり、又顧客を考慮してか、大きなものよりは小さいもの、完成したものよりは未完成のものが多いやうです。そしてその中には形のよい、傷のない、將來の望みのあるものが相當あります。つまり盆栽用の種木として有望なものが少くないのであります。かういつた掘出し物をあさる氣持は、また格別にいゝもので、巧くさがし當てた時の喜びは例へようもありません。盆栽の夜店あさりを始めたら、止められないといふ人がよくありますが、全く尤もなことだと思ひます。

また緣日盆栽の特徵として見逃すことの出來ないことは、あの夜店群が醸し出す、一種獨特の雰圍氣であります。たゞ漫然と夜店の前を素通りするも何か心樂しいものだし、素見も亦面白い、買ふにしても夜店では樂な氣持で買へる。かういつた樂な氣分は、夜店ならでは到底味へ得ぬことで、緣日盆栽獨特の魅力として特筆すべきことでせう。

夏の夜店で人氣のある盆栽

夜店や緣日に出る盆栽の種類は澤山あります。嚴密な意味からは盆栽の仲間に入れて貰へないやうな、駄物盆栽も加へると大變な數になりませう。併しその中で割合に數の多いもの、又夏の夜店に特に人氣のあるものといふ條件をつけると著るしく數が少くなります。先づ花物はごく少くて、皐月、石榴などがあるほかは、合歡木、百日紅、藤などが偶に顏を出す程度です。花の少い夏のことですから、皐月や石榴なども人氣がありますが、やはり葉の美しい涼しいものが夏の間は特に受けるやうで、草物では風知草を筆頭に、竹、笹、蘆、石菖などを擧げることが出來ます。木物では蝦夷松、杉、椚、楓、欅、石榴などがあり、これ等は他の時期でも一貫した人氣をもつてゐますが、夏は特に喜ばれてゐるやうです。

次に夏の夜店に出廻る盆栽の中主なものを擧げて見ませう。

松柏盆栽

一、蝦夷松（えぞまつ）　蝦夷松は夏の緣日盆栽として素晴らしい人氣をもつてゐます。樹肌の錆びといひよく密生する小さな葉の艶やかな綠といひ如何にも涼し氣な盆栽です。この蝦夷松には黑蝦夷と赤蝦夷の二つがありますが、盆栽としては後者の赤蝦夷の方が喜ばれてゐます。樹形は樣々で直幹、斜幹、双幹、寄植、筏生などが見受られます。蝦夷松には山採り物と挿芽したものとあつて、大きなものは大抵山採りですが、小さい高さ五、六寸程度までのものは多く挿芽から仕立られます。そして五年生位のが五十錢から一圓前後で賣られてをります。

尙、松の類は一年中を通じて夜店でも最も人氣のある盆栽の一つですが、夏はまだ葉が固つてゐないために外觀が一寸落ちるためか、賣行も他の時期に比べると幾分落ちるやうです。

二、眞柏（しんぱく）　眞柏にもいろ〳〵系統がありますが、緣日に出るのは主に紀州眞柏の挿芽から仕立てたものです。この眞柏には金性といつて葉に黃色を帶びた種類と、銀性といつて葉の白つぽい種類とこの二通りありますが、前者の金性の方が受けがよいやうです。樹形は直幹、斜幹、懸崖その他いろ〳〵に作られますが、一番好まれるのは幾分模樣をつけた形です。挿芽から作つて三年位から賣品として店に並べられ、最低五十錢位からあり、十圓程度のものまで賣れるさうです。

三、杉（すぎ）　杉はやはり眞直に直立した恰好が一番好まれます。時に寄植なども見受けます

が、杉の寄植も亦いゝものです。杉は主に實生で作られますが、實生が一番早く出來、また簡單でもあります。實生三、四年位の小さなものは五十錢位からあります。

四、杜松（としやう）　俗に「ねずみさし」ともいつてゐます。方々の山に澤山自生してゐますので、種木は殆んど全部山採りです。非常に萠芽力の强く、芽先が自然によく込んできます。葉は細くて先が尖つてゐますが、これには葉先が針のやうに尖つてゐるものと、尖り方のひどくないものと二通りありまして、一般には後者の方が喜ばれてゐます。小品盆栽乃至小物盆栽が多くて、安物は五十錢位から高價なものは十圓位までであります。

雜木盆栽

一、槭（もみじ）　槭には血染、淸玄などといふ種類がありますが、この二つは春觀るのによい盆栽で、夏は專ら山槭が愛されます。山槭には赤芽のものと、靑芽のものがありますが、赤芽の方が枝打がよいために盆栽向きです。槭といへば、殆んど知らない人はない程一般化されてゐる植物で、盆栽としての賣行も素晴らしいものがあります。形は直幹、模樣木、寄植などが普通です。殊に實生から仕立てゝ平鉢に何本か寄植したものが人氣を呼んでゐます。多く實生で仕立てられ、五、六年で賣物になりますが、安いものは五十錢位から少し保込んだもので五

圓程度まであります。

二、楓（かへで）　楓は、槭と並んで喜ばれる夏向きの盆栽です。楓は枝や葉がよく密生しますので、槭よりも一寸暑くるしいといふ感じもしないではありませんが、非常に根張りがよく、丈夫で作り易い大衆向きの盆栽です。これも多く實生で仕立られ、寄植の實生林は槭同様いゝものですが、無論一本植にもされ、直幹、模様木などもいゝものです。値段も安く、五十錢位からあります。

三、欅（けやき）　欅にも芽出しの赤い赤芽と、芽出しの青い青芽と二種ありますが、盆栽としては赤芽がよろしい。盆栽に仕立てるには多く實生によります。取木も出來ますが、取木したものは根が太くならぬ欠點があります。實生からですと根張りのよいものが出來、本格的に作るには相當の年數がかゝりますが、緣日などに出るのは、四、五年生位の小さいものを少し形を直した程度のものが多いやうです。

四、桑（くわ）　桑の種類はいろ〳〵ありますが、葉の大きさによつて大體大葉、中葉、小葉の三つに分けてゐます。この中小葉のものは葉が三角形をなし、恰度欅のやうで枝も細かく小品盆栽として人氣を呼んでゐます。非常に生育の早いもので、實生から主に仕立てられます。實生三年位から一寸見られるやうになり五十錢から五圓程度まであります。尙桑は夏に實を結び、

この實も觀賞するにいゝものです。

五、蔦（つた）　蔦の中にはいろ〳〵種類がありますが、なんといつても光澤ある照葉の紅葉蔦が、一番人氣があります。紅葉蔦を一名ナツ蔦とも申しますが、葉に光澤があつて美しく、涼味をそゝるに十分です。これは名古屋邊りでは主に根接によつて仕立てゝをり、東京へはこの名古屋から大分種木が入つて來ます。蔓性の植物ですから懸崖が一番恰好がいゝやうで、値段は三十錢位から一圓位までが普通です。

六、檉柳（ぎよりう）　清々しい深綠の絲のやうな葉をもつた檉柳は夏の盆栽として仲々の人氣があります。挿木や取木で仕立られ、安物は五十錢位からあります。

草物盆栽

一、風知草（ふうちさう）　夏の草物盆栽の中ではこの風知草が一番人氣があるやうです。名前からして如何にも涼しげではありませんか。風知草には立葉の姫性のものと、葉が細くて長い種類がありますが人氣の程はどちらも甲乙なしです。又この二種の外に葉に黃縞の入つた斑入種と全然無地の青葉種とがありますが、これも好きずきですからなんとも申せません。併し値段は斑入種の方が高價で、風知草は鉢の大きさによつて値を定めますが、五寸鉢ですと斑入種

は一圓五十錢見當もしますが、青葉種は五、六十錢から七十錢程度で大體半値位しかしません。培養も容易ですから、最も大衆的な草物盆栽といへませう。

二、竹（たけ）　竹には孟宗竹、寒竹、黑竹、布袋竹等がありますが、夫々に特徴をもち、何れも夏の緣日でよく見受けます。竹を盆栽にするには、竹籔から根節をとつて來て、これを鉢で保込んで小さくするのです。多く三本乃至五本を寄植したものですが、値はそんなに高いものではありません。

三、笹（ささ）　笹には隈笹、金華山、オロシマ等の品種がありますが、何れも保込んで葉を小さくしたものが賞美されます。薄鉢にぎつしり植込むといゝものです。盆栽の陳列會などでは下草として用ひられますが、これだけを見ても、特に夏はいゝものです。

四、石菖（せきしやう）　これにも種類があります。天鵞絨といふのがあつてこれは葉が濃綠色で光澤があり、ごく矮性種で草丈は五分位ですから、石附として喜ばれます。有栖川（普通は單にアリスといふ）といふのは草丈は稍高く伸ばせば七、八寸にもなり、これは淡黃色の葉をしてゐます。次にニラ石菖といつて野生に近い種類ですが、これは、石附にして、新芽の伸びた頃に古葉を刈取つて草丈を詰めて賣り物にしてゐるのです。安物ですから、夜店では一番よく賣れるやうです。

五、臺灣荻（たいわんをぎ）　臺灣荻を懸崖仕立として、枝から枝を出させるやうに培養しますと、簾垂のやうに垂れ下り、人の動く氣配にも葉を搖がせて涼を送つてくれます。しかもその葉は年中青々としてゐて枯れることがありません。大株の懸崖仕立が主ですが、小品盆栽にもされます。値は大いしたことはなく小さなものは二、三十錢からあります。

六、蘆（あし）　河や池の畔に參りますと、澤山蘆が生えてゐます。これを採つて來て鉢に挿すとよく着き、一年で蘆の盆栽が出來上ります。かういつた一寸した蘆の盆栽が緣日などに出て參ります。中には相當鉢で保込んでよく出來たものもあり、水邊の蘆が偲ばれていゝものです。この蘆には普通の青葉のものと斑の入つたものとあります。鉢植にする外、水盤植としても面白いものです。

七、紅萱（べにちがや）　紅茅は茅の一種で、普通山にある茅よりはずつと矮性です。六月頃から葉が紅葉して美しくなります。丈夫な草で濕地にも乾燥地にもよく育つほどで、また手入も殆んど要りませんから、保込は至つて樂です。薄い鉢にこれだけを植ゑたものも面白いですが、鶯草や姫木賊などをあしらつたものも時に見受けられ、これはまた一段と風情があります。鉢植にされる外水盤物もあります。價は安いもので、二、三十錢から結構見られる株があります。

蘭、萬年青

一、蘭（らん）　夜店でも蘭と萬年青は、盆栽とは別にそれ專門の店で賣つてゐます。蘭には澤山種類がありますが、夏の夜店で人氣のあるのは、素心蘭、金陵邊、駿河蘭などです。中でも素心蘭は葉も優雅で、初秋に咲く白い花も清楚で芳香を放つために一番珍重されてゐます。從つて價格は相當張り、よいものは一鉢二十五圓位まであります。

金陵邊は葉も花もそれほど傑出してゐるとは申せませんが、併し値が安いためと、性質が強健で、培養が易しいために最も大衆向きのもので、緣日物としては、これが一番よく賣れてゐるやうです。日月（六、七本立で七十錢から一圓位まで）とか八島（三本立で一圓から二、三圓位まで）などがよく出ます。

駿河蘭は五月から初秋まで香り高い淡黃色の花をつけ、葉も雄大でこれも相當の人氣があります。價格は葉當り二十錢見當です。

この外に薫蘭は最近稍々人氣は下火になつたやうですが、天賜芳（三本立十圓位）加治谷（三本立五圓位）など相當の賣行を示してゐます。

二、萬年青（おもと）　萬年青の人氣は夜店でも素晴らしいものがあります。淺草の某所に出てゐる店では五、六十圓位のものはちよい〳〵賣れ、百圓以上のものも平均月一杯位は捌けるといふ話です。場所やお得意がよいためでせうが、なにしろたいしたものです。併し夏は夜店物の萬年青が一番荷の少い時で、景氣のよいのは九月から十二月までと、四、五月ださうです。どうして夏はあまり賣れないかと申しますと、それは次のやうな原因によるのです。

一、持運びが困難なこと、箱などに萬年青を詰めて持運ぶわけですが、陽氣が陽氣ですから箱の中が蒸れて荷傷みがし易いからです。從つてよいものは出されません。

二、恰度この期間は芽先であるために賣つてもあまり引合はない。つまり萬年青は葉數で値がきめるのですから、春出た芽がまだ葉にならなくて賣る方で割が合はないからです。又四月から七月一ぱいまでは萬年青の培養時期に當りますし、古葉がついてゐたりして見苦しくもあります。そんなわけで、夏は賣る方も買ふ方も工合の惡い時期なのです。

さて夜店ではどんなものが賣れるかと申しますと、場所により店によつて相當の高級品でなければ賣れぬ店と、駄物がよく賣れ、高級品はあまり賣れない店とがあります。高いものはきりがありませんが、帽子の虎、縞鼈甲、殘雪などは三十錢から二圓どまりで最も一般向なものといへませう。これより少し格が上つて、人氣のあるものでは玉獅子、松の霜、虎の子、壽、瑞鳳、富士の雪、日月星など、四、五圓から十五圓程度までです。

花物盆栽

一、皐月（さつき）　夏の花物盆栽の中で、最も大衆的な人氣のあるものは何かといへは、先づ第一にこの皐月を擧げなければなりません。皐月の人氣は最近は下火になつて、ひと頃ほどではないとはいへ、やはり一たん築いた地位は仲々動きさうもありません。少くも一般大衆を相手とする夜店ではやはり一番の人氣物であるといふことが何よりの證據でせう。

皐月は相當の名木もありますが、緣日盆栽としては、木の出來は二の次として、先づ花の美しいものが喜はれます。從つて値段も十錢位から五十錢一圓程度のものが一番よく出るやうです。このやうなものは殆んど挿芽から作られ、三年目位から多少針金などを掛けて賣りに出されてゐるやうです。花色は白、紅、絞りなどがありますが、絞りが一番受けてゐます。形はいろ〳〵で溫室において木をうんと伸ばし、針金でクネ〳〵と曲げたものもあれば、戸外で一尺位の高さにまとめた小物盆栽などもあります。概して直幹などよりも、相當に幹や枝を曲げて模樣をつけた模樣木が喜ばれてゐます。併し皐月の花は六月の終りになれは大抵終りになりますから、花が濟めば賣行はバツタリ止まつてしまひます。

二、石榴（せきりう）　石榴は皐月に次いで人氣のある夏の花物盆栽です。花も上品で綺麗です

し、夏一ぱい咲いてをり、花が終れは特殊の觀賞價値ある實がなります。しかも石榴は皐月などよりも盆栽としての樹形がよく出來、花や實がなくても十分觀賞出來ますから、いつでもよく賣れます。

石榴にも品種は澤山ありますが、花を主として觀るものでは八重咲の後絞り、八重樺、白牡丹、長大榴など一番人氣があり、花は八重咲より劣るが實を觀るものでは、大實、朝鮮姫、紫紺榴などがあり、夏でも賣行は良好です。

實の成るものは實生で仕立られ、實を結ばない八重咲種は主に取木で作られます。何れも四年乃至五年位作り込めば小さなものでも一圓から二、三圓でよく賣れます。樹形はいろ〳〵に作られますが、斜幹など一番多く見受けます。

三、一歲合歡木（いつさいねむ）　ご承知のやうに合歡木の花は夜になると咲き、葉は寢ります。その花は桃色が多いやうで、山から根を取つて來て伏せておきますと、四、五年で花が見られます。鉢に保込んだものゝ根を用ひればもつと早く花が來ます。値段は一圓から三圓どまりが普通です。

四、その他　この他に夏の緣日に出る花物盆栽には、百日紅、土用藤などがあります。何れも五十錢位から賣つてゐますが、その數は極く少いやうです。

縁日盆栽の上手な買ひ方

夜店や縁日で盆栽を買ふには、あれで仲々コツの要るものです。うつかりするととんだインチキに引つかゝつたり、インチキされないまでも、兎角つまらむものを高い値段で攫まされたりし勝ちになります。ましてや掘出し物を得るなどは、相當の經驗を積んでからでなければ出來ないことです。

そこでこれから、如何にしたら夜店や縁日で盆栽を上手に買へるか、そのコツやら、買ふ時のご注意など列べ立てゝ見ることに致します。

先づ眼を肥やすこと

これがなんといつても一番の先決問題でせう。品物を一眼見て、これは將來に望のある盆栽であるかどうか、果して云値通りの價値あるものかどうかなど、たとへ安物の縁日盆栽を買ふ

にも、そこまで眼が屆くやうにならなければ本當とはいへません。

大體に於て、よい物は玄人が見ても素人が見てもよい物には違ひないのですから、素人は先づさういふ物を買へば一番無難だと思ひます（但し價値を決定するのが難かしい）併し例外も無論ありまして、一寸見た眼にはよく映るものでも案外つまらぬものがあり、さうかと思へばこの反對に素人眼にはつまらぬもの、例へば汚れてゐたり、形が不恰好だつたりするものでも適當な手入をすれば、殆んど見違へるやうな立派な盆栽となる場合もあります。先づもつて何をおいても盆栽の鑑識眼を養ふことが最も大切です。

信用のある店を選べ

縁日の盆栽屋に信用のある道理がないではないかと御不審の向が多からうと思ひます。無論はつきりと信用のおけない店は澤山ありますが、縁日盆栽屋にも相當信用してよい店があります。それではどこで信用があるかないかをきめるかと申しますと、二回、三回と一つ店から買つて見て、品物が確かであれば問題はないと思ひますが、若し初めてぶつかる店であれば、その店の出る場所によつてきめます。

一體緣日盆栽屋といつても種類がありまして、これを大體三つに分けることが出來ます。その一つは、人の集る盛り場で、お天氣さへよければ殆んど一年中店を張つてゐる盆栽屋、正確にいへばこれは單に夜店といふべきで、緣日盆栽とは申せません。もう一つは、月一回とか二回、又は年に一回とか二回といふ風に、緣日に限つて出る夜店で所謂緣日盆栽屋、第三はこれもお祭りや緣日を當て込んで立つ盆栽や植木の市とこの三つであります。

この三つの中、一番信用のおけるのは、最初に擧げた夜店の盆栽屋で、これは年中同じ場所に出て居るのですから、さうひどいインチキはやれません。

ところが、緣日や盆栽市に出る盆栽屋は、その場限りの店が多く、賣つてしまへば後は野となれ山となれ式が多いやうですから、到底信用はもてません。盆栽市などは澤山の盆栽屋が一つ所に出て、この時とばかり賣込むのですから、掘出し物も多い代りにインチキ物も多いと覺悟してかゝらねばなりません。

品物をよく調べよ

一寸見た感じでいゝなァと思つても、更によく盆栽全體に亙つて調べて見る必要があります。

先づ盆栽の形を見て恰好のよい、自分の好みのものを選び出します。それから盆栽の各部、つまり鉢、植込の狀態、根の工合、幹、枝、葉等を一々丁寧に見ます。又病氣や害蟲におかされてゐないか、根腐りなどを起してゐないか、無理な工作や、インチキな手段を弄してゐないかなどを、盆栽を手にとつて表からも裏からも仔細に調べる必要があります。この時特に注意することは次のやうな點です。

イ、鉢 いふまでもなく樹（草）によく調和したものを選ぶこと、これは支那鉢ですから、とか特に鉢を高くいふ場合は十分調査する必要があります。

ロ、植込の狀態 畑や山から採つて來たものをすぐ鉢に植込んで店に出すことがよくありますそしてこれを保込品だと稱してゐます。ご承知のやうな盆栽の植替は春又は秋に行ふべきもので、特に夏は盆栽が傷み易いのでいけないのですが、賣らんがためにはかういふことが屢々平氣で行はれてゐるやうです。そこでなるべくこれを見破ることに努めねばなりません。

植込んだばかりのものは、土が新らしく締つてゐなくてなんとなく落着がありません。そこでこれをカモフラージュするために苔を張つて古く見せたりします。併しその苔はよほど巧くやつても何かとつて附けたやうに新らしく、指で壓して見るとブク〳〵してゐて、土にしつかり生えてゐませんから、一寸した注意で見分けることが出來ます。

又草物の寄植なども、根元を壓して見て、固いやうであればこれは相當保込んだ證據で、鉢を裏返して見て、底孔から白根が一面に見えるやうならば一層確實です。

ハ、根　樹を培養するすべての元は根にあるのですから、根が圓滿に發達してゐなければ、幹や枝葉が完全ではあり得ません。そこで根張りは四方に張つた、所謂八方根張りのものがよろしく、片根張は必ず避けるべきです。又土面からあまり露出してゐるのもよくなく、ガツシリした根張りがよいからといつて、あまりに大きすぎるのは感心しません。やはりその幹の太さに相應はしい大きさの根張りであつて欲しいと思ひます。

ニ、幹　時々幹に大きな傷痕のある盆栽を見受けます。それがあまり目立たない木の裏側や枝にかくれる部分にあつたとしてもあまり感心出來ません。幹の形にもよく氣をつけるべきで、見た感じが不恰好のものは勿論よくありません。三幹、五幹物などになると、正面から見た場合に、大事な幹が他の幹と重なり合つて、形を崩してゐる盆栽がありますから、この邊も篤とご注意願はねばなりません。その他幹には割合に手術をし易いもので、接木などはほんの一例ですが、その他に實に巧妙な手段を弄した木がありますからこれも注意が肝要です。

ホ、枝葉　枝葉のつき工合も亦、全體として形が整つてゐなければなりません。完成品といふ意味からいへば、なるべく針金などの掛つてゐないものがよろしいが、針金も上手にかけてあ

ればむしろ買ひ手にとつては都合のよい場合もありますから一概には申せません。併しその仕事がひどく無理したものや、後の枝をひどくねぢつて前へ持つて來たもの、又よく緣日などで見受ける所謂タグリ作りにしたものなどは何れも感心出來ません。

とも角一時にどつといぢめた樹は、それだけ弱り方もひどくなつてゐますから、どうしても以後の手當が面倒です。そこで、あまり技巧をこらした樹はなるべく避けるのが賢明なやり方だと思ひます。

×　×　×

夏は盆栽に根腐りなどの根の故障が起り易い時ですから、緣日で盆栽を買ふ場合は十分の注意が必要です。併し根の故障は割合に容易に見分けられるものです。卽ち根腐りを起してゐる樹は、葉の色は普通に青々としてゐても、樹全體がなんとなく勢がなく、又新らしく出た小枝が弱々しく見えますから、少し注意して見れば分ります。そして根腐りを起した盆栽は、夏の間は、衰弱が早くて、到底二日、三日と保たずに萎れてしまひますから、賣る方でも永く店に出しておくわけに參りません。これと反對に寒い時は仲々弱りを見せませんから、むしろ根腐り盆栽が跳梁するのは夏よりも冬の方が多いやうです。

病氣や害蟲におかされてゐる盆栽も必ず避けるべきで、そのやうな心配はないかどうか葉裏

のやうな隠れた場所もよく調べる必要があります。

小品、石附、水盤物の場合

縁日ではよく十錢均一又は二十錢均一位の値段で、掌に二つも三つものるやうな小さな盆栽を賣つてゐます。これこそ本當の駄物で、せい〳〵子供の玩具位にしかならぬやうなものですが、これが案外よく賣れてゐるやうです。かういふものは殆んど全部が畑などで大量に作つておき、前日位に鉢に植込んで持つて來たもので、保込品は皆無といつてもよいでせう。從つて暫らくは眺められても、やがては枯らしてしまふのが落ちですが、中には枯れずに保込めるものであります。丈夫なものほどそれが可能ですから、勢のよいのを選ぶべきです。

澤山並んでゐる盆栽の中に石附の盆栽が一つ二つ混つてゐると、その石附物が非常によく見えるものです。無論石附には石附として面白い味があるものですが、縁日ではそれが兎角誇張されて見えるやうです。そこでその石附物もなるべく石に附けてから相當に保込んだもので、ガツチリ石になじんでゐるものを選ぶことが大切です。單に石に附けたといふだけの俄か作りの石附では、觀賞上も面白くなく、保越も樂ではありません。

水盤物はどれもが涼味をそゝるに十分なものです。これを求める場合も全體の形から根の工合、勢の強弱などを仔細に調べる必要があります。又植物によつて、水盤に入れるのをあまり好まぬものもありますからそのやうな水盤物はなるべく避けねばいけません。

蘭や萬年青の場合

安物の駄物は別として、少し金目のある蘭や萬年青を買ふ場合は、盆栽を買ふときとは少し違つた心構へが必要です。といふのは、蘭や萬年青は盆栽のやうに木の出來によつて價値をきめるのでなくて、品種によつて判然りと價値がきまつてゐるからです。そこで先づ品種が正確であるかどうかを確かめ、次に故障の有無、例へば根腐り、葉傷、芋腐れなどがないかをよく調べます。そして品種の正確な故障のないものを選ぶことが大切です。併しこれは仲々難かしくて相當その道に明るくなければ出來ません。

ですから初心の人はその道に明るい人に選んで貰ふか、それが出來なければなるべく金高の張らないものを買ふことです。後でも述べますが、蘭や萬年青にはインチキが多く、特に斑や縞や圖、虎などの葉に藝のあるものはごまかされ易いものですから、要心すべきでせう。掘出し物をねらつたりすることはつゝしまねばなりません。

賣り買ひの掛引いろ〳〵

緣日に出る盆栽屋は、如何にしたらば客を魅きとめられるかといふことを先づ考へ、その邊は仲々拔かりはありません。

先づ棚は二段以上三、四段の高さにして、その上に樹の形により、樹の種類により、樹の大きさにより、それ〴〵を巧みに配置してすべての盆栽が引立つやうに考へてゐます。例へばドツシリした松の盆栽もあれば、感じの軟い械や、楓の盆栽もあり、涼味をそゝる風知草や竹蘆の盆栽、開花中の皐月や石榴の盆栽、さてはごく小さな草物などを點綴させてゐます。無論鉢も樹も綺麗に掃除し、棚も盆栽も水を打つて如何にも涼しさうにしてあります。

これなどは割合によいものを扱ふ店ですが、駄物を賣る店でも、賣物の盆栽には水を打ち、綺麗に掃除して、少しでも客の購買心をそゝるやうに努めてゐることは變りません。

かうしてお客が來れば、いよ〳〵商賣開始です。賣る方は少しでも高く賣らうとする。買ふ方は少しでも安く買はうとする、これは何んによらず、賣買の原則ですが、これが緣日の盆栽ではひどいやうに思はれます。

それは元來盆栽といふものには一定の値段がありません。賣手次第、買手次第でどうにもなるものです。そこで賣る方も客を見て値段をきめるといふことになるわけです。この客はこの盆栽が馬鹿にお氣に入りのやうだとか、少々甘いなと思へば少し値を高く吹かけることもありませう。反對にこの客は相當に眼が肥えてゐるなと見れば、結局賣つて引合ふ値段であれば手放してしまふ場合もあります。その邊の掛引は仲々巧いものです。

この掛引のひどい店もあり、あまり掛引をしない店もありませうが、程度の差こそあれ、多少は掛引をするものですから、その邊をよく呑込んでおく必要があります。

愛想をつけるとか、色をつけるとかいつて、緣日では大抵少し位は値を引くものです。どういふ心理か、お客といふものは少しでも値を引けば馬鹿に得をしたやうな氣分になるものですが、そのお客の氣持を心得た商人側の巧妙な作戰とも見られますが、兎も角初めの云値で買ふのはつまりません。といつて、店にもよりますがあまり亂暴な値切り方も考へものです。

緣日で盆栽を買ふコツはまだ澤山ありますが、一々申上げるわけには參りませんから、先づこれ位にしておき、あとはご自身で場數を踏んでご研究になつて下さい。

緣日盆栽とインチキ

前にも申上げましたが、縁日に出る盆栽屋には隨分インチキなのがあります。保込んだものでないものを保込品だといつたり、接木を實生だなどいふのはよくある例ですが、これなどはまだ序の口で、裏へ廻ればもつと〳〵凄いのがあります。

一、古く保込んだやうに見せるために苔を張るといふことは前に述べましたが、苔の張り方に一工夫加へた方法があります。それは苔を乾燥させて細かくもみ、これを土に混ぜて鉢の表面にバラ撒いておくのです。そして一週間乃至十日も經つと苔が根付いてその苔が如何にも古くから生えてゐるやうに見へます。仲々手際の鮮やかなのがあります。

二、幹は手術がし易いのでいろ〳〵のインチキが行はれます。その一つは杉の直幹物で實物の幹の周圍に詰め物をして太くし、外側に他から剝いだ杉皮を貼りつけて幹を太く見ようといふのです。巧妙にやつたものは一寸見分けが困難で、よくこれには引掛るやうです。

その二は幹を硝酸とか硫酸のやうなもので燒いて古木に見せるインチキ、これなども隨分アクドイやり方です。

三、その外まだインチキは澤山あります。例へば根連りだといはれて買つたのが、鉢から引拔いて見たら全然二本の獨立した樹であつたとか、又馬鹿に枝ぶりのよい花着きの多い皐月を一鉢を買つたら、それが一本の樹とばかり思つてゐたのが、豈測らんや二本の樹であつたりするやうな、あまりにも馬鹿〳〵しいインチキも時たまあることをお知らせしておきます。

次に蘭や萬年青のインチキですが、これはまた盆栽などよりもずつと大掛りで、物凄いのがあります。

春蘭の虎斑の入つたものは、高級品とされてゐますが、他の無地葉の春蘭にこの虎斑を人工で拵へるのです。藥を使ふわけですが、それが實によく出來ます。そして一篠二錢位の駄物にこの人工虎斑を加工して本物を粧ひ、十圓か二十圓位で賣つてゐるのを時々見かけます。併しこの虎斑の入つた純系のものは少くも百圓以上はするのですから、緣日などでこれ以下の安値で賣つてゐるものは先づ臭いと思はねばなりません。このやうなインチキはよくある奴ですから柄物を買ふ時は餘程注意が必要です。

萬年青のインチキも蘭に劣りません。これは昔の話ですが、松の霜が非常に流行つた頃に、繪具で駄物萬年青に胡麻斑を書いて賣つた者があるさうで、また玉獅子の流行つた時分は、前日に葉を箸に卷付けて促成の玉獅子を作つて賣付けるといふ工合で、そのインチキぶりは相當なものです。まして、品種名の出鱈目をいふなど朝飯前のことです。又芋腐れ、根腐りなど故障のあるものは、土用がすぎてからでないと一寸分りませんから、兎角商人に乘せられ易いのです。

縁日盆栽の上手な夏越し法

夜店や縁日で買つた盆栽でも鉢で相當に保込んだものであれば、普通の盆栽並に扱へばよろしいわけです。

〔置場〕 先づ置場は、日のよく當る、風通しのよいといふことが第一の條件で、この條件に適ふ所であれば物乾臺でも庭でも差支へありません。

松柏類や石榴などは一日中陽のカン〳〵當る所の方が樹はよく出來ます。併し幾分弱りを見せてゐる樹とかその他の雜木盆栽はすべて、土用に入つてからは午前中だけ陽に當り、午後は幾分蔭る方が安全ですから、西日の當らぬ所におくやうにし、さういふ場所がなければ葭簀などで日除して下さい。草物や石附物、水盤物などは大體これと同じ扱ひでよいと思ひますが、たゞ萬年青は夏の強い光線に當りますと、兎角葉燒を起しますから、これには葭簀を二重位にして、午前中の日射しが強くなつた時（九時頃）から、陽がかげるまで日除する必要があります。蘭では、駿河蘭は萬年青と同じにしますが、素心蘭などは午後からの日除でよろしい。何

の盆栽でも日除をするのは勿論晴天の日に限ることで、曇天の日や雨の降る時はその必要はありません。又日覆は日沒と共に必ず取除いて、夜露を十分に結ばせることが肝要です。

萬年青を初めその他の弱い草物類は強い雨や長雨にはあまり當てぬ方がよろしいし、他の丈夫な盆栽でも、長い雨が降續くと兎角根腐りなどを起し易いものですから、この場合は雨の當らぬ軒下などにおくか、鉢をかしげて水排けを圖つてやる必要があります。

〔灌水〕 灌水は手豆にやつて頂かねばなりません。夏の管理で一番大切なのは灌水で、灌水を怠つては盆栽を枯らすこと火を見るより明らかです。てはどの程度にやるかといふと、物によつて一樣には參りませんが、要するに上土が乾いた時に與へるやうにすれば間違ひありません。回數にしてどの盆栽も晴天の日は一日に二回乃至三回、特に乾くものは四回位水をやらなければならぬ場合もありません。

尙夏の灌水で大切なことは、燒けて熱くなつた鉢に冷い水をかけぬことで、汲んでおいて少し暖くなつた水をかけるやうにします。又日中は葉燒などを起してよくありませんが、朝早くか夕方をそく溫度が下つてから、頭から如露でサツトかけてやりますと、見た眼にも涼しく、盆栽も喜びます。

〔肥料〕 肥料は夏中はどの盆栽も殆んど要らないと思ひます。物によつては與へてもよい盆

栽もありませうが、夏は兎角肥料當りをし易すい時期ですし、まして買つたばかりで樹の狀態もよく分らず、植込の工合も不明なために、樹を枯らす處れが多分にあるからです。尤も入梅前なら與へても差支へありませんが梅雨から土用中はやめて、土用が明けて涼しくなつてから、油粕などの粉をつまんで鉢の隅においてやれば十分でせう。

〔整姿〕 梅雨中は樹が柔かくなつてゐて針金をかけるのに都合のよい時期ですから、大いに行つて差支へありません。併しあまり無理な大手術は避けた方が安全でせう。

芽摘みは適宜行つて頂きます。殊に七月以後に出る土用芽は葉と葉との間隔がありすぎて、殘しては觀賞上面白くないばかりか、徒長枝となつて、他の部の發育の妨げとなりますから、伸び次第に摘取らねばなりません。又全然不用な枝、形を損ふ枝、あまり込合つてゐて通風の防げとなるやうな枝などはどん〳〵切捨て構ひません。

それから葉刈はなるべく避けた方がよいと思ひます。葉刈は葉を小さく込ませるために行ふ重要な作業で、槭、楓、欅、石榴などによく行はれることですが、この葉刈を行ふものは、春から十分に樹を肥して元氣をつけておかなければならぬからです。それでないと、葉刈して後から出る芽は軟弱となり、時には巧く芽の出ぬこともあります。今までどんな風に培養してるたか分らぬ、買つたばかりの盆栽に、葉刈を行ふことは大いに危險で、先づ止した方が安全だと思ひます。

〔害蟲〕 夏は害蟲のよく出る時期ですから必ず怠らずに豫防、驅除に努めねばなりません。常に盆栽をよく見廻り蟲の寄生をなるべく早く見付出すやうに努め、發見次第に手で捕るなり、筆やピンセットで拂ひ落すなり、それでも手に負へない時は藥を用ひて徹底的な驅除法を構じて下さい。

〔花物盆栽〕 皐月や石榴のやうな夏に花の咲くものは、開花中はなるべく水を切らさぬやうに注意し、若し室内に飾るやうな場合は、通風換氣を十分に圖る必要があります。雨にはあまり當てぬ方がいゝでせう。

花が咲終つたならば、早く花粕をきれいに取去り、又亂れた枝に鋏を入れて形を整へます。それから皐月などでは花が終れば直ぐ植替へてやるとよろしい。石榴の中で實を觀るものは、花粕を全部取らずに、適當に殘して實を成らせるやうにします。

〔小品盆栽〕 よく夜店や緣日で十錢から二十錢位の値段で賣つてゐる小さな豆盆栽は、買つて來ても大抵枯れてしまひます。先づ普通の扱ひ方では九分通りは駄目と思つて間違ひはありません。それはこの小品盆栽の殆んど全部が、鉢に植ゑたばかりのものだからです。併し蘇生の道が全然ないわけではなく、根の割合しつかりしてゐるものであれば、次のやうな方法で危機

を切拔けることが出來ます。

先づ置場ですが、日當りの強い處は必ず避けて、棚の下、又は葭簀下のあまり風の強く吹かない處へ鉢を地へ直かにおきます。或はまた鉢から木を土を落さぬやうに拔いて日蔭地に植付けておきます。そしてその後は土が乾けば細目の如露で靜かに灌水する程度の管理をしてやればよろしいのです。かうして夏を無事に越せれば大抵大丈夫で、凉しくなつてから日當りに出して普通に培養してゆきます。

故障が起きた場合の手當

故障の起きる原因はいろ〳〵ありませう。害蟲や病氣に冒されてゐる場合もあるでせうが、緣日盆栽では無理な取扱ひをしたために故障の起きる場合が多いやうです。例へば山から採つて來たばかりのものとか、畑から引拔いて鉢に上げたばかりのもの、或は時期や木の狀態を無視して賣らんがためにその他の亂暴な手を加へたといふやうなことも考へられます。そしてこの中でも夏の植替を强行したために起る故障が一番多いやうです。

そこでこのやうな故障した盆栽の手當ですが、害蟲などがついてゐれば早速驅除することは

申すまでもありません。若し原因不明で衰弱した盆栽は日蔭に取込んでやり、葉水などを與へて暫らく樣子を見ます。そして元氣を回復したら再び徐々に元の場所に出してやります。

これでもなほ回復がはか〳〵しくないやうであれば、それは大抵の場合、根腐りを起したり、土の中に害蟲がひそんでゐるためですから、根をしらべる必要があります。

一體緣日物の數でコナす安物盆栽では、用土もあり合せのものを使用し、勿論土を消毒するなどといふことは殆んど行はれませんし、植込も粗雜ですから、兎角水排けの工合が惡かつたり、土の中に害蟲の卵が入つたりするのです。特に水排け裝置の不完全なものは往々にしてありますから特に注意が肝要です。

土の中にひそんで害をする蟲で恐ろしいのは、ネコガヘルで、これには藥が效きませんから、いち早く樹を鉢から拔いて廻りの土をさぐつて蟲を取去らねばなりません。そして土をきれいに落して新らしい土で植替へてやる必要があります。然しかうした荒療治は、なるべく土用前にすることが大切で、特に松柏類は夏の植替を嫌ひますから、松柏類は日蔭で葉水などを與へて元氣をつけておき、土用が明けてから植替へるやうにします。

根腐りを起してゐる時は、腐つた根だけを切去つてやり、水排けよく植込みますが、餘分に土を落さぬことが大切です。

夏に觀る山草と高山植物

花の美しい山草の類は非常に澤山あります。殆んど數へきれぬほどです。そして彼等の故郷である山では大抵が夏の暑い盛りに花を咲かせるのですが、これを都會へ持つて參りますと、それよりもずつと開花が早くなります。つまり都會では普通四、五月頃から咲き始めて六月一ぱいまでは見られますが、六月を過ぎてまだ咲くものは非常に數が少いやうです。

この現象はどうして起るかと申しますと、それは一に氣候の相違によるためです。つまり高山性の植物は、山にある時は殆んど一年中の大半を雪に閉されてゐて、雪が消えた六、七月頃から八、九月の僅かな期間に芽を出し、花を咲かせ、實を結んでそのまゝ休眠に入ります。所が都會地では山よりもずつと早く暖かくなりますから、芽も早く吹き、開花も早くなるわけです。從つて夏花を觀るものは、特別のものを除いては僅かの間で、大體初夏が主なる觀賞期となります。

併し山草の中には葉も立派な觀賞價値をもつものが澤山あり、そのやうなものは夏でも結

構眺められるものです。

さてそれでは、都會で夏花の見られる山草、葉の美しい山草、又高山性の樹木で盆養に的するものにはどんなものがあるか、次にその主なるものを擧げて見ることに致します。

一、さぎさう（鷺草）都會でも八月を盛りと花を開く夏の山草です。山野の濕地に野生し、葉は蘭のそれに似て長さ二、三寸、晩春の頃尺餘の花莖を抽出して、夏の盛りにその先端に二個乃至三個の花をつけます。その花は白色で、双つの翼を張つて長い嘴を突出し、白い長い尾を曳いて咲く樣は、本當に鷺のやうに綺麗です。

二、ちしまるりさう　千島の產で、葉色が普通のルリサウより遙かに美しい青磁色で、その表面に白毛があり、美しく輝いて見えます。花色は紫で、花と葉との調和が誠によろしい。

三、こまくさ（駒草）葉は細裂し、綠白色を呈してゐます。六、七月の頃二、三本の花莖を持上げてその先端に三個乃至四個の桃色の可憐な花をつけます。花瓣に馬の唇に似た所があるのでこの名があるとか、信州の高山に產するものですが、最近では殆んど採りつくされたかの感があります。培養に一寸コツを要します。

四、いぶきじやかうさう（伊吹麝香草）夏から秋にかけ枝梢に淡紅又は白の小花を群りつけ、その香りが頗る高いので、「ひやくりかう」（百里香）の名があり、香氣の強いのを愛されてゐま

す。性質は割合強健で作り易いものです。

五、いはぎきょう（岩桔梗）我が國の中部から北部にかけて高山の草本帶に產する多年草です草丈僅かに二、三寸で、八、九月頃に葉間から一莖を抽出して、各莖の先端に碧紫色の桔梗花をつけます。非常に美しい花です。種類は岩桔梗のほか千島桔梗、ヒナ桔梗などがあります。

六、ひめしゃじん（姫沙參）姫沙參は北部の高山に產する多年草で、日光地方には特に多いやうです。草丈は一、二寸で平地にあるツリガネニンジンを縮少したやうな形で、夏の頃に莖の先端に澤山の鐘狀の花をむらがりつけます。沙參の類にはこの外に深山シャジン、細葉シャジン、鳳凰シャジンなどがあります。

七、ほととぎす（油點草）ホトトギスは山間の陰地に自生する多年草です。草丈一、二尺となりオホバコに似た葉を互生し、葉の表面に油を落したやうなシミがあります。夏の末から秋にかけて白地に暗紫色の斑點のある花をつけます。種類としては、普通のホトトギスのほかに、ヤマホトトギス、キバナホトトギス、チヤボホトトギスその他があります。

八、いはたばこ　一般によく作られてゐるものです。葉は光澤があり大形で、六日頃紫紺をぼかした星形の徑六、七分の花を一花梗に數輪つけて仲々見事です。その他白地にうすい紫のぼかしのあるもの、或は純白のものなどがあります。葉が大きいために普通の鉢では面白くあ

りませんが、ヘゴに植ゑて小盤に入れると、大形の葉が下向に擲つて出るので非常に雄大な感じで、花がなくとも見られます。

九、たかねなでしこ（高嶺撫子）高嶺ナデシコは、中部以北の高山に產し、草丈は七寸位になり、山野に自生する河川撫子によく似てゐます。花は普通紫紅色ですが、白色の花もあります。

一〇、みやまをだまき（深山小田卷）ミヤマオダマキはヒメオダマキともいひ、信州八ケ岳、白馬山などに自生する多年草で、草丈六、七寸で、普通のオダマキに似て直立してゐて、夏の頃紫白色の奇花をつけます。種類としてはキバナヲダマキ、ヤマヲダマキ、などがあります。

一一、からまつさう　山地に多い多年草で、草丈は二、三尺となり、羽狀の複葉をもち、その葉は小さく廣い楔形で弱々しい感じがします。夏の頃枝の梢に黃白色の小花をむらがりつけ非常に優美です。誰にも好かれる萬人向の山草の一つです。

一二、あさぎりさう（朝霧草）別名をハクサンヨモギとも云ひ、寒地の山地に自生する多年草です。株から多くの莖を叢生し、葉は分岐して絲狀をなし、絲白色で光澤があります。草丈は一、二尺位になり、ぼつさりと茂つた樣は頗る綺麗です。秋には穗を出してその先端に黃色の小花をつけます。普通の朝霧草のほか、北地に產する千島朝霧草（姫朝霧草ともいふ）などがあります。

一三、いはうめ（岩梅）イハウメは常緑の小さな草で草丈は僅か一、二寸、コケモモに似てそれよりも幾分長い葉を密につけ、七月頃から梅に似た白花をつけます。仲々可憐な愛すべき山草です。

一四、いはかがみ（岩鏡）深山の陰地に生ずる多年草で、よく人に知られ、夏の頃夜店などにもヘガシ物をよく見受けます。根際から心臓形の葉を出し、六、七月頃に數個の合瓣花（花瓣の先端が絲狀に切込む）をつけます。花色は淡紅色ですが、稀れに白花もあります。その葉の紅葉も仲々見事です。

一五、むしとりすみれ　中部、北部地方から北海道にかけて自生するもので、多く岩石の裂け目などに根を下してゐます。葉は長さ一寸四、五分位の美しい淡綠色で、外緣が內部に反り返つてをり、葉の表面に粘液があつて、これに蟲がつくと動けなくなるといふので蟲取菫の名があるのです。高山性の菫類はみな花は黃色ですが、これは紫色で、且つ菫としては大きな花です。

一六、まうせんごけ（毛氈苔）茅膏草科の植物で、この科に屬する植物は全部食蟲植物です。マウセンゴケは山麓の濕潤地に生ずる多年草で、杓子のやうな恰好をした淡紅色の葉をもち、葉の表面には澤山の腺毛があつて、小蟲を捕へて消化液を分泌し、蟲を喰べるのです。夏の頃

葉の間から五、六寸の花梗を出して白色の五瓣花を總のやうにつけます。この種類にはコマウセンゴケ、ナガバノマウセンゴケなどがあります。

一七、しだ類（羊齒類）羊齒には澤山の種類がありますが、盆養されてゐる主なものはカミガモシダ、クジヤクシダ、ハコネシダ、チヤセンシダ、ケンリウシダ、ウラジロ、コシダ、ヒメウラジロ、アヲネカヅラ、シマアヲネカヅラ、キクシノブ、シンシランなどです。何れも深山の蔭地や高山の岩上にあるもので、日の當る所にはあまりありません。葉を觀るもので、夏の觀賞に適してゐます。

一八、べにばだいもんじさう（紅葉大文字草）中部の高山の中腹の灌木帶に自生する草で、掌狀の葉をもち、葉は直徑一寸五、六分、葉裏には紅が濃くかゝつて非常に葉の美しいものです。この種類にはウラベニダイモンジサウ、ミヤマダイモンジサウ、ベニバナダイモンジサウなどがあります。

一九、きんろばい　落葉性の灌木で葉は五個の小葉からなる複葉で、毛茸を有してをり、七月頃黃色の梅に似た花を開きます。幹は褐色であるために盆栽としていゝものです。

二〇、きんかうくわ　中部から北部にわたる濕原に自生するもので、葉は石菖に似てそれよりも大きく約三、四寸位で仲々見事です。花は黃色ですが、花よりも葉を觀るもので、秋には紅

葉して一層美觀を增します。

二一、はごろもさう（羽衣草）中部から北海道の草木帶に自生するもので、葉は掌狀をなし、葉の表面には毛茸があり、仲々風韻の高いものです。

二二、しこたんはこべ　一名ナキハコベともいはれます。中部の草木帶に多く見られるもので、葉はナギの葉に似て極く小型で、蔓狀によく繁茂し、葉の表面に白毛があつて美麗です。

二三、しらかば（白樺）ご承知のやうに白樺の肌の白さは他に類のない獨特の趣きがあり、これを何本か盆に寄植すると立派な盆栽となり、特に夏は涼し氣でいゝものです。たゞ山にある盆栽用の種木は、遺憾乍らスンナリしたものが少く、コブ〳〵したものが多いので、盆栽にしても山で見受ける瀟洒な感じは仲々出來ません。そこで近頃では實生してスンナリした盆栽用の種木が澤山賣りに出てゐますから、これを用ひれは、肌の白くなるには相當の年月を要しますが、その代り形のいゝものが出來ます。

二四、しやくなげ（石南）石南の花は三月から五月にかけて開きます。その花は高山の女王といはれるほど高尙優雅なものですが、葉も幹も實に氣品の高いもので、立派な觀賞價値をもつてゐます。盆養される石南は數種ありますがすべて日本の高山に自生するもので、その自生する山の高さによつて赤花石南（喬木地帶）、白花石南（灌木地帶）、黃花石南（山頂）の三つに

分けられます。盆栽に仕立るには山採りの外、實生、接木などによります。

二五、からまつ（落葉松）これには富士松、日光松、新羅松などの別名があります。春の芽出しが非常に美しく、殆んど他に例を見ないほどですが、夏の靑葉も捨難いものです。又その葉は僅か二、三分の長さで幹や枝との調和も大層よろしい。併し一般にあまり流行つてをりませんが、これは夏の暑熱をひどく嫌ふためで、夏は努めて冷凉な所におくことが肝要です。

その他　高山性のものでは蝦夷松、つゝじなどがあります。

山草、高山植物の夏越し法

深山の山腹や溪谷、湖沼のほとり、さては鬱蒼たる森林の中などに生えてゐる山草や高山植物の類を、平地の都會で夏を越させるには少しく無理があります。それは都會地ではどうしても空氣中に塵埃が多く、煤煙などが混つてゐるために非常に汚れてゐることや、濕氣も山のやうに十分でないこともその原因であります。併し何よりも彼等にとつて耐へ難いことは、鐵をも溶かす灼熱の暑さです。